変更項目 大気汚染、騒音・振動

(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業

変 更 届 (工事工程の変更)

令和7年9月

三 井 不 動 産 株 式 会 社宗 教 法 人 明 治 神 宮独立行政法人日本スポーツ振興センター伊 藤 忠 商 事 株 式 会 社

目 次

1.	事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2.	対象事業の名称及び種類1
3.	対象事業の目的及び内容
	3.1 対象事業の内容の概略 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
	3.2 対象事業の目的 2
	3.3 対象事業の内容 2
4.	計画の変更について24
	4.1 計画の変更理由及び概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	4.2 計画の変更内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
5.	計画の変更に伴う予測・評価の見直し
	5.1 見直し項目及びその理由31
	5.2 見直しを行った予測・評価の結論35
	5.3 予測・評価の見直し37
	5.3.1 大気汚染
	5.3.2 騒音・振動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6.	環境影響評価手続等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7.	事後調査計画の変更
	資料編 ······ 81

1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

1.1 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名 称:三井不動産株式会社

代表者:代表取締役社長 植田 俊

所在地:東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

名 称:宗教法人明治神宫 代表者:宫司 九條 道成

所在地:東京都渋谷区代々木神園町1番1号

名 称:独立行政法人日本スポーツ振興センター

代表者:理事長 芦立 訓

所在地:東京都新宿区霞ヶ丘町4番1号

名 称:伊藤忠商事株式会社

代表者:代表取締役 小林 文彦

所在地:東京都港区北青山二丁目5番1号

1.2 代表する事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名 称:三井不動産株式会社

代表者:代表取締役社長 植田 俊

所在地:東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

2. 対象事業の名称及び種類

名 称:(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業 種 類:高層建築物の新築、自動車駐車場の設置

3. 対象事業の目的及び内容

3.1 対象事業の内容の概略

本事業は、東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部に位置する計画地面積約 174,700㎡ の土地に、スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等を主要な用途とする建築物を計画するものである。対象事業の内容の概略は、表 3.1-1 に示すとおりである。

項 Ħ 内 東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部 計 画 地 計画地面積 約174,700m² 延床面積 約560,800m² 最高高さ 約190m 主要用途 スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等 駐車台数 約1,070台 工事予定期間 2023年~2037年(令和5年~<u>令和19年</u>) 供用時期 2037年(令和19年)(全体供用予定)

表3.1-1 対象事業の内容の概略

注2) 今後、関係者協議等により変更になることがある。

注1) 下線部分は変更した事項を示す。

3.2 対象事業の目的

計画地が位置する明治神宮外苑は、創建当時から国民の為のスポーツの場を提供してきた歴史がある。この歴史に加え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会によってもたらされるレガシーを次世代に引き継ぐため、スポーツ拠点としての役割を維持しながらラグビー場・野球場等での競技の継続を図りつつ老朽化した施設を更新し、新たな時代にふさわしいスポーツ施設を途切れることなく整備する必要がある。

上記を踏まえ、東京都は、神宮外苑地区を世界に誇れるスポーツクラスターとして整備するため、長期計画に位置付け、地区一帯のまちづくりに取り組むこととした。東京都は、平成25年3月に「東京都スポーツ推進計画」を、平成30年3月に「東京都スポーツ推進総合計画」を策定するとともに、平成25年6月に「東京都都市計画神宮外苑地区地区計画」を決定し、あわせて都市計画公園の変更(公園区域の再編、立体都市公園の導入)を行った。また、平成30年4月に、「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり検討会」を設置し、まちづくりの方向性や公園まちづくり制度の活用要件等について検討を行った結果、平成30年11月に「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定した。

以上のことから、本事業は、明治神宮外苑の「スポーツ拠点」としてのブランドを次世代につなげるべく、既存のスポーツ施設の役割を尊重しつつ、時代の変化に合わせたスポーツ施設の更新と新たなアクティビティの場を形成し、一体的にスポーツとの親和性が高い地区の形成を図る。また、土地の高度利用化を促進し業務・商業等の都市機能の導入、緑の充実とオープンスペースの形成を図り、魅力ある複合市街地を実現することを目的とする。

3.3 対象事業の内容

3.3.1 位置及び概況

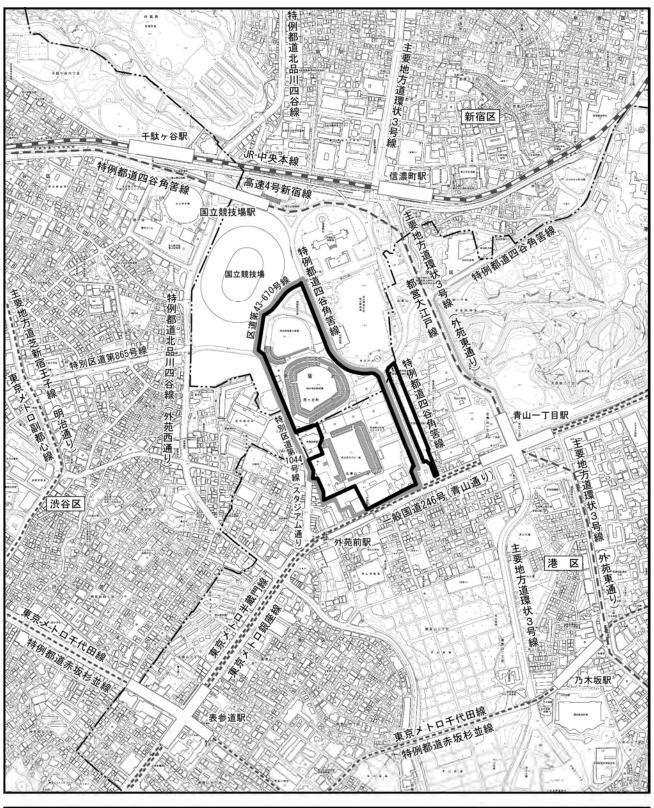
事業区域は、図 3.3-1 及び写真 3.3-1 に示すとおり、港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区 霞ヶ丘町の各一部に位置している。北側には区道第 43-670 号線、東側には特例都道四谷角筈線、南側には一般国道 246 号(青山通り)、西側には特別区道第 1044 号線(スタジアム通り)が通る区域である。

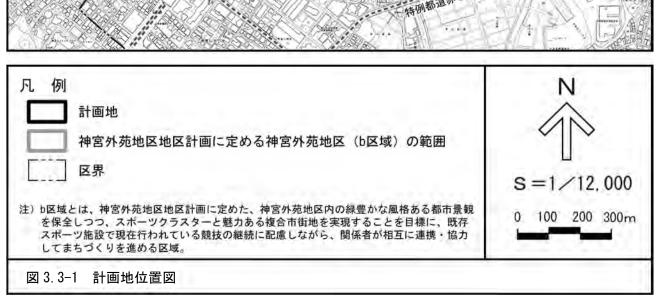
北側には JR 中央本線の「千駄ヶ谷駅」、「信濃町駅」及び都営大江戸線の「国立競技場駅」が位置しており、西側には東京メトロ副都心線が存在する。また、南側には東京メトロ銀座線の「外苑前駅」が位置しており、東側には都営大江戸線、東京メトロ半蔵門線、東京メトロ銀座線の「青山一丁目駅」が存在する。

事業区域内には、現在、明治神宮野球場、神宮第二球場、秩父宮ラグビー場、テニスコート、伊藤忠商事東京本社ビル等があり(図3.3-2(p.5)参照)、用途としては、スポーツ・興行施設、公園・運動場等、事務所建築物、専用商業施設等があり、周辺には、事務所建築物、官公庁施設、教育文化施設、専用商業施設、宿泊・遊興施設、スポーツ・興行施設、独立住宅、集合住宅、倉庫・運輸関係施設、野外利用地・仮設建物、公園・運動場等、森林等がある。

周辺には、一般国道 246 号(青山通り)や一般国道 246 号(青山通り)から国立競技場まで人々を繋ぐ特別区道第 1044 号線(スタジアム通り)など、にぎわいのある通りが隣接する。

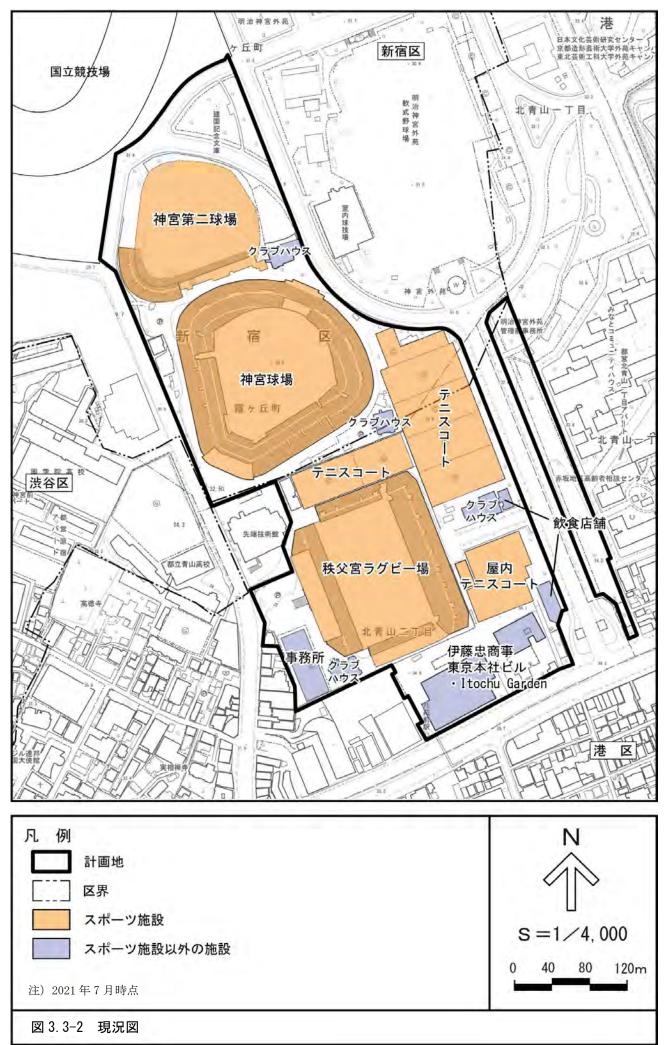
事業区域は、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域及び商業 地域に指定されており、周辺は、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種 住居地域、第二種住居地域、商業地域及び近隣商業地域に指定されている。











3.3.2 事業の基本方針

平成30年11月に東京都が策定した「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」において、まちづくりの目標として、次の3つの拠点性を備えたまちの実現を目指すこととしている。

・将来像1:高揚感のあるスポーツとアクティビティの拠点

・将来像2:歴史ある個性を生かした多様なみどりと交流の拠点

・将来像3:地域特性を生かした魅力的な文化とにぎわいの拠点

これを踏まえ、本事業の整備の基本方針は、以下に示すとおりとした。

(1) 周辺特性を踏まえた適切なゾーニング

当地区の特性であるスポーツ施設の集積及び神宮外苑いちょう並木の象徴性を活かしつつ、地区を活性化し賑わいをもたらす都市機能の導入を図る。

1) 大規模なスポーツ施設エリア

東京体育館・国立競技場から南北に連なる形で、段階建て替えにより一体的なスポーツ施設 エリアを形成する。

2) 魅力ある複合市街地エリア

物販施設や業務施設、ホテル等が立地する一般国道 246 号(青山通り)及び特別区道第 1044 号線(スタジアム通り)沿道は、土地の高度利用と多様な都市機能(業務、商業、住宅、文化・交流施設等)の導入により魅力ある新しい複合市街地を形成する。

3) 緑豊かな憩いエリア

神宮外苑いちょう並木沿道は、聖徳記念絵画館を臨む神宮外苑いちょう並木のビスタを保全するとともに、既存の緑を活かした豊かな緑やアフタースポーツ等を楽しむことのできる憩いの空間を形成する。

(2) 歩行者ネットワークによる回遊性の実現

各施設は多様な特色や機能を持つ歩行者ネットワークによって連携され、公園全体としての一体感と回遊性の向上へ繋げる。

大規模スポーツ施設と地下鉄駅を往来する大量の歩行者を安全かつ円滑に処理するために、青山通りやスタジアム通りへの歩行者動線の分散化をはじめ、複数のルートを効率的に整備することとし、計画地内に新たにラグビー場棟と野球場棟を結ぶ南北の歩行者ネットワークを形成することにより、施設間連携の強化を図り、安全安心で人にやさしい動線を形成する。

また、現在、神宮外苑いちょう並木側とスタジアム通り側の繋がりが希薄なため、散策等が可能な東西の歩行者ネットワークの強化を図る。

(3) 更なる緑・広場の整備によるパブリックスペースの拡充

既存の緑を生かし、あらゆる人が気軽に使えるパブリックスペースの充実性をさらに高め、思わず立ち寄りたくなるような活気ある交流拠点を形成する。

3.3.3 事業の基本計画

(1) 事業の基本的方針

計画地は豊かな自然環境やいちょう並木のビスタを有し、様々なスポーツの拠点として親しまれ、創建 100 年に及ぶ明治神宮外苑は歴史的にも重要な場所である。事業の基本的方針としては青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館へと続く特例都道四谷角筈線沿いの 4 列のいちょう並木 (以降、4 列のいちょう並木と記載)を保全するとともに、緑豊かな風格ある景観を創出し、次の 100 年を見据えた多様な緑化を計画していく方針である。また、事業計画、及び 4 列のいちょう 並木をはじめとする既存樹木の保全状況や樹林地の復元再生状況等についての情報や事業への都民参加の状況等はホームページ等において丁寧に情報公開をしていく方針である。

(2) 配置計画

計画建築物の配置計画は、図 3.3-3 に示すとおりである。計画建築物の断面図は、図 3.3-4(1) $\sim(4)$ に示すとおりである。

計画建築物は、計画地の北側にラグビー場棟、中央に複合棟 A、複合棟 B、文化交流施設棟、野球場棟及び球場併設ホテル棟、南側に事務所棟を配置する計画である。主要な用途は、ラグビー場棟はラグビー場、複合棟 A はオフィス及び商業、複合棟 B は宿泊施設及びスポーツ関連施設、文化交流施設棟は公園支援施設及び商業、野球場棟及び球場併設ホテル棟は野球場及び宿泊施設、事務所棟はオフィス及び商業として計画している。また、計画地の中央に広場を配置するとともに、計画地内にある新宿区道の一部を付け替える計画である。計画地東側の緑地(図 3.3-3 及び図 3.3-8 参照)については緑豊かな空間を維持し保全に努める計画である。

また、災害時のための防災備蓄倉庫、災害用トイレを設ける計画である。

(3) 建築計画

建築計画の概要は、表 3.3-1に示すとおりである。

計画地面積は約174,700m²、延床面積は約560,800m²、最高高さは約190mである。

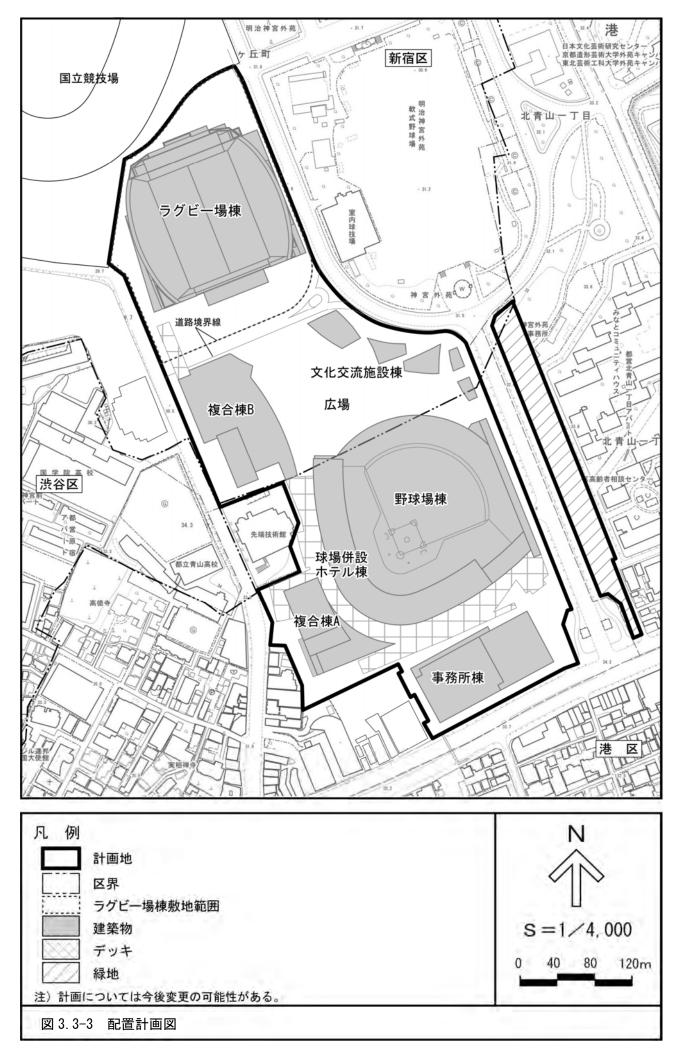
主要な用途は、スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等である。駐車場は約1,070 台を整備する計画である。

完成イメージを図3.3-5に示す。

表 3.3-1 建築計画の概要

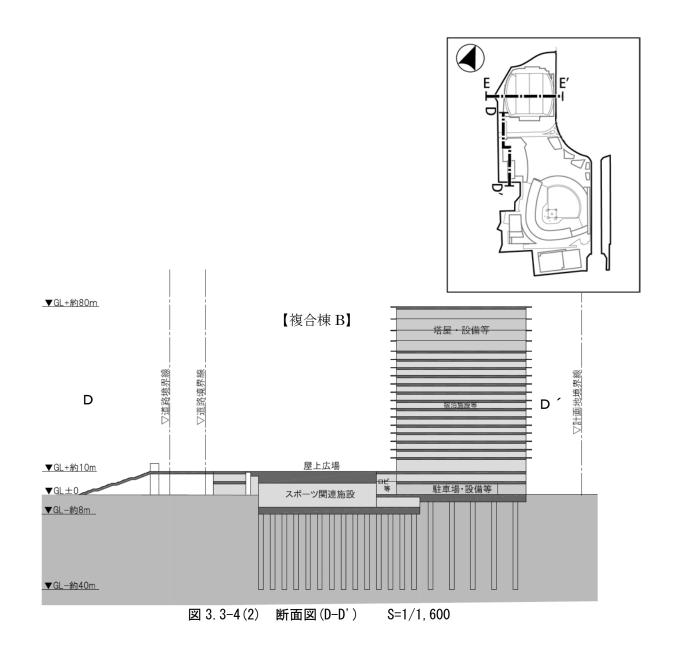
項目	ラグビー場 棟	複合棟A	複合棟B	文化交流 施設棟	野球場棟及 び球場併設 ホテル棟	事務所棟							
計画地面積			約174	700^{2}									
延生五種	約72,500m²	約127,300m²	約30,300m²	約2,000m²	約115,700m²	約213,000m²							
延床面積		合計 約560,800m ²											
最高高さ	約48m	約185m	約80m	約6m	約60m	約190m							
主要用途	ラグビー 場、 文化交流施 設、商業、 駐車場等	オフィス、 商業、 駐車場等	宿泊施設、 スポーツ関 連施設、 駐車場等	公園支援施 設、 商業等	野球場、 宿泊施設、 商業、 駐車場等	オフィス、 商業、 駐車場等							
階数	地上8階 地下1階	地上40階、 地下2階、 塔屋1階	地上18階、 地下1階、 塔屋1階	地上1階	地上14階、 塔屋1階、 地下1階	地上38階、 地下5階							
構造	RC造、S造	S造、SRC造	S造、SRC造	S造、SRC造	RC造、SRC 造	S造、SRC造							
駐車台数		合計 約1,070台											

注) 今後、関係者協議等により変更になることがある。





- 10 -



【ラグビー場棟】

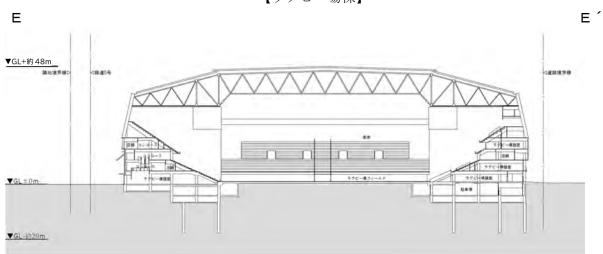
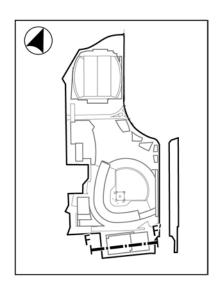


図 3.3-4(3) 断面図(E-E') S=1/1,600



【事務所棟】

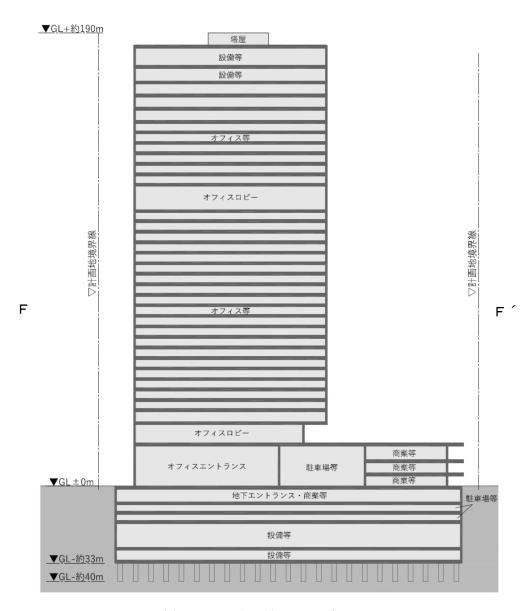


図 3.3-4(4) 断面図(F-F') S=1/1,600



注1) 評価書掲載の完成イメージ図と描画方法を変えている(令和5年10月作成)。絵画館前広場については別事業である。

注 2) 計画については今後変更となる可能性がある。

図 3.3-5 完成イメージ

(4) 発生集中交通量及び自動車動線計画

工事の完了後に出入りする自動車の発生集中交通量は、「大規模開発地区関連交通計画マニュアル(改訂版)」(平成 26 年 6 月 国土交通省都市局)等に基づき、約 4,600 台/日と想定している。スポーツ施設については公共交通機関による利用を想定し、自動車の発生集中交通量は見込まないこととした。想定される関連車両の主な走行ルートは、図 3.3-6 に示すとおり、特例都道四谷角筈線、一般国道 246 号(青山通り)、特別区道第 1044 号線(スタジアム通り)等を利用して、計画建築物に出入りする計画である。なお、計画地北側の区道第 43-670 号線については廃道となる予定である。

交通処理計画については、今後、現況交通量や将来予測交通量等を踏まえて、道路管理者及び 交通管理者等の関係機関との協議を行い決定するものとする。

(5) 駐車場計画

駐車場の台数は、「東京都駐車場条例」(昭和 33 年 10 月東京都条例第 77 号) に基づく附置義務台数以上を基準とし、約 1,070 台を確保する計画である。

(6) 歩行者動線計画

歩行者の動線計画は、図3.3-7に示すとおりである。

計画地の西側を南北に走る一般国道 246 号(青山通り)から国立競技場まで人々を繋ぐ特別区 道第 1044 号線(スタジアム通り)には、都会的で活気のある歩行者ネットワークを形成し、周辺 市街地と当地区を結ぶ玄関口の役割を果たす計画である。

計画地を南北に繋ぐ動線としては、ラグビー場棟と野球場棟を結ぶ歩行者ネットワークの形成により、施設間連携の強化を図り、歩行者空間を立体的に整備することで、歩車分離によるバリアフリーかつ安全安心で人にやさしい動線を形成する。

青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館を繋ぐ動線として、神宮外苑いちょう並木の本来の象徴性を保全するとともに、明治神宮外苑の玄関口としてふさわしい活気に溢れた歩行者動線を形成する。

また、現在、神宮外苑いちょう並木側とスタジアム通り側の繋がりが希薄なため、散策等が可能な東西の歩行者ネットワークの強化を図る計画である。

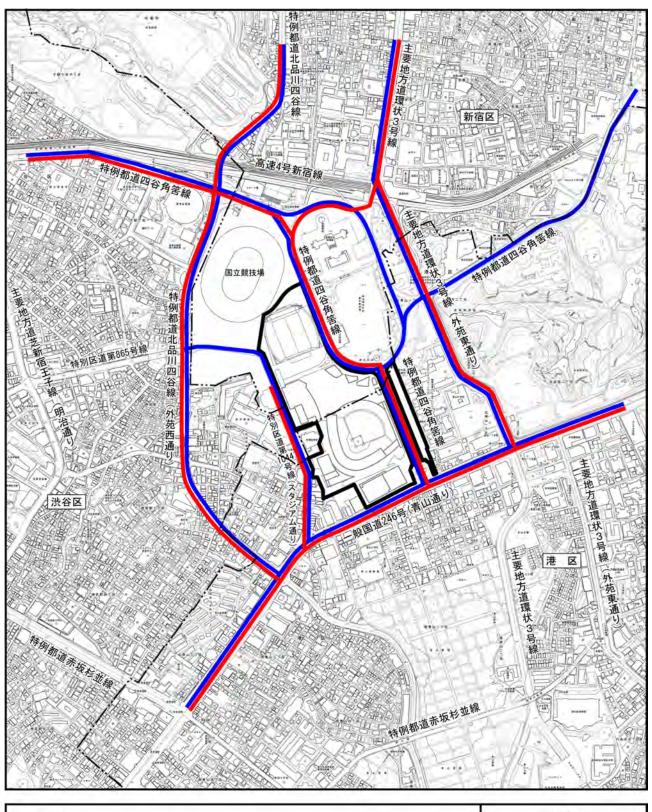
(7) 給排水計画

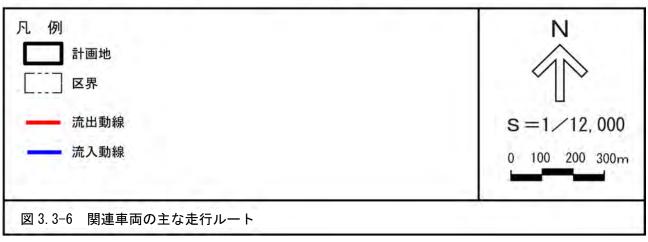
上水は公共上水道を利用し、汚水は公共下水道へ放流する。雨水に関しては、「新宿区雨水流出抑制施設の設置に関する要綱」(平成元年10月)、「港区雨水流出抑制施設設置指導要綱」(平成5年11月港土計第333号)に基づき、今後関係機関と協議し、雨水貯留槽等の雨水流出抑制施設の設置を行い、放流量の調整を行う。また、雨水貯留槽等の設置にあたっては、東京都の「建築物における排水槽等の構造、維持管理等に関する指導要綱」(平成16年12月16環改計第298号)及び「ビルピット臭気対策マニュアル」(平成24年3月 東京都環境局)に基づき設置・維持管理を行う。

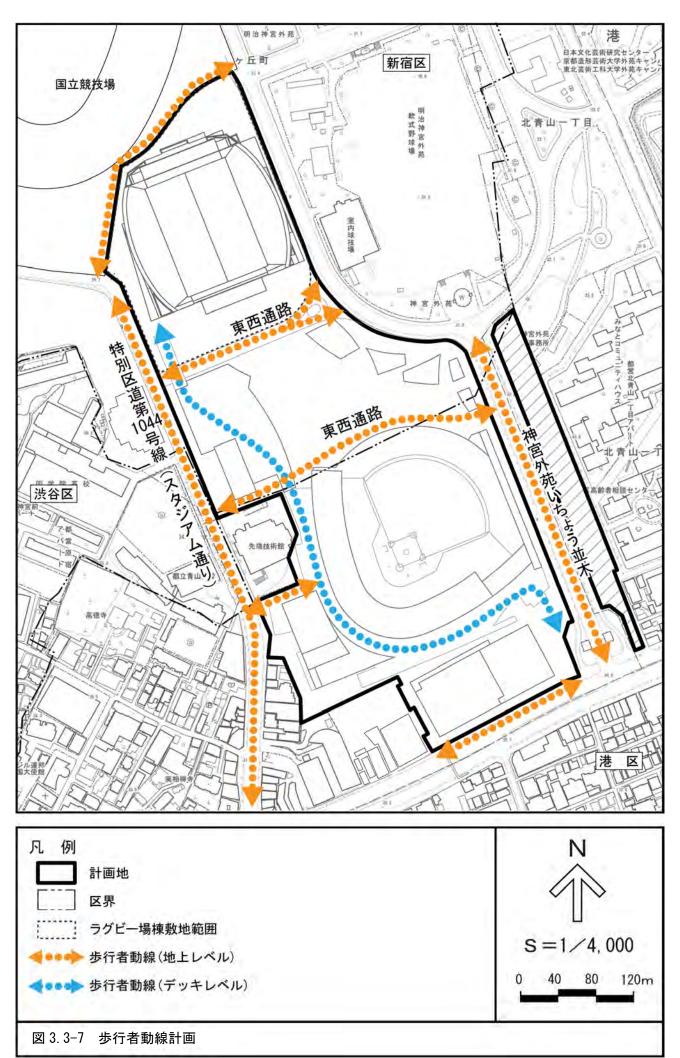
(8) 熱源計画

熱源設備として、地域冷暖房施設、中央熱源及び個別熱源を整備する計画である。本事業の施

設で使用するエネルギーは、電気及び都市ガスを計画しており、業務、商業施設等で利用する熱源については極力集中化を図り、効率的なエネルギーシステムを採用する計画である。







(9) 廃棄物処理計画

建設工事に伴い発生する建設廃棄物及び建設発生土は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」 (昭和45年12月法律第137号)、「資源の有効な利用の促進に関する法律」(平成3年4月法律 第48号)、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月法律第104号)等 に基づき、再生利用可能な廃棄物及び掘削土砂については積極的にリサイクルに努め、リサイク ルが困難なものについては適切な処理を行うこととする。

石綿含有材料を使用する建築物等が確認された場合には、「大気汚染防止法」(昭和 43 年 6 月 法律第 97 号)、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」(平成 12 年 12 月東京都条例第 215 号)(以下「環境確保条例」という。)または、「港区建築物の解体工事等の事前周知等に関す る要綱」(平成 20 年 4 月 20 港環建第 22 号)、「建築物の解体等に係る石綿(アスベスト)飛散防 止対策マニュアル」(令和 4 年 3 月 東京都)に基づき遵守事項等に従い、飛散防止に努めると ともに、適切に処理する。

また、伐採した樹木はベンチや記念品等の製作、木質歩道や堆肥・ウッドチップ等として活用する。

工事の完了後に発生する一般廃棄物及び飲食店等から発生する産業廃棄物については、「東京都廃棄物条例」(平成4年6月東京都条例第140号)、「新宿区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例」(平成11年12月新宿区条例第51号)、「港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例」(平成11年12月港区条例第33号)等を踏まえて、関係者への啓発活動によりその排出量の抑制に努めるとともに、分別回収を行い、資源の有効利用と廃棄物の減量化を図ることとする。

(10) 緑化計画

緑化計画図は、図3.3-8に、緑化のイメージは、図3.3-9に示すとおりである。

緑化に際しては、新宿御苑から赤坂御用地へと連続する骨格的なまとまりのあるみどりを維持・保全するとともに、スポーツ施設の周辺には、多種多様な活動を促す開放的な広場空間を整備し、人溜まり空間の確保にも配慮したものとする。また、歩行者動線とも連携して芝生や高木等を配置し、地区特性に応じたメリハリのある緑化を推進する。

整備方針としては、4列のいちょう並木を保存するとともに、緑地(並木東側)や神宮外苑広場(建国記念文庫)等の既存樹木を存置もしくは移植により極力残す計画とすることにより、みどりと一体の景観を形成する。神宮外苑広場(建国記念文庫)等の緑地については一部改変されるが、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りにおいて、神宮外苑広場(建国記念文庫)からの移植樹木を基調としつつ、新たに新植樹木も配置することで、次の100年に受け継ぐ緑地環境を整備し、神宮外苑広場(建国記念文庫)の樹林及び生態系を復元する計画である。また、デッキレベルの南北通路と地上の広場が一体となることによる高低差を活用し、施設と広場がシームレスにつながり、多様なアクティビティが可能となる広場を整備する。

緑化計画は、表 3.3-2 に示す「港区みどりを守る条例」(昭和 49 年 6 月港区条例第 29 号)、「新宿区みどりの条例」(平成 2 年 11 月新宿区条例第 43 号)、「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」(平成 30 年 11 月 東京都)、「東京都都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準(都市開発諸制度の緑化チェックシート)」、「東京都風致地区条例による緑化基準」の緑化基準を遵守する緑化計画とする。

植栽予定樹種については、「植栽時における在来種選定ガイドライン~生物多様性に配慮した 植栽を目指して」(平成 26 年 5 月 東京都)及び「生物多様性緑化ガイド」(平成 28 年 1 月 港区) 等を参考に選定する計画とする。なお、「東京における自然の保護と回復に関する条例」(平成 12 年 12 月東京都条例第 216 号)の緑化計画書の届出等(第 14 条)については、港区及び新宿区は 同条例第 57 条により適用を受けない。

事業の実施にあたっては、緑化整備について下記の事項を留意することで緑の保全に努める。

- ・工事の施行にあたっては、保存する4列のいちょう並木の生育に影響が及ばないよう、計画 建物の地下躯体の配置等に配慮する。
- ・4 列のいちょう並木のうち西側 1 列については、設計者、樹木医、事業者が一体となり、継続して根系調査を実施するとともに、根系の状態に応じた基礎構造、施工方法等を精査する。
- ・今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹木の生育に影響が及ばないよう、既存 樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に配慮する。
- ・ラグビー場棟については、景観形成の観点から圧迫感の緩和を実現しつつ、既存樹木の保全・ 配慮を目指したデザインとする。設計・施工両面で工夫することにより、存置及び移植樹木 を増やす計画とし、自然環境の保全に努める。
- ・ラグビー場棟の東側及び北西側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の存置や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮し、 設計・建設等の各段階において関係機関と協議を行う。
- ・樹木の根周りが歩行者等により踏み固められないよう、歩行可能な場所を限定し、樹木の保 全に努める。
- ・計画地中央部の広場空間と連続する文化交流施設棟及びラグビー場棟南側の緑地については、 文化交流施設棟の高さを抑えることにより、日照の確保及び緑の生育促進に努める。

- ・樹木の移植及び新植にあたっては、植付に適した時期に留意するとともに、必要に応じて事前に適切な時期に根回しを行っていく。
- ・移植樹木及び新植樹木に支柱を設置し、根の活着を図るとともに、倒木、傾き等を防止する。
- ・新植樹木は、既存樹木の樹種を参考にして植栽種を選定する。



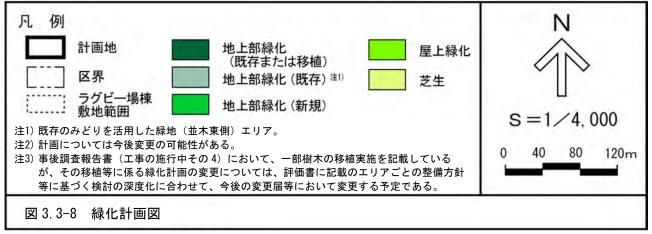


表 3.3-2 計画緑化面積及び必要緑化面積

根拠法令	計画緑化面積	必要緑化面積
	【緑化面積】	・基準緑化面積
	約 29, 032m ^{2 注 1)}	約 25,892m ²
┃ 「港区みどりを守る条例」	【地上部緑化面積】	
「福屋のたこうをする木内」	約 18,554m ^{2 注 1)}	
	【接道部緑化延長】	基準接道部緑化延長
	約 720m	約 665m
	I AT II . TATE	++ <i>Mb</i> (-7 1)
	【緑化面積】	・基準緑化面積
	約 9, 217m ²	約 9,036m ²
	【地上部緑化面積】	
「新宿区みどりの条例」	約 6, 546m ²	
	7, 4, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5,	
	【接道部緑化延長】	• 基準接道部緑化延長
	約 503m	約 446m
	【人き」が引んてごま】	ヘラッコルサ※セプな
	【合計緑化面積】	 合計緑化基準面積 45.00, 400, 2
「東京都都市開発諸制度に	約 31, 701m ²	約 29, 423m ²
基づく再開発等促進区の緑	【建築物上緑化面積】	建築物上緑化基準面積
化基準」	約 9, 311m ^{2 注 2)}	約 12, 169m ²
「東京 2020 大会後の神宮外	7, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
苑地区のまちづくり指針」	【地上部緑化面積】	・地上部緑化基準面積
	約 22, 390m ²	約 17, 254m²
	【合計緑化面積】	・合計緑化基準面積
	約 30, 705m ²	約 23, 568m ²
	7.5 50, 100m	71.5 20, 000m
「東京都風致地区条例によ	 【建築物上緑化面積】	
る緑化基準」	約 1, 128m ²	
	【地上部緑化面積】	
	約 29, 577m ²	
】 注 1) 東京邦市関及契制度に其べく国		

注 1) 東京都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準については、合計緑化面積が基準に適合しているかで判断される。

注 2) 計画地全体の緑化面積を記載しているため、港区みどりを守る条例の対象とならない並木東側敷地の緑地面積も含む。

注3)緑化面積については、各施設の確認申請時の敷地や建築面積に応じて数字が確定するが、現在、詳細について検討中であるため、現時点では評価書時の数字を記載している。



図3.3-9 緑化のイメージ (広場)

4. 計画の変更について

4.1 計画の変更理由及び概要

各施設ごとの工事工程について検討を進めた結果、全体工事工程を令和 5 年 2 月~令和 17 年 10 月から令和 5 年 2 月~令和 19 年 8 月に変更する。

以上の変更を踏まえ、東京都環境影響評価条例第62条に基づき変更届を提出するものである。

4.2 計画の変更内容

4.2.1 工事工程の変更

前述のとおり、全体工事工程を令和 5 年 2 月~令和 17 年 10 月から令和 5 年 2 月~令和 19 年 8 月に変更する。変更前後の工事工程は表 4.2 -1(1) -(2) 及び表 4.2 -2 に示すとおりである。なお、施工方法等に変更はない。

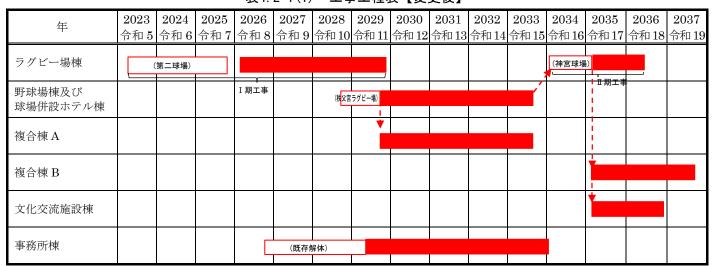


表4.2-1(1) 工事工程表【変更後】

: 解体工事(赤色部分は変更箇所)

: 新築工事(赤色部分は変更箇所)

表4. 2-1 (2) 工事工程表【変更前(変更届(2024年9月)】 年 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2032 2033

年	2023 会和 5	2024 会和 6	2025 会和 7		2027 会和 9	2028 会和 10		2030 会和 19		2032 会和 14	2033 会和 15		2035 令和17
ラグビー場棟	(第二球		11 11 1	11/11/0	11/11/0	13/TH 10	13/1H II	13/H 12	174110	(神宮王		11/11/10	13/10/11
野球場棟及び 球場併設ホテル棟					(秩父宮ラグビ	-場)							
複合棟 A													
複合棟 B											_		
文化交流施設棟													
事務所棟	(既存	解体)											

: 解体工事

: 新築工事

表4.2-2 工事工程表

		変更後	変更前
ラグビー場棟 Ⅰ期工事	解体	令和5年2月~令和7年10月 (33ヶ月)	令和5年2月~令和6年3月 (14ヶ月)
(予測時期②)	新築	令和8年2月~令和11年11月 (46ヶ月)	令和8年2月~令和11年12月 (47ヶ月)
ラグビー場棟 Ⅱ期工事	解体	令和 16 年 2 月~令和 17 年 2 月 (13 ヶ月)	令和14年4月~令和15年4月 (13ヶ月)
(予測時期④)	新築	令和 17 年 3 月~令和 18 年 5 月 (15 ヶ月)	令和 15 年 5 月~令和 16 年 12 月 (20 ヶ月)
野球場棟及び球場併設ホテル棟	解体	令和 10 年 10 月~令和 11 年 9 月 (12 ヶ月)	令和9年4月~令和10年3月 (12ヶ月)
(予測時期③)	新築	令和 11 年 10 月~令和 15 年 9 月 (48 ヶ月)	令和 10 年 4 月~令和 14 年 3 月 (48 ヶ月)
複合棟 A(予測時期③)	新築	令和 11 年 10 月~令和 15 年 9 月 (48 ヶ月)	令和 10 年 4 月~令和 14 年 3 月 (48 ヶ月)
複合棟 B (予測時期④)	新築	令和 17 年 3 月~令和 19 年 8 月 (30 ヶ月)	令和 15 年 5 月~令和 17 年 10 月 (30 ヶ月)
文化交流施設棟 (予測時期④)	新築	令和 17 年 3 月~令和 18 年 11 月 (21 ヶ月)	令和 15 年 5 月~令和 17 年 1 月 (21 ヶ月)
事務所棟	解体	令和8年9月~令和11年4月 (32ヶ月)	令和5年2月~令和6年10月 (21ヶ月)
(予測時期①)	新築	令和 11 年 5 月~令和 16 年 1 月 (57 ヶ月)	令和6年11月~令和10年10月 (48ヶ月)

4.2.2 建設機械及び工事用車両の変更

(1) 建設機械

「4.計画の変更について 4.1 計画の変更理由及び概要」に記載したとおり、事務所棟、ラグビー場棟、野球場棟及び球場併設ホテル棟、複合棟 A、複合棟 B、文化交流施設棟の工事工程が変更となる。ただし、表 4.2-1 に示すとおり、大気汚染及び騒音・振動の予測対象期間(大気汚染及び騒音・振動が最大となる期間)における汚染物質排出量や建設機械の稼働台数に変更はない(変更前後の月毎の建設機械の台数は資料編 p.83~105 参照)。

大気汚染及び騒音・振動の予測対象期間は表 4.2-2~3 に示すとおりである。

表4.2-1 建設機械の稼働台数等

	項目		変更後	変更前 (評価書時)	備考			
		予測時期①	79~90 ヶ月目(NOx) 79~90 ヶ月目(SPM)	26~37 ヶ月目 (NOx) 26~37 ヶ月目 (SPM)				
	最大と なる	予測時期②	3~14ヶ月目 (NOx) 3~14ヶ月目 (SPM)	3~14 ヶ月目 (NOx) 3~14 ヶ月目 (SPM)				
	年間	予測時期③	81~92 ヶ月目(NOx) 76~87 ヶ月目(SPM)	63~74 ヶ月目(NOx) 58~69 ヶ月目(SPM)				
大気 汚染		予測時期④	142~153 ヶ月目(NOx) 138~149 ヶ月目(SPM)	120~131 ヶ月目(NOx) 116~127 ヶ月目(SPM)	大気汚染			
	汚染	予測時期①	6,843m³ (NOx) 443kg (SPM)	6,843m³ (NOx) 443kg (SPM)	予測対象 期間			
	物質	予測時期②	8,128m³ (NOx) 604kg (SPM)	8,128m³ (NOx) 604kg (SPM)				
	排出量	予測時期③	15,027m³ (NOx) 947kg (SPM)	15,027m³ (NOx) 947kg (SPM)				
	(年間)	予測時期④	$11.860 \text{m}^3 \text{ (NOv)}$ $11.860 \text{m}^3 \text{ (NOv)}$					
		予測時期①	60 ヶ月日 (解休時) 16 ヶ月日 (解休時)					
	最大と	予測時期②	11 ヶ月目(解体時) 39 ヶ月目(新設時)					
	なる 月	予測時期③	76~77 ヶ月目(解体時) 83 ヶ月目 (新設時)	~77 ヶ月目(解体時) 58~59 ヶ月目(解体時)				
騒音・		予測時期④	139~142 ヶ月目(解体時) 154 ヶ月目 (新設時)	117~120 ヶ月目(解体時) 132 ヶ月目 (新設時)	騒音・振動			
振動		予測時期①	29 台/日(解体時) 29 台/日(新設時)	29 台/日(解体時) 29 台/日(新設時)	予測対象 期間			
	建設機	予測時期②	55 台/日(解体時) 33 台/日(新設時)	55 台/日(解体時) 33 台/日(新設時)				
	械稼働 台数	予測時期③	55 台/日 (解体時) 59 台/日 (新設時)					
		予測時期④	56 台/日 (解体時) 52 台/日 (新設時)					

注)上段の数字は窒素酸化物が最大となる1年間。下段の数字は浮遊粒子状物質が最大となる1年間。

表4.2-2(1) 予測時期(建設機械の稼働:大気汚染)【変更後】

年	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
+	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和 10	令和 11	令和 12	令和 13	令和 14	令和 15	令和 16	令和 17	令和 18	令和 19
月数	1	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132	144	156	168
ラグビー場棟															
一期		(第二球場	j)						予測時	期③					
野球場棟及び	V/////	<u> </u>													
球場併設ホテ		→ 3Bit n	+ ++n 🔘		(5	失父宮 ラグ	ビー場)	000000							
ル棟		一一一一一	身期②					88//							
160 A 1.10 .								2007					之 、油口时	:## <i>(</i>)	
複合棟 A							8	922/A	l				予測時	F 朔(生)	
ラグビー場棟							-1111					7//			
二期												(神宮球場	易)		
— <i>79</i> 1							$\angle ////$	//:-							
複合棟 B			複合	影響の言	予測期間										
			(予測	結果は	資料編り	こ掲載)									
文化交流施設															
棟									測時期	1					
事務所棟					(既存	解体)									
								887							

: 解体工事: 新築工事

表4.2-2(2) 予測時期(建設機械の稼働:大気汚染)【変更前(評価書時)】

年	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 令和 8	2027 令和 9	2028 令和 10	2029 令和 11	2030 令和 12	2031 令和 13	2032 令和 14	2033 令和 15	2034 令和 16	2035 令和 17
月数	1	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132	144
ラグビー場棟 一期	(第二球	:場)					予測	時期③					
野球場棟及び 球場併設ホテ ル棟	予测	則時期②		(秩父	宮ラグビー	-場)							
複合棟 A											予? 	則時期④)
ラグビー場棟 二期)予測期							(神宮:	球場)		
複合棟 B	(子	測結果	は資料額	幕に掲載									
文化交流施設 棟				予測時期	A(I)								
事務所棟	(既存	解体)		0									

: 解体工事: 新築工事

表4.2-3(1) 予測時期(建設機械の稼働:騒音・振動)【変更後】

		20.1	- (-)	, ,,,,		~ 1/2 1/2	4 100 4 4 10	3.1-03		3,51-73,					
年	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 令和 8	2027 令和 9	2028 会和 10		2030 会和 12	2031 会和 13	2032 会和 14	2033 令和 15	2034 会和 16	2035 会和 17	2036 会和 18	2037 会和 19
月数	1	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132	144	156	168
ラグビー場棟 一期		(第二球場	1)					予測	時期③						
野球場棟及び 球場併設ホテ ル棟		予測時期	#2		(₹	*父宮ヲグ	ビー場)								
複合棟 A													予測時	F期④	
ラグビー場棟 二期				予測期 は資料編			zan					(神宮球均	易)		
複合棟 B							gazz								
文化交流施設 棟							222	予測時	期①						
事務所棟					(既存的	解体)	7 2								

: 解体工事 : 新築工事

表4.2-3(2) 予測時期(建設機械の稼働:騒音・振動)【変更前(評価書時)】

	2X T. Z	0 (2)	1 1/1/1-	., 16/1.	~- 1/2	1/20 02 12		ДП .	水 当月 /		1.1 (1.1		/ 4
年	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 令和 8	2027 令和 9	2028 会和 10	2029 会和 11	2030 会和 12	2031 会和 13	2032 令和 14	2033 会和 15	2034 会和 16	2035 会和 17
月数	1	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132	144
ラグビー場棟 一期	(第二)	場)	3				_予測師	 芽期③					
野球場棟及び 球場併設ホテ ル棟	子	則時期②	77772	(秩父	宮ラグビー	場)							
複合棟 A			m								予	測時期(4
ラグビー場棟 二期	71111		22222	L	影響の 結果は					(神宮	球場)		
複合棟 B	7777		7222										
文化交流施設 棟			.? - ₹	測時期	1)							a a	
事務所棟	(既有	解体)	8										

: 解体工事 複合影響の予測期間(振動) : 新築工事 (予測結果は資料編に掲載)

(2) 工事用車両

変更前の施工計画では、表 4.2-4 に示すとおり、工事用車両台数が最大となる月における1日 あたりの工事用車両台数は、予測時期①において630台、予測時期②において715台、予測時期 ③において685台であった。

変更後は、工事工程が変更となることにより、予測時期①及び予測時期②における工事用車両台数が最大となる月の1日あたりの工事用車両台数が変更となり、1日あたりの工事用車両台数は予測時期①で465台(小型車0台、大型車465台)に減少し、予測時期②で875台(小型車0台、大型車875台)に増加する。

予測時期③においては、工事用車両台数が最大となる月の1日あたりの工事用車両台数に変更はない(変更前後の月毎の工事用車両の走行台数は資料編p.107~117参照)。

大気汚染及び騒音・振動の予測対象期間は表 4.2-5 に示すとおりである。

表4.2-4 工事用車両の走行台数

項目			変更後	変更前 (評価書時)	備考		
	最大とな	る月	49~68 ヶ月目	32~50 ヶ月目			
予測時期	1日あたり 台数	小型車	0 台	0台			
1		大型車	465 台	630 台			
	口奴	合計	465 台	630 台			
	最大となる月		89~108 ヶ月目	71~84 ヶ月目			
予測時期	1日あたり 台数	小型車	0 台	0台	大気汚染、		
2			大型車	875 台	715 台	騒音・振動 予測対象月	
		合計	875 台	715 台			
	最大とな		154 ヶ月目	132 ヶ月目			
予測時期	1日あたり	小型車	0 台	0台			
3		日日めたり	大型車	685 台	685 台		
	口奴	合計	685 台	685 台			

表4.2-5(1) 予測時期(工事用車両の走行:大気汚染及び騒音・振動)【変更後】

年	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 令和 8	2027 令和 9	2028 令和 10		2030 令和 12	2031 令和 13	2032 令和 14	2033 令和 15		2035 令和 17		2037 令和 19
月数	1	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132	144	156	168
ラグビー場棟 一期		(第二球場)												
野球場棟及び 球場併設ホテ ル棟					(3		ビー場)						1111	予測時期	13
複合棟 A															
ラグビー場棟 二期				予	則時期(] 子	測時期	2				(神宮球均]		
複合棟 B															
文化交流施設 棟															
事務所棟					(既有	[

: 解体工事: 新築工事

表4.2-5(2) 予測時期(工事用車両の走行:大気汚染及び騒音・振動)【変更前(評価書時)】

2X T. Z C		1 1/1/1-1	791 (— III. V P .	√ _] .			, MA II	3/2(24)		<u></u> ,	
年	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 令和 8	2027 令和 9	2028 令和 10	2029 令和 11	2030 令和 12	2031 令和 13	2032 令和 14	2033 令和 15	2034 令和 16	
月数	1	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132	144
ラグビー場棟 一期	(第二球	(場)											
野球場棟及び 球場併設ホテ ル棟				(秩父)	宮ラグビー	場)							
複合棟 A		予測時	期①								予測	時期③	
ラグビー場棟 二期						予	則時期(2)		(神宮	球場)		
複合棟 B												a a	
文化交流施設 棟													
事務所棟	(既存	解体)											

: 解体工事: 新築工事

5. 計画の変更に伴う予測・評価の見直し

5.1 見直し項目及びその理由

「4. 計画の変更について」に示した事業計画の変更に伴い、表 5. 1-1 に示すとおり、予測・評価の見直しが必要となる項目の抽出を行った。

表5.1-1(1) 予測・評価の見直しの必要性

環境影響評	延価の項目	予測事項	見直しの 必要性	理 由
大気汚染	工事の 施行中	建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	×	工事工程が変更となるものの、予測条件であるピーク時の建設機械台数及び汚染物質排出量に変更はなく、二酸化窒素の将来濃度(年間98%値)は予測時期①~④で0.047~0.054ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度(2%除外値)は予測時期①~④で0.046~0.050mg/m³であることに変更はないため、予測の見直しは行わない。ただし、工事期間全体におけるピーク時の建設機械台数は変更となるため、参考として再予測結果を資料編p.119~124に示した。
		工事用車両の走行に伴い 発生する二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質の大気中 における濃度	0	予測条件である予測時期②の工事用車両台数に変更があるため、予測の見直しを行う。 予測時期①及び予測時期③については予測条件である工事用車両台数は同程度または減少しており、予測の見直しは行わない。
	工事の 完了後	関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	×	予測条件である発生集中交通量に変更はなく、二酸化窒素の将来濃度(年間 98%値) 0.041~0.042ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度(2%除外値) 0.043~0.044mg/m³に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		地下駐車場の供用に伴い 発生する二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質の大気中 における濃度	×	予測条件である発生集中交通量等に変更はなく、二酸化窒素の将来濃度(年間98%値)0.043ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度(2%除外値)0.045mg/m³に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の大気中における濃度	×	予測条件である熱源施設の諸元等に変更 はなく、二酸化窒素の将来濃度 (年間 98% 値) 0.046ppm に変更はないため、予測の 見直しは行わない。

表5.1-1(2) 予測・評価の見直しの必要性

環境影響評	価の項目	予測事項	見直しの 必要性	理由
騒音・振動	工事の施行中	建設機械の稼働に伴う建設作業の騒音・振動	×	工事工程が変更となるものの、予測条件である各予測時期のピーク時の建設機械台数、施行範囲及び建設機械の稼働位置に変更はなく、予測時期①~④の建設作業騒音レベル(Las)は解体時で73~77dB、新設時で75~80dB、予測時期①~④の建設作業振動レベル(L10)は解体時で53~55dB、新設時で51~55dBであることに変更はないため、予測の見直しは行わない。ただし、工事期間全体におけるピーク時の建設機械台数は変更となるため、参考として再予測結果を資料編p.125~129に示した。
		工事用車両の走行に伴 う道路交通の騒音・振 動	0	予測条件である予測時期②の工事用車両台数に変更があるため、予測の見直しを行う。 予測時期①及び予測時期③については予測条件である工事用車両台数は同程度または減少しており、予測の見直しは行わない。
	工事の 完了後	関連車両の走行に伴う 道路交通の騒音・振動	×	予測条件である発生集中交通量に変更はなく、 道路交通の騒音レベル (L_{Aeq}) は昼間 $62\sim71dB$ 、 夜間 $56\sim69dB$ 、道路交通の振動レベル (L_{10}) は昼間 $37\sim52dB$ 、夜間 $35\sim48dB$ であることに変更 はないため、予測の見直しは行わない。
		施設の供用に伴う騒音	×	施設計画に変更は生じないため、予測の見直し は行わない。
土壤汚染	工事の施行中	汚染土壌の掘削・移動 等に伴う土壌への影響 の内容及び程度	×	予測条件である掘削範囲及び環境保全のため の措置に変更はないため、予測の見直しは行わない。
地盤	工事の施行中	掘削工事に伴う地盤の 変形の範囲及び程度 掘削工事に伴う地下水 の水位及び流況の変化 による地盤沈下の範囲 及び程度	× ×	予測条件である掘削範囲、施工方法及び施工深 さに変更はないため、予測の見直しは行わな い。
	工事の完了後	地下構造物の存在等に 伴う地下水の水位及び 流況の変化による地盤 沈下の範囲及び程度	×	予測条件である地下構造物の位置に変更はないため、予測の見直しは行わない。
水循環	工事の 施行中	掘削工事に伴う地下水 の水位及び流況の変化 の程度	×	予測条件である掘削範囲、施工方法及び施工深 さに変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の 完了後	地下構造物の存在等に 伴う地下水の水位及び 流況の変化の程度	×	予測条件である地下構造物の位置に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		土地の改変に伴う地表 面流出量の変化の程度	×	予測条件である土地利用計画に変更はないため、予測の見直しは行わない。

表5.1-1(3) 予測・評価の見直しの必要性

環境影響評価	価の項目	予測事項	見直しの 必要性	理 由
生物·生態 系	工事の 完了後	植物相及び植物群落の 変化の内容及びその程 度	×	予測条件である既存樹木の本数や植物の種類 (注目される植物種を含む)、動物の種類(注目 される動物種を含む)や、緑地及び生態系のネ
		動物相及び動物群集の 変化の内容及びその程 度	×	ットワーク、緑の量等の予測条件に変更は生じ ないため、予測の見直しは行わない。
		生息(育)環境の変化の 内容及びその程度	×	
		緑の量の変化の内容及 びその程度	×	
		都市域生態系の変化の 内容及びその程度	×	
日影	工事の完了後	冬至日における日影の 範囲、日影となる時刻、 時間数等の日影の状況 の変化の程度	×	建物計画に変更は生じないため、予測の見直し は行わない。
		日影が生じることによ る影響に特に配慮すべ き施設等における日影 となる時刻、時間数等 の日影の状況の変化の 程度	×	
電波障害	工事の 完了後	建築物等の設置による テレビ電波の遮へい障 害及び反射障害	×	建物計画に変更は生じないため、予測の見直し は行わない。
風環境	工事の完了後	平均風向、平均風速及 び最大風速等の突風の 状況並びにそれらの変 化する地域の範囲及び 変化の程度	×	建物計画に変更は生じないため、予測の見直しは行わない。
景観	工事の 完了後	主要な景観の構成要素 の改変の程度及びその 改変による地域景観の 特性の変化の程度	×	建物計画に変更は生じないため、予測の見直し は行わない。
		代表的な眺望地点から の眺望の変化の程度	×	
		圧迫感の変化の程度	×	

表5.1-1(4) 予測・評価の見直しの必要性

環境影響評	価の項目	予測事項	見直しの 必要性	理由
史跡・文化 財	工事の施行中	埋蔵文化財包蔵地の改 変の程度	×	予測条件である掘削範囲及び環境保全のため の措置に変更はないため、予測の見直しは行わない。
自然との触れ合い活動の場	工事の施行中	自然との触れ合い活動 の場までの利用経路に 与える影響の程度	×	予測条件である施工計画及び緑地の保全状況 に変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の完了後	自然との触れ合い活動 の場の持つ機能の変化 の程度	×	予測条件である緑地の計画に変更はないため、 予測の見直しは行わない。
廃棄物	工事の施行中	解体工事に伴う撤去建 造物及び伐採樹木等の 排出量、再利用量及び 処理・処分の方法	×	予測条件である解体建物に変更はないため、予 測の見直しは行わない。
		建設工事に伴う建設廃 棄物及び建設発生土の 排出量、再利用量及び 処理・処分の方法	×	予測条件である延床面積、施工方法及び施工深 さに変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の 完了後	施設の供用に伴う廃棄 物の種類及び排出量、 再利用量及び処理・処 分の方法	×	予測条件である用途別の延床面積に変更はないため、予測の見直しは行わない。
温室効果ガス	工事の完了後	施設の供用に伴う環境 への温室効果ガスの排 出量またはエネルギー の使用量の程度及びそ れらの削減の程度	×	予測条件である用途別の延床面積に変更はないため、予測の見直しは行わない。

注)「見直しの必要性」において、「○」は見直し必要、「×」は見直し不要を示す。

5.2 見直しを行った予測・評価の結論

見直しを行った予測・評価の結論は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表5.2-1 予測・評価の結論

項目	予測・評価の結論
1. 大気汚染	予測時期②の工事用車両の走行に伴う影響の評価は、予測した二酸化窒素の将来濃度 (年平均値)を日平均値(年間98%値)に変換した値は変更前後ともに0.041~0.043ppm であり、環境基準(0.04ppm から0.06ppm のゾーン内またはそれ以下)を満足する。工事用車両の走行に伴う寄与率は、変更前の0.1%未満~1.1%に対し、変更後は0.1%未満~1.3%である。また、予測した浮遊粒子状物質の将来濃度(年平均値)を日平均値(2%除外値)に変換した値は変更前後ともに0.043~0.044mg/m³であり、環境基準(0.10mg/m³以下)を下回る。工事用車両の走行に伴う寄与率は、変更前後ともに0.1%未満である。したがって、二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに変更前後で同程度であり、評価の指標とした環境基準を満足するため、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。
2. 騒音・振動	1)工事用車両の走行に伴う道路交通騒音 予測時期②の工事用車両の走行に伴う道路交通の騒音レベル(L _{Aeq})は、変更前後ともに 昼間 62~71dB であり、No.5 の青山通りで環境基準値を上回っているが、現況において も環境基準値を上回っており、増加分は 1dB 未満である。その他の地点では環境基準値 を満足している。工事用車両の走行に伴う騒音レベルの増加分は、変更前では No.8 の区 道 1044 号線で 1dB であり、その他の地点は 1dB 未満であったのに対し、変更後では No.8 の区道 1044 号線と No.9 の外苑西通りで 1dB であり、その他の地点は 1dB 未満である。したがって、工事用車両の走行に伴う騒音レベルは変更前後で同程度であるため、変更後と変更前における評価の結論は変わらない。 2)工事用車両の走行に伴う道路交通振動 予測時期②の工事用車両の走行に伴う道路交通の振動レベル(L ₁₀)は、変更前の昼間 37~49dB、夜間 35~46dB に対し、変更後は昼間 37~52dB、夜間 35~48dB であり、変更前と同様に規制基準値を満足している。なお、工事用車両の走行に伴う振動レベルの増加分は変更前の昼間で 0~3dB、夜間で 0~5dB に対し、変更後は昼間で 0~3dB、夜間で 0~6dB である。したがって、工事用車両の走行に伴う振動レベルは変更前後で同程度であり、評価の指標とした規制基準を下回るため、変更後と変更前における評価の結論は変わらない。

5.3 予測・評価の見直し

5.3.1 大気汚染

(1) 予測事項

事業計画の変更に伴い予測・評価の見直しを行う事項は、「工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度」とした。

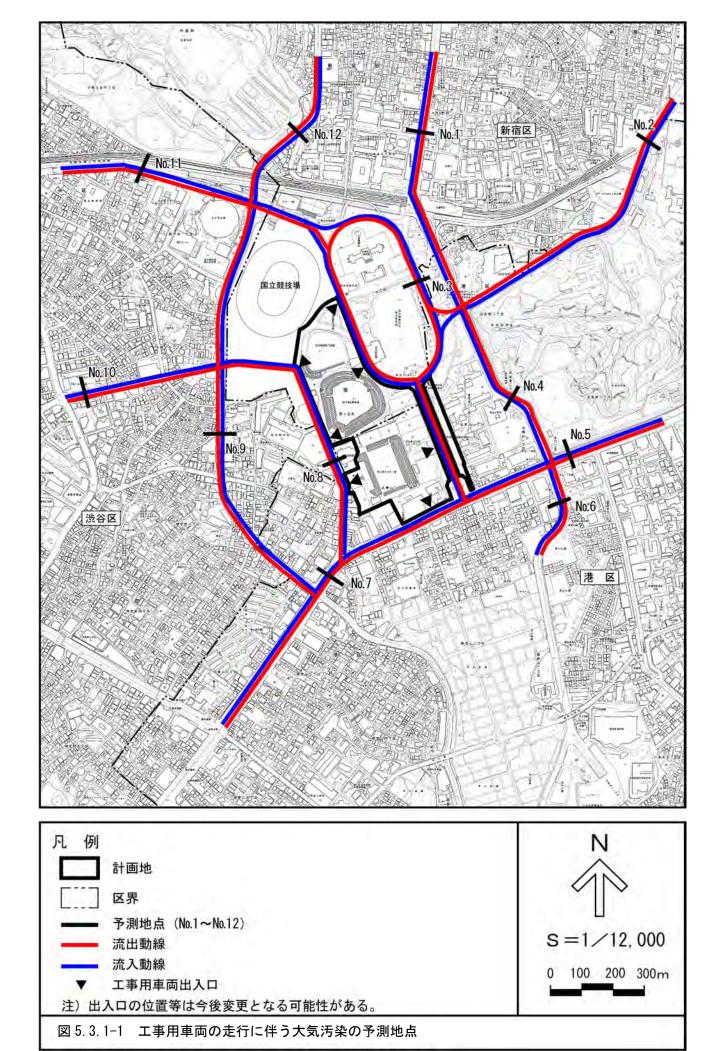
なお、工事期間全体での排出量が最大となる時期における建設機械の複合影響の予測結果については資料編 p. 119~124 に示すとおりである。

(2) 予測の対象時点

1) 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質は、工事用車両台数が最 大となる予測時期②の工事着工後89~108ヶ月目とした。

(3) 予測地域(予測地点)

1) 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 工事用車両の走行に伴う影響の予測地点は、評価書と同様に、工事用車両の走行ルート沿 道とし、土地利用状況を勘案したうえで、図 5.3.1-1 に示す 12 地点とした。また、予測地 点の高さは地上 1.5m とした。



(4) 予測方法

1) 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

ア. 予測手順、予測式

予測手順及び予測式は評価書と同様とした。

イ. 予測条件

(ア) 工事の施行中の将来交通量

変更後及び変更前の工事の施行中の将来交通量は表 5.3.1-1(1) \sim (2) に示すとおりである。

予測にあたっては、評価書と同様に、工事用車両台数が最大となる月の走行台数が1 年間続くものと設定し、1日あたりの工事用車両台数を算出した。

その他の予測条件は評価書と同様とした。

表 5.3.1-1(1) 工事の施行中の将来交通量(予測時期②)【変更後】

単位:台/日

予測地点	種別	現況交通量	将来一般 交通量	工事用車両 交通量	将来 交通量
	大型車	2,018	2,018	522	2, 540
No.1 (環状 3 号線)	小型車	24, 693	24, 693	0	24, 693
	合 計	26, 711	26, 711	522	27, 233
	大型車	763	763	125	888
No.2 (四谷角筈線)	小型車	12, 114	12, 114	0	12, 114
	合 計	12, 877	12, 877	125	13, 002
	大型車	608	608	3	611
No.3 (四谷角筈線)	小型車	8,012	8, 012	0	8, 012
	合 計	8,620	8,620	3	8, 623
	大型車	2, 428	2, 428	35	2, 463
No. 4 (環状 3 号線)	小型車	34, 073	34, 073	0	34, 073
	合 計	36, 501	36, 501	35	36, 536
	大型車	4, 728	4, 728	375	5, 103
No.5 (青山通り)	小型車	55, 155	55, 155	0	55, 155
	合 計	59, 883	59, 883	375	60, 258
	大型車	2, 294	2, 294	6	2, 300
No.6 (環状3号線)	小型車	31, 078	31, 078	0	31, 078
	合 計	33, 372	33, 372	6	33, 378
	大型車	4, 510	4, 510	308	4, 818
No.7 (青山通り)	小型車	45, 109	45, 109	0	45, 109
	合 計	49, 619	49, 619	308	49, 927
	大型車	523	523	632	1, 155
No.8(区道 1044 号線)	小型車	7, 073	7, 073	0	7, 073
	合 計	7, 596	7, 596	632	8, 228
	大型車	1, 439	1, 439	71	1,510
No.9 (外苑西通り)	小型車	16, 105	16, 105	0	16, 105
	合 計	17, 544	17, 544	71	17, 615
	大型車	1, 315	1, 315	6	1, 321
No. 10(区道 865 号線)	小型車	11, 367	11, 367	0	11, 367
	合 計	12, 682	12, 682	6	12, 688
	大型車	1,039	1, 039	276	1, 315
No.11 (四谷角筈線)	小型車	9, 536	9, 536	0	9, 536
	合 計	10, 575	10, 575	276	10, 851
	大型車	1,617	1, 617	212	1,829
No.12 (外苑西通り)	小型車	15, 863	15, 863	0	15, 863
	合 計	17, 480	17, 480	212	17, 692

注) 現況交通量及び将来一般交通量は評価書の数字を用いている。

表 5.3.1-1(2) 工事の施行中の将来交通量(予測時期②)【変更前(評価書時)】

単位:台/日

予測地点	種別	現況交通量	将来一般 交通量	工事用車両 交通量	将来 交通量
	大型車	2,018	2,018	428	2, 446
No.1 (環状 3 号線)	小型車	24, 693	24, 693	0	24, 693
	合 計	26, 711	26, 711	428	27, 139
	大型車	763	763	102	865
No.2 (四谷角筈線)	小型車	12, 114	12, 114	0	12, 114
	合 計	12, 877	12, 877	102	12, 979
	大型車	608	608	3	611
No.3 (四谷角筈線)	小型車	8, 012	8, 012	0	8, 012
	合 計	8,620	8,620	3	8, 623
	大型車	2, 428	2, 428	3	2, 431
No. 4 (環状 3 号線)	小型車	34, 073	34, 073	0	34, 073
	合 計	36, 501	36, 501	3	36, 504
	大型車	4, 728	4, 728	306	5, 034
No.5 (青山通り)	小型車	55, 155	55, 155	0	55, 155
	合 計	59, 883	59, 883	306	60, 189
	大型車	2, 294	2, 294	6	2, 300
No.6 (環状 3 号線)	小型車	31, 078	31, 078	0	31, 078
	合 計	33, 372	33, 372	6	33, 378
	大型車	4, 510	4, 510	196	4, 706
No.7 (青山通り)	小型車	45, 109	45, 109	0	45, 109
	合 計	49, 619	49, 619	196	49, 815
	大型車	523	523	516	1, 039
No.8(区道 1044 号線)	小型車	7, 073	7, 073	0	7, 073
	合 計	7, 596	7, 596	516	8, 112
	大型車	1, 439	1, 439	3	1, 442
No.9 (外苑西通り)	小型車	16, 105	16, 105	0	16, 105
	合 計	17, 544	17, 544	3	17, 547
	大型車	1, 315	1, 315	6	1, 321
No. 10(区道 865 号線)	小型車	11, 367	11, 367	0	11, 367
	合 計	12, 682	12, 682	6	12, 688
	大型車	1, 039	1,039	226	1, 265
No.11 (四谷角筈線)	小型車	9, 536	9, 536	0	9, 536
	合 計	10, 575	10, 575	226	10, 801
	大型車	1,617	1, 617	172	1, 789
No.12(外苑西通り)	小型車	15, 863	15, 863	0	15, 863
	合 計	17, 480	17, 480	172	17, 652

注) 現況交通量及び将来一般交通量は評価書の数字を用いている。

(5) 予測結果

工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度の 予測結果は下記に示すとおりである。

1) 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 予測時期②の工事用車両の走行に伴う大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質)の予測結果は 表 5.3.1-2(1)~(2)、表 5.3.1-3(1)~(2)に示すとおりである。

ア. 二酸化窒素

二酸化窒素の将来濃度は、変更前の 0.02129~0.02220ppm に対し、変更後は 0.02129~ 0.02221ppm である。

変更後の将来濃度のうち、工事用車両の走行に伴う寄与濃度は変更前の 0.000001~

0.000237ppm に対し、変更後は 0.000001~0.000288ppm である。 また、将来濃度に対する工事用車両の走行に伴う増加分の割合(寄与率)は、変更前の

0.1%未満~1.1%に対し、変更後は0.1%未満~1.3%となっている。

イ. 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の将来濃度は、変更前後で 0.01901~0.01905mg/m³である。

変更後の将来濃度のうち、工事用車両の走行に伴う寄与濃度は変更前の 0.000001 未満 ~0.000004mg/m³ に対し、変更後は 0.000001 未満 ~0.000005mg/m³ である。

また、将来濃度に対する工事用車両の走行に伴う増加分の割合(寄与率)は、変更前後で 0.1%未満となっている。

(空白)

表 5.3.1-2(1) 工事用車両の走行に伴う大気質の予測結果(二酸化窒素:予測時期②)【変更後】

			I			0	
	予測地点		①バッ クグラ	②工事の施行中	③工事用車両	④工事の施行中の	工事用車 両の走行
地点	道路名(所在地)	方位	ウンド 濃度 (ppm)	の将来基礎交通 量に伴う濃度 (ppm)	の走行に伴う 寄与濃度 (ppm)	将来濃度 (年平均値) (ppm) (①+②+③)	に伴う 寄与率(%) (③/④× 100)
	環状3号線	東側		0. 00078	0.000144	0. 02193	0.7
No. 1	(新宿区信濃町)	西側		0. 00076	0.000142	0. 02190	0.6
N. 0	四谷角筈線	東側		0.00040	0.000042	0. 02144	0.2
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側		0.00043	0. 000045	0. 02147	0.2
N. 9	四谷角筈線	東側		0.00041	0.000002	0. 02141	0.1 未満
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側		0.00029	0.000001	0. 02129	0.1 未満
N - 4	環状 3 号線	東側		0.00117	0.000014	0.02219	0.1
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側		0.00112	0.000013	0.02213	0. 1
No. 5	青山通り	北側		0. 00115	0.000067	0.02221	0.3
NO. 5	(港区南青山1丁目)	南側		0. 00112	0.000064	0. 02218	0.3
No. 6	環状 3 号線	東側		0.00106	0.000003	0. 02206	0.1 未満
NO. 0	(港区南青山2丁目)	西側	0.021	0. 00096	0.000003	0. 02197	0.1 未満
No. 7	青山通り	東側	0.021	0. 00102	0.000054	0.02207	0.2
NO. 1	(港区南青山2丁目)	西側		0.00111	0.000060	0.02217	0.3
No. 8	区道 1044 号線	東側		0. 00036	0. 000288	0.02165	1.3
NO. 6	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0. 00035	0.000277	0. 02162	1.3
No. 9	外苑西通り	東側		0. 00062	0. 000023	0.02164	0.1
NO. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0. 00071	0. 000028	0. 02174	0. 1
No. 10	区道 865 号線	北側		0. 00051	0. 000002	0. 02151	0.1 未満
110. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側		0. 00050	0. 000002	0. 02150	0.1 未満
No. 11	四谷角筈線	北側		0. 00040	0.000080	0. 02148	0.4
110.11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側		0. 00041	0.000080	0. 02149	0.4
No. 12	外苑西通り	東側		0. 00054	0. 000052	0. 02159	0.2
110.12	(新宿区大京町)	西側		0. 00057	0. 000055	0. 02162	0.3

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 排出係数は評価書と同様とした。

注 3) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

表 5.3.1-2(2) 工事用車両の走行に伴う大気質の予測結果(二酸化窒素:予測時期②)

【変更前(評価書時)】

	予測地点		①バッ クグラ	②工事の施行中	③工事用車両	④工事の 施行中の	工事用車 両の走行
地点	道路名(所在地)	方位	ウンド 濃度 (ppm)	の将来基礎交通 量に伴う濃度 (ppm)	の走行に伴う 寄与濃度 (ppm)	将来濃度 (年平均値) (ppm) (①+②+③)	に伴う 寄与率(%) (③/④× 100)
	環状3号線	東側		0. 00078	0.000119	0. 02190	0.5
No. 1	(新宿区信濃町)	西側		0. 00076	0.000117	0. 02187	0. 5
N. O.	四谷角筈線	東側		0. 00040	0.000034	0. 02143	0.2
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側		0. 00043	0. 000037	0. 02147	0.2
N O	四谷角筈線	東側		0. 00041	0.000002	0. 02141	0.1 未満
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側		0. 00029	0.000001	0. 02129	0.1 未満
N 4	環状 3 号線	東側		0. 00117	0. 000002	0. 02218	0.1 未満
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側		0. 00112	0.000001	0. 02212	0.1 未満
N. F	青山通り	北側		0. 00115	0. 000056	0. 02220	0.3
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側		0.00112	0. 000053	0. 02217	0.2
N. C	環状 3 号線	東側		0. 00106	0.000003	0. 02206	0.1 未満
No. 6	(港区南青山2丁目)	西側	0 001	0. 00096	0.000003	0. 02197	0.1 未満
N. 7	青山通り	東側	0.021	0.00102	0. 000035	0.02206	0.2
No. 7	(港区南青山2丁目)	西側		0. 00111	0. 000039	0. 02215	0.2
No. 8	区道 1044 号線	東側		0.00036	0. 000237	0.02160	1. 1
No. 8	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0. 00035	0. 000228	0. 02157	1. 1
N. O	外苑西通り	東側		0. 00062	0.000001	0. 02162	0.1 未満
No. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0. 00071	0. 000002	0. 02171	0.1 未満
N. 10	区道 865 号線	北側		0. 00051	0.000002	0. 02151	0.1 未満
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側		0. 00050	0. 000002	0. 02150	0.1 未満
No. 11	四谷角筈線	北側		0. 00040	0.000066	0. 02147	0.3
No. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側		0. 00041	0.000067	0.02147	0.3
No. 12	外苑西通り	東側		0.00054	0.000043	0. 02158	0.2
NO. 12	(新宿区大京町)	西側		0.00057	0.000045	0. 02161	0.2

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 工事の施行中の将来基礎交通量に伴う濃度は、工事の施行中の将来基礎交通量(現況交通量)と予測年次に おける1台当たりの排出係数から汚染物質排出量を設定して算出した。

注 3) 工事用車両の走行に伴う濃度は、工事用車両の交通量と予測年次における 1 台当たりの排出係数から汚染物質排出量を設定して算出した。

注 4) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

表 5.3.1-3(1) 工事用車両の走行に伴う大気質の予測結果(浮遊粒子状物質:予測時期②)【変更後】

	予測地点		①バッ クグラ	②工事の施行中	③工事用車両	④工事の 施行中の	工事用車 両の走行
地点	道路名(所在地)	方位	ウンド 濃度 (mg/m³)	の将来基礎交通 量に伴う濃度 (mg/m³)	の走行に伴う 寄与濃度 (mg/m³)	将来濃度 (年平均値) (mg/m³) (①+②+③)	に伴う 寄与率(%) (③/④× 100)
N. 4	環状3号線	東側		0.00004	0. 000003	0. 01904	0.1 未満
No. 1	(新宿区信濃町)	西側		0. 00003	0. 000003	0. 01904	0.1 未満
N. 9	四谷角筈線	東側		0.00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側		0.00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
N. 9	四谷角筈線	東側		0.00002	0.000001 未満	0. 01902	0.1 未満
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側		0. 00001	0.000001 未満	0. 01901	0.1 未満
N. 4	環状 3 号線	東側		0.00005	0.000001 未満	0. 01905	0.1 未満
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側		0.00005	0.000001 未満	0.01905	0.1 未満
N- E	青山通り	北側		0.00005	0. 000001	0. 01905	0.1 未満
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側		0.00005	0. 000001	0. 01905	0.1 未満
N- 6	環状 3 号線	東側		0.00005	0.000001 未満	0. 01905	0.1 未満
No. 6	(港区南青山2丁目)	西側	0. 019	0.00004	0.000001 未満	0. 01904	0.1 未満
N. 7	青山通り	東側	0.019	0.00004	0. 000001	0. 01904	0.1 未満
No. 7	(港区南青山2丁目)	西側		0.00005	0. 000001	0.01905	0.1 未満
N- 0	区道 1044 号線	東側		0.00002	0. 000005	0.01902	0.1 未満
No. 8	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0.00001	0. 000005	0.01902	0.1 未満
N. O	外苑西通り	東側		0.00003	0.000001 未満	0.01903	0.1 未満
No. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0.00003	0.000001 未満	0. 01903	0.1 未満
N. 10	区道 865 号線	北側		0.00002	0.000001 未満	0. 01902	0.1 未満
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側		0.00002	0.000001 未満	0.01902	0.1 未満
No. 11	四谷角筈線	北側		0. 00001	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
No. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側		0.00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
No. 10	外苑西通り	東側		0. 00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
No. 12	(新宿区大京町)	西側		0.00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 排出係数は評価書と同様とした。

注 3) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

表 5.3.1-3(2) 工事用車両の走行に伴う大気質の予測結果(浮遊粒子状物質:予測時期②)

【変更前(評価書時)】

	予測地点		①バッ クグラ	②工事の施行中	③工事用車両	④工事の 施行中の	工事用車両の走行
地点	道路名(所在地)	方位	ウンド 濃度 (mg/m³)	の将来基礎交通 量に伴う濃度 (mg/m³)	の走行に伴う 寄与濃度 (mg/m³)	将来濃度 (年平均値) (mg/m³) (①+②+③)	に伴う 寄与率(%) (③/④× 100)
NT 4	環状 3 号線	東側		0.00004	0. 000002	0. 01904	0.1 未満
No. 1	(新宿区信濃町)	西側		0.00003	0. 000002	0. 01904	0.1 未満
N. O	四谷角筈線	東側		0. 00002	0.000001	0. 01902	0.1 未満
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側		0. 00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
N O	四谷角筈線	東側		0. 00002	0.000001 未満	0. 01902	0.1 未満
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側		0. 00001	0.000001 未満	0. 01901	0.1 未満
NT 4	環状 3 号線	東側		0. 00005	0.000001 未満	0. 01905	0.1 未満
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側		0. 00005	0.000001 未満	0. 01905	0.1 未満
N	青山通り	北側		0. 00005	0. 000001	0. 01905	0.1 未満
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側		0.00005	0. 000001	0. 01905	0.1 未満
N. C	環状 3 号線	東側		0. 00005	0.000001 未満	0. 01905	0.1 未満
No. 6	(港区南青山2丁目)	西側	0.010	0.00004	0.000001 未満	0. 01904	0.1 未満
N. 7	青山通り	東側	0.019	0.00004	0. 000001	0. 01904	0.1 未満
No. 7	(港区南青山2丁目)	西側		0.00005	0. 000001	0. 01905	0.1 未満
N- 0	区道 1044 号線	東側		0.00002	0. 000004	0. 01902	0.1 未満
No. 8	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0.00001	0. 000004	0. 01902	0.1 未満
N. 0	外苑西通り	東側		0.00003	0.000001 未満	0. 01903	0.1 未満
No. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側		0.00003	0.000001 未満	0. 01903	0.1 未満
N 10	区道 865 号線	北側		0.00002	0.000001 未満	0. 01902	0.1 未満
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側		0.00002	0.000001 未満	0. 01902	0.1 未満
N_ 11	四谷角筈線	北側		0.00001	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
No. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側		0.00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
N- 10	外苑西通り	東側		0.00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満
No. 12	(新宿区大京町)	西側		0. 00002	0. 000001	0. 01902	0.1 未満

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 工事の施行中の将来基礎交通量に伴う濃度は、工事の施行中の将来基礎交通量(現況交通量)と予測年次に おける1台当たりの排出係数から汚染物質排出量を設定して算出した。

注 3) 工事用車両の走行に伴う濃度は、工事用車両の交通量と予測年次における 1 台当たりの排出係数から汚染物質排出量を設定して算出した。

注 4) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

(7) 評 価

評価の指標は、評価書と同様、二酸化窒素については「二酸化窒素に係る環境基準について」、 浮遊粒子状物質については「大気の汚染に係る環境基準について」とした。

年平均値から日平均値(年間 98%値、2%除外値)への換算式についても、評価書と同様とした。

1) 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 予測時期②の工事用車両の走行に伴う影響の評価は表 5.3.1-4(1)~(2)、表 5.3.1-5(1)~ (2)に示すとおりである。

予測した二酸化窒素の将来濃度(年平均値)を日平均値(年間 98%値)に変換した値は変更前後ともに 0.041~0.043ppm であり、環境基準(0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内またはそれ以下)を満足する。工事用車両の走行に伴う寄与率は、変更前の 0.1%未満~1.1%に対し、変更後は 0.1%未満~1.3%である。

また、予測した浮遊粒子状物質の将来濃度(年平均値)を日平均値(2%除外値)に変換した値は変更前後ともに 0.043~0.044mg/m³であり、環境基準(0.10mg/m³以下)を下回る。工事用車両の走行に伴う寄与率は、変更前後ともに 0.1%未満である。

したがって、二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに変更前後で同程度であり、評価の指標と した環境基準を満足するため、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。 (空白)

表 5.3.1-4(1) 工事用車両の走行に伴う二酸化窒素の影響の評価:予測時期②【変更後】

	予測地点		将来濃	变(ppm)	工事用車両の	
地点	道路名(所在地)	方位	年平均値	日平均値の 年間 98%値	走行に伴う 寄与率(%)	環境基準
NT. 1	環状 3 号線	東側	0.02193	0.042	0.7	
No. 1	(新宿区信濃町)	西側	0.02190	0.042	0.6	
N. 0	四谷角筈線	東側	0.02144	0.042	0.2	
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側	0. 02147	0.042	0.2	
N. 9	四谷角筈線	東側	0. 02141	0.042	0.1 未満	
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側	0. 02129	0.041	0.1 未満	
No. 4	環状 3 号線	東側	0.02219	0.043	0.1	
NO. 4	(港区北青山1丁目)	西側	0.02213	0.042	0. 1	
N - E	青山通り	北側	0.02221	0.043	0.3	
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側	0.02218	0.042	0.3	
No. 6	環状 3 号線	東側	0.02206	0.042	0.1 未満	日平均値が
NO. 0	(港区南青山2丁目)	西側	0.02197	0.042	0.1 未満	0.04 から 0.06ppm のゾ
No. 7	青山通り	東側	0.02207	0.042	0.2	0.00ppmのフ ーン内または
NO. 1	(港区南青山2丁目)	西側	0.02217	0.042	0.3	それ以下
No. 8	区道 1044 号線	東側	0.02165	0.042	1.3	
NO. 6	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0.02162	0.042	1.3	
No. 9	外苑西通り	東側	0.02164	0.042	0.1	
NO. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0.02174	0.042	0.1	
N- 10	区道 865 号線	北側	0.02151	0.042	0.1 未満	
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側	0.02150	0.042	0.1 未満	
No. 11	四谷角筈線	北側	0.02148	0.042	0.4	
NO. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側	0.02149	0.042	0.4	
No. 12	外苑西通り	東側	0. 02159	0.042	0.2	
NO. 12	(新宿区大京町)	西側	0.02162	0.042	0.3	

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

表 5.3.1-4(2) 工事用車両の走行に伴う二酸化窒素の影響の評価:予測時期②【変更前(評価書時)】

	予測地点		将来濃	度(ppm)	工事用車両の	
地点	道路名(所在地)	方位	年平均値	日平均値の 年間 98%値	走行に伴う 寄与率(%)	環境基準
N. 1	環状 3 号線	東側	0.02190	0.042	0.5	
No. 1	(新宿区信濃町)	西側	0. 02187	0.042	0.5	
N O	四谷角筈線	東側	0. 02143	0.042	0.2	
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側	0. 02147	0.042	0.2	
N O	四谷角筈線	東側	0.02141	0.042	0.1 未満	
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側	0. 02129	0.041	0.1 未満	
N 4	環状 3 号線	東側	0.02218	0.042	0.1 未満	
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側	0. 02212	0.042	0.1 未満	
м. г	青山通り	北側	0.02220	0.043	0.3	
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側	0. 02217	0.042	0.2	
N. C	環状 3 号線	東側	0.02206	0.042	0.1 未満	日平均値が
No. 6	(港区南青山2丁目)	西側	0.02197	0.042	0.1 未満	0.04から
N. 7	青山通り	東側	0.02206	0.042	0.2	0.06ppm のゾ ーン内または
No. 7	(港区南青山2丁目)	西側	0.02215	0.042	0.2	それ以下
No. 8	区道 1044 号線	東側	0.02160	0.042	1.1	
NO. 8	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0.02157	0.042	1. 1	
No. 9	外苑西通り	東側	0.02162	0.042	0.1 未満	
No. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0.02171	0.042	0.1 未満	
N. 10	区道 865 号線	北側	0.02151	0.042	0.1 未満	
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側	0. 02150	0.042	0.1 未満	
N. 11	四谷角筈線	北側	0. 02147	0.042	0.3	
No. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側	0. 02147	0.042	0.3	
N- 10	外苑西通り	東側	0. 02158	0.042	0.2	
No. 12	(新宿区大京町)	西側	0.02161	0.042	0.2	

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

表 5.3.1-5(1) 工事用車両の走行に伴う浮遊粒子状物質の影響の評価:予測時期②【変更後】

予測地点		将来濃度	$E(mg/m^3)$	工事用車両の		
地点	道路名(所在地)	方位	年平均値	日平均値の 年間 2%除外値	走行に伴う 寄与率(%)	環境基準
	環状 3 号線	東側	0. 01904	0.043	0.1 未満	
No. 1	(新宿区信濃町)	西側	0. 01904	0.043	0.1 未満	
N. O	四谷角筈線	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
N O	四谷角筈線	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側	0. 01901	0.043	0.1 未満	
NT 4	環状 3 号線	東側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側	0.01905	0.044	0.1 未満	
N F	青山通り	北側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側	0.01905	0.044	0.1 未満	
N. C	環状 3 号線	東側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
No. 6	(港区南青山2丁目)	西側	0.01904	0.044	0.1 未満	日平均値が
N 7	青山通り	東側	0.01904	0.043	0.1 未満	0.10mg/m³ 以下
No. 7	(港区南青山2丁目)	西側	0.01905	0.044	0.1 未満	> 1
N O	区道 1044 号線	東側	0.01902	0.043	0.1 未満	
No. 8	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0.01902	0.043	0.1 未満	
N. O	外苑西通り	東側	0. 01903	0.043	0.1 未満	
No. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0. 01903	0.043	0.1 未満	
N. 10	区道 865 号線	北側	0.01902	0.043	0.1 未満	
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側	0.01902	0.043	0.1 未満	
N - 11	四谷角筈線	北側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
N- 10	外苑西通り	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 12	(新宿区大京町)	西側	0. 01902	0.043	0.1 未満	

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

表 5.3.1-5(2) 工事用車両の走行に伴う浮遊粒子状物質の影響の評価: 予測時期②【変更前(評価書時)】

予測地点		将来濃度	$\mathcal{E}(mg/m^3)$	工事用車両の		
地点	道路名(所在地)	方位	年平均値	日平均値の 年間 2%除外値	走行に伴う 寄与率(%)	環境基準
	環状3号線	東側	0. 01904	0.043	0.1 未満	
No. 1	(新宿区信濃町)	西側	0. 01904	0.043	0.1 未満	
	四谷角筈線	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 2	(新宿区若葉1丁目)	西側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
N. O	四谷角筈線	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 3	(新宿区霞ヶ丘町)	西側	0. 01901	0.043	0.1 未満	
NT 4	環状 3 号線	東側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
No. 4	(港区北青山1丁目)	西側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
N F	青山通り	北側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
No. 5	(港区南青山1丁目)	南側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
N. C	環状 3 号線	東側	0. 01905	0.044	0.1 未満	
No. 6	(港区南青山2丁目)	西側	0. 01904	0.044	0.1 未満	日平均値が
N . 7	青山通り	東側	0. 01904	0.043	0.1 未満	0.10mg/m³ 以下
No. 7	(港区南青山2丁目)	西側	0. 01905	0.044	0.1 未満	<i>y</i> . ,
N. O	区道 1044 号線	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 8	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
N. O	外苑西通り	東側	0. 01903	0.043	0.1 未満	
No. 9	(渋谷区神宮前2丁目)	西側	0. 01903	0.043	0.1 未満	
N 10	区道 865 号線	北側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 10	(渋谷区千駄ヶ谷2丁目)	南側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
NI. 11	四谷角筈線	北側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 11	(渋谷区千駄ヶ谷1丁目)	南側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
N- 10	外苑西通り	東側	0. 01902	0.043	0.1 未満	
No. 12	(新宿区大京町)	西側	0. 01902	0.043	0.1 未満	

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.1-1 に対応する。

注 2) 予測地点の方位は、予測結果を示した道路端の方向を示す。

(空白)

5.3.2 騒音・振動

(1) 予測事項

事業計画の変更に伴い予測・評価の見直しを行う事項は、「工事用車両の走行に伴う道路交通騒音」「工事用車両の走行に伴う道路交通振動」とした。

なお、工事期間全体での騒音・振動レベル合成値が最大となる時期における建設機械の複合 影響の予測結果については資料編 p. 125~129 に示すとおりである。

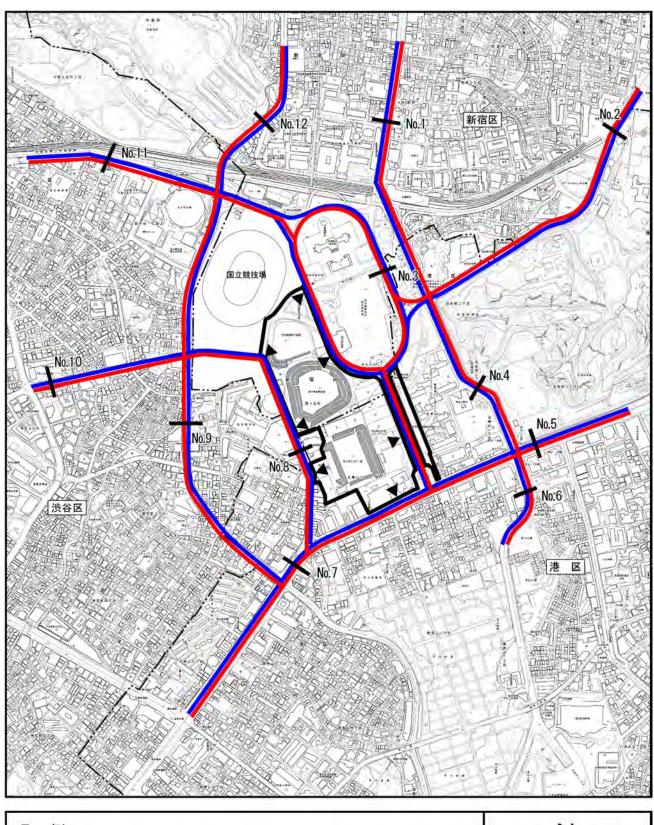
(2) 予測の対象時点

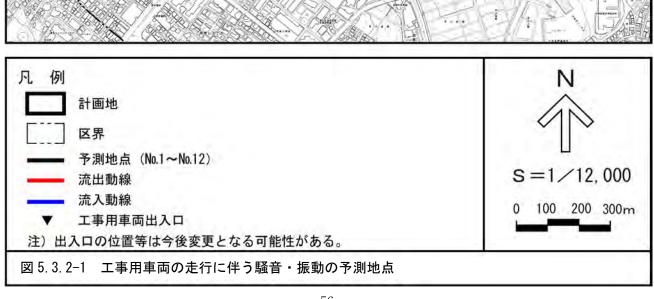
工事用車両の走行に伴う道路交通騒音・振動の予測の対象時点は、工事用車両台数が最大となる予測時期②の工事着工後89~108ヶ月目とした。

(3) 予測地域(予測地点)

工事用車両の走行に伴う道路交通騒音・振動の予測地点については、変更前と同様に工事用車両の走行ルート沿道とし、図 5.3.2-1 に示す 12 地点とした。

予測地点の高さは、騒音については地上1.2m、振動については地表面とした。





(4) 予測方法

- 1) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音
 - ア. 予測手順、予測式 予測手順及び予測式は評価書と同様とした。

イ. 予測条件

(ア) 工事の施行中の将来交通量

変更後及び変更前の工事の施行中の将来交通量は表 5.3.1-1(1) \sim (2) (p.40~41 参照) に示すとおりである。

その他の予測条件(道路条件等)は評価書と同様とした。

- 2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動
 - ア. 予測手順、予測式

予測手順及び予測式は評価書と同様とした。

イ. 予測条件

(ア) 工事の施行中の将来交通量

変更後及び変更前の工事の施行中の将来交通量は表 5.3.1-1(1) \sim (2) (p.40~41 参照) に示すとおりである。

その他の予測条件(道路条件等)は評価書と同様とした。

(5) 予測結果

1) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音

予測時期②における工事用車両の走行に伴う道路交通騒音の予測結果は、表 5.3.2-1(1) $\sim(2)$ に示すとおりである。

工事用車両の走行に伴う道路交通の騒音レベル (L_{Aeq})は、変更前後でともに昼間 $62\sim71\,dB$ である。

また、工事用車両の走行に伴う騒音レベルの増加分は変更前後で最大でも 1dB である。

表 5.3.2-1(1) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音の予測結果(予測時期②)【変更後】

		11年11日	E A	騒音レベル(L _{Aeq})	
予測地点	地域の類型	時間 区分	工事の施行中の	工事の施行中	工事用車両に
		四月	将来基礎交通量	の将来交通量	よる増加分
No.1 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	66 (66. 0)	66 (66.3)	0 (0. 3)
No.2 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	65 (65. 3)	65 (65. 4)	0 (0. 1)
No.3 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	62 (61. 8)	62 (61.8)	0 (0. 0)
No. 4 (環状 3 号線)	A(幹線)	昼間	64 (64. 2)	64 (64. 2)	0 (0. 0)
No.5 (青山通り)	A(幹線)	昼間	71 (71. 0)	71 (71. 1)	0 (0. 1)
No.6 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	64 (64. 4)	0 (0. 0)
No.7 (青山通り)	C(幹線)	昼間	70 (69. 7)	70 (69. 8)	0 (0. 1)
No. 8 (区道 1044 号線)	A(幹線)	昼間	61 (61. 4)	62 (62.3)	1 (0. 9)
No.9 (外苑西通り)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	65 (64. 5)	1 (0. 1)
No. 10 (区道 865 号線)	B(幹線)	昼間	67 (67. 1)	67 (67. 1)	0 (0. 0)
No. 11 (四谷角筈線)	B(幹線)	昼間	65 (65. 0)	65 (65. 4)	0 (0. 4)
No.12 (外苑西通り)	C(幹線)	昼間	68 (68. 0)	68 (68. 2)	0 (0. 2)

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

注 2) (幹線) の環境基準は、幹線道路を担う道路に近接する空間における特例値

注 3) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 4) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 5) 時間区分 昼間 6:00~22:00

表 5.3.2-1(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音の予測結果(予測時期②)【変更前(評価書時)】

		1			中压: db
		時間	Į.	騒音レベル(L _{Aeq})	
予測地点	地域の類型		工事の施行中の	工事の施行中	工事用車両に
		区分	将来基礎交通量	の将来交通量	よる増加分
No. 1 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	66 (66. 0)	66 (66.3)	0 (0. 3)
No.2 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	65 (65. 3)	65 (65. 4)	0 (0. 1)
No.3 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	62 (61. 8)	62 (61.8)	0 (0. 0)
No. 4 (環状 3 号線)	A(幹線)	昼間	64 (64. 2)	64 (64. 2)	0 (0. 0)
No.5 (青山通り)	A(幹線)	昼間	71 (71. 0)	71 (71. 1)	0 (0. 1)
No.6 (環状3号線)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	64 (64. 4)	0 (0. 0)
No.7 (青山通り)	C(幹線)	昼間	70 (69. 7)	70 (69. 8)	0 (0. 1)
No. 8 (区道 1044 号線)	A(幹線)	昼間	61 (61. 4)	62 (62. 2)	1 (0. 8)
No.9(外苑西通り)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	64 (64. 4)	0 (0. 0)
No. 10 (区道 865 号線)	B(幹線)	昼間	67 (67. 1)	67 (67. 1)	0 (0. 0)
No. 11 (四谷角筈線)	B(幹線)	昼間	65 (65. 0)	65 (65. 3)	0 (0. 3)
No.12(外苑西通り)	C(幹線)	昼間	68 (68. 0)	68 (68. 1)	0 (0. 1)

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

注 2) (幹線) の環境基準は、幹線道路を担う道路に近接する空間における特例値

注 3) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 4) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 5) 時間区分 昼間 6:00~22:00

2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動

予測時期②における工事用車両の走行に伴う道路交通振動の予測結果は、表 5.3.2-2(1) $\sim(2)$ に示すとおりである。

予測地点における工事用車両の走行に伴う道路交通の振動レベル (L_{10}) は、変更前の昼間 37~49dB、夜間 35~46dB に対し、変更後は昼間 37~52dB、夜間 35~48dB である。

また、工事用車両の走行に伴う振動レベルの増加分は、変更前の昼間で $0\sim3$ dB、夜間で $0\sim5$ dB に対し、変更後は昼間で $0\sim3$ dB、夜間で $0\sim6$ dB である。

表 5.3.2-2(1) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動の予測結果(予測時期②)【変更後】

単位:dB

		F	寺間	振	動レベル(L ₁₀)	平原・位
予測地点	区域の区分		子 加	工事の施行中	工事の	工事用車
1′侧地点	区域の区方	区分	予測 時間	の将来基礎	施行中の	両による
			时间	交通量	将来交通量	増加分
N. 1 (理心) 日(伯)	第二 種豆材	昼間	9 時	48 (48. 0)	49 (48. 6)	1(0.6)
No.1 (環状 3 号線)	第二種区域	夜間	7 時	45 (45. 0)	46 (46. 0)	1(1.0)
N. 0 (皿公名/安纳)	笠 廷豆材	昼間	9 時	42 (42. 0)	43 (42. 5)	1(0.5)
No. 2 (四谷角筈線)	第一種区域	夜間	7 時	37 (37. 0)	38 (38. 0)	1(1.0)
No.3 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	15 時	43 (43. 0)	43 (43. 1)	0(0.1)
No. 4 (環状 3 号線)	第一種区域	昼間	14 時	52 (52. 0)	52 (52. 0)	0(0.0)
NO.4 (塚仏 3 万脉)	弗一性 <u>区</u> 域	夜間	7 時	48 (48. 0)	48 (48. 1)	0(0.1)
	第一種区域	昼間	9, 10, 11,	37 (37. 0)	37 (37. 3)	0(0.3)
No.5 (青山通り)		但則	13, 14 時	37 (37.0)	37 (37. 3)	0 (0. 3)
		夜間	7 時	39 (39. 0)	39 (39. 4)	0(0.4)
No. 6 (環状 3 号線)	第二種区域	昼間	15 時	44 (44. 0)	44 (44. 1)	0 (0. 1)
No.7(青山通り)	第二種区域	昼間	11 時	37 (37. 0)	37 (37. 2)	0(0.2)
NO. (第二性区域	夜間	7 時	35 (35. 0)	35 (35. 3)	0(0.3)
No. 8(区道 1044 号線)	第一種区域	昼間	11 時	43 (43. 0)	46 (46. 3)	3(3.3)
10.6 (区垣 1044 万冰)	另 僅凸域	夜間	7 時	37 (37. 0)	43 (42. 7)	6 (5.7)
No.9 (外苑西通り)	第二種区域	昼間	11 時	45 (45. 0)	45 (45. 2)	0(0.2)
NO.9 (外型四地9)	另一俚凸墩	夜間	7 時	44 (44. 0)	44 (44. 2)	0(0.2)
No. 10(区道 865 号線)	第一種区域	昼間	15 時	48 (48. 0)	48 (48. 1)	0(0.1)
No. 11 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	8 時	41 (41. 0)	42 (41. 8)	1(0.8)
NO.11(四付用古째)	第一種区域	夜間	7 時	40 (40. 0)	41 (41. 3)	1(1.3)
No.12 (外苑西通り)	第二種区域	昼間	10,11時	47 (47. 0)	48 (47. 5)	1(0.5)
110.14 (219世四世リ)	为一性凸坝	夜間	7 時	41 (41. 0)	42 (41. 9)	1(0.9)

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

第一種区域(第一種・第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域) 昼間 $8:00\sim19:00$ 、夜間 $19:00\sim8:00$ 第二種区域(近隣商業地域、商業地域) 昼間 $8:00\sim20:00$ 、夜間 $20:00\sim8:00$

注 2) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 3) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 4) 時間帯の区分は、次のとおり。

注 5) 将来交通量による振動レベルが最大となる時間のうち、工事用車両の走行がある時間について予測を行った。

表 5.3.2-2(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動の予測結果(予測時期②)【変更前(評価書時)】

		F	寺間	振	動レベル(L ₁₀)	平江・山
국 게내가 무	ロゼのロハ		소 2HI	工事の施行中	工事の	工事用車
予測地点	区域の区分	区分	予測 時間	の将来基礎	施行中の	両による
			时间	交通量	将来交通量	増加分
N. 1 (理仏の 日が)	英二 種豆材	昼間	9 時	48 (48. 0)	49 (48. 5)	1(0.5)
No.1 (環状 3 号線)	第二種区域	夜間	7 時	45 (45. 0)	46 (45. 9)	1(0.9)
N- 9 (皿公A/安始)	笠 . 孫反址	昼間	9 時	42 (42. 0)	42 (42. 4)	0 (0.4)
No. 2(四谷角筈線)	第一種区域	夜間	7 時	37 (37. 0)	38 (37. 8)	1(0.8)
No.3 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	15 時	43 (43. 0)	43 (43. 1)	0 (0.1)
No. 4 (環状 3 号線)	第一種区域	昼間	15 時	49 (49. 0)	49 (49. 0)	0 (0.0)
No.5 (青山通り)	笠 . 孫反址	昼間	13 時	37 (37. 0)	37 (37. 3)	0(0.3)
No.5(青山通り)	第一種区域	夜間	7 時	39 (39. 0)	39 (39. 3)	0(0.3)
No.6 (環状3号線)	第二種区域	昼間	15 時	44 (44. 0)	44 (44. 1)	0 (0. 1)
N。7 (書山) (本山)	第二種区域	昼間	11 時	37 (37. 0)	37 (37. 2)	0(0.2)
No.7(青山通り)	第二種区域	夜間	7 時	35 (35. 0)	35 (35. 2)	0(0.2)
No. 8(区道 1044 号線)	第一種区域	昼間	11 時	43 (43. 0)	46 (45. 8)	3(2.8)
NO.0 (区) 1044 万脉/	第一性区域	夜間	7 時	37 (37. 0)	42 (42. 1)	5 (5. 1)
No.9 (外苑西通り)	第二種区域	昼間	15 時	42 (42. 0)	42 (42. 1)	0(0.1)
No. 10(区道 865 号線)	第一種区域	昼間	15 時	48 (48. 0)	48 (48. 1)	0(0.1)
N。11 (Ⅲ公A签组)	第一種区域	昼間	8 時	41 (41. 0)	42 (41. 7)	1(0.7)
No.11(四谷角筈線)	另一性区 域	夜間	7 時	40 (40. 0)	41 (41. 1)	1(1.1)
N。19 (从	第一種区域	昼間	10,11時	47 (47. 0)	47 (47. 4)	0(0.4)
No.12(外苑西通り)	第二種区域	夜間	7 時	41 (41. 0)	42 (41. 8)	1(0.8)

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

注 2) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 3) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 4) 時間帯の区分は、次のとおり。

第一種区域(第一種・第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域) 昼間 $8:00\sim19:00$ 、夜間 $19:00\sim8:00$ 第二種区域(近隣商業地域、商業地域) 昼間 $8:00\sim20:00$ 、夜間 $20:00\sim8:00$

注 5) 将来交通量による振動レベルが最大となる時間のうち、工事用車両の走行がある時間について予測を行った。

(6) 評 価

1) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音

評価の指標は、評価書と同様、「環境基本法」に基づく「騒音に係る環境基準」とした。 予測時期②の工事用車両の走行に伴う道路交通の騒音レベル(L_{Aeq})は、表 5.3.2-3(1)~(2) に示すとおり、変更前後ともに昼間 62~71dB であり、No.5 の青山通りで環境基準値を上回 っているが、現況においても環境基準値を上回っており、増加分は 1dB 未満である。その他 の地点では環境基準値を満足している。工事用車両の走行に伴う騒音レベルの増加分は、変 更前では No.8 の区道 1044 号線で 1dB であり、その他の地点は 1dB 未満であったのに対し、 変更後では No.8 の区道 1044 号線と No.9 の外苑西通りで 1dB であり、その他の地点は 1dB 未満である。

したがって、工事用車両の走行に伴う騒音レベルは変更前後で同程度であるため、変更後と変更前における評価の結論は変わらない。

表 5.3.2-3(1) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音の評価の結果(予測時期②)【変更後】

		時間	騒	音レベル(L _{Aeq})		環境
予測地点	地域の類型	区分	工事の施行中の	工事の施行中	工事用車両に	基準
		四刀	将来基礎交通量	の将来交通量	よる増加分	(L_{Aeq})
No.1 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	66 (66. 0)	66 (66. 3)	0 (0. 3)	
No.2 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	65 (65. 3)	65 (65. 4)	0 (0. 1)	
No.3 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	62 (61. 8)	62 (61. 8)	0 (0. 0)	
No.4 (環状 3 号線)	A(幹線)	昼間	64 (64. 2)	64 (64. 2)	0 (0. 0)	
No.5 (青山通り)	A(幹線)	昼間	71 (71. 0)	71 (71. 1)	0 (0. 1)	
No.6 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	64 (64. 4)	0 (0. 0)	70
No.7 (青山通り)	C(幹線)	昼間	70 (69. 7)	70 (69. 8)	0 (0. 1)	70
No.8 (区道 1044 号線)	A(幹線)	昼間	61 (61. 4)	62 (62. 3)	1 (0. 9)	
No.9 (外苑西通り)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	65 (64. 5)	1 (0. 1)	
No. 10 (区道 865 号線)	B(幹線)	昼間	67 (67. 1)	67 (67. 1)	0 (0. 0)	
No.11 (四谷角筈線)	B(幹線)	昼間	65 (65. 0)	65 (65. 4)	0 (0. 4)	
No.12 (外苑西通り)	C(幹線)	昼間	68 (68. 0)	68 (68. 2)	0 (0. 2)	

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

注 2) (幹線) の環境基準は、幹線道路を担う道路に近接する空間における特例値

注 3) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 4) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 5) 時間区分 昼間 6:00~22:00

表 5.3.2-3(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音の評価の結果(予測時期②)【変更前(評価書時)】

						≠此·u
		時間	騒	音レベル(L _{Aeq})		環境
予測地点	地域の類型	区分	工事の施行中の	工事の施行中	工事用車両に	基準
		四刀	将来基礎交通量	の将来交通量	よる増加分	$(L_{ ext{Aeq}})$
No.1 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	66 (66. 0)	66 (66. 3)	0 (0. 3)	
No.2 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	65 (65. 3)	65 (65. 4)	0 (0. 1)	
No.3 (四谷角筈線)	A(幹線)	昼間	62 (61. 8)	62 (61. 8)	0 (0. 0)	
No. 4 (環状 3 号線)	A(幹線)	昼間	64 (64. 2)	64 (64. 2)	0 (0. 0)	
No.5 (青山通り)	A(幹線)	昼間	71 (71. 0)	71 (71. 1)	0 (0. 1)	
No.6 (環状 3 号線)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	64 (64. 4)	0 (0. 0)	70
No.7 (青山通り)	C(幹線)	昼間	70 (69. 7)	70 (69. 8)	0 (0. 1)	70
No. 8 (区道 1044 号線)	A(幹線)	昼間	61 (61. 4)	62 (62. 2)	1 (0. 8)	
No.9 (外苑西通り)	C(幹線)	昼間	64 (64. 4)	64 (64. 4)	0 (0. 0)	
No. 10 (区道 865 号線)	B(幹線)	昼間	67 (67. 1)	67 (67. 1)	0 (0. 0)	
No.11 (四谷角筈線)	B(幹線)	昼間	65 (65. 0)	65 (65. 3)	0 (0. 3)	
No.12 (外苑西通り)	C(幹線)	昼間	68 (68. 0)	68 (68. 1)	0 (0. 1)	

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

注 2) (幹線) の環境基準は、幹線道路を担う道路に近接する空間における特例値

注 3) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 4) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 5) 時間区分 昼間 6:00~22:00

2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動

評価の指標は、評価書と同様、「環境確保条例」に基づく「日常生活等に適用する振動の 規制基準」とした。

予測時期②の工事用車両の走行に伴う道路交通の振動レベル (L_{10}) は、表 5. 3. 2-4(1)~(2)に示すとおり、変更前の昼間 37~49dB、夜間 35~46dB に対し、変更後は昼間 37~52dB、夜間 35~48dB であり、変更前と同様に規制基準値を満足している。

なお、工事用車両の走行に伴う振動レベルの増加分は変更前の昼間で $0\sim3$ dB、夜間で $0\sim5$ dB に対し、変更後は昼間で $0\sim3$ dB、夜間で $0\sim6$ dB である。

したがって、工事用車両の走行に伴う振動レベルは変更前後で同程度であり、評価の指標 とした規制基準を下回るため、変更後と変更前における評価の結論は変わらない。

表 5.3.2-4(1) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動の評価の結果(予測時期②)【変更後】

						手圧・ub
		時間		振動レベル(L ₁₀)		規制
予測地点	区域の区分	区分	工事の施行中の	工事の施行中の	工事用車両に	基準
			四刀	将来基礎交通量	将来交通量	よる増加分
No.1 (環状 3 号線)	第二種区域	昼間	48 (48. 0)	49 (48. 6)	1(0.6)	65
NO.1 (泉水 3 夕脉)	为 一性区域	夜間	45 (45. 0)	46 (46. 0)	1(1.0)	60
No. 2 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	42 (42. 0)	43 (42. 5)	1(0.5)	60
NO.2(四分用古脉)	另一性 <u></u>	夜間	37 (37. 0)	38 (38. 0)	1(1.0)	55
No.3 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	43 (43. 0)	43 (43. 1)	0(0.1)	60
No. 4 (環状 3 号線)	第一種区域	昼間	52 (52. 0)	52 (52. 0)	0(0.0)	60
NO.4 (泉水 3 万脉)	第一種区域	夜間	48 (48. 0)	48 (48. 1)	0(0.1)	55
No.5 (青山通り)	第一種区域	昼間	37 (37. 0)	37 (37. 3)	0(0.3)	60
NO.5 (月四週リ)	另一 性 区域	夜間	39 (39. 0)	39 (39. 4)	0(0.4)	55
No.6 (環状 3 号線)	第二種区域	昼間	44 (44. 0)	44 (44. 1)	0(0.1)	65
No.7(青山通り)	第二種区域	昼間	37 (37. 0)	37 (37. 2)	0(0.2)	65
10.7 (月四週リ)	另一個凸塊	夜間	35 (35. 0)	35 (35. 3)	0(0.3)	60
No. 8(区道 1044 号線)	第一種区域	昼間	43 (43. 0)	46 (46. 3)	3(3.3)	60
10.0 (区足 1044 万冰)	为 怪凶戏	夜間	37 (37. 0)	43 (42. 7)	6 (5. 7)	55
No.9 (外苑西通り)	第二種区域	昼間	45 (45. 0)	45 (45. 2)	0(0.2)	65
NO.9(外型四周リ)	另一性 <u></u>	夜間	44 (44. 0)	44 (44. 2)	0(0.2)	60
No. 10(区道 865 号線)	第一種区域	昼間	48 (48. 0)	48 (48. 1)	0(0.1)	60
No. 11 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	41 (41. 0)	42 (41. 8)	1(0.8)	60
NO.11 (四分円古称)	为一性 心	夜間	40 (40. 0)	41 (41. 3)	1(1.3)	55
No. 19 (从 枯雨涌り)	第二種区域	昼間	47 (47. 0)	48 (47. 5)	1(0.5)	65
No. 12(外苑西通り)	为一型 <u>区</u> 域	夜間	41 (41. 0)	42 (41. 9)	1(0.9)	60

- 注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。
- 注 2) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量
- 注 3) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量
- 注 4) 時間帯の区分は、次のとおり。
 - 第一種区域(第一種・第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域) 昼間 $8:00\sim19:00$ 、夜間 $19:00\sim8:00$ 第二種区域(近隣商業地域、商業地域) 昼間 $8:00\sim20:00$ 、夜間 $20:00\sim8:00$
- 注 5) 将来交通量による振動レベルが最大となる時間のうち、工事用車両の走行がある時間について予測を行った。

表 5.3.2-4(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動の評価の結果(予測時期②)【変更前(評価書時)】

単位:dB

			ı			規制
		時間	振動レベル(L ₁₀)			
予測地点	区域の区分		工事の施行中の	工事の施行中の	工事用車両に	基準
		区分	将来基礎交通量	将来交通量	よる増加分	(L_{10})
No. 1 (環状 3 号線)	第二種区域	昼間	48 (48. 0)	49 (48. 5)	1(0.5)	65
No. 1(環状 3 号線)	另 <u>一</u> 性	夜間	45 (45. 0)	46 (45. 9)	1(0.9)	60
No. 2 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	42 (42. 0)	42 (42. 4)	0 (0.4)	60
NO.2 (四个円古冰)	另 僅凸域	夜間	37 (37. 0)	38 (37. 8)	1(0.8)	55
No.3 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	43 (43. 0)	43 (43. 1)	0(0.1)	60
No. 4 (環状 3 号線)	第一種区域	昼間	49 (49. 0)	49 (49. 0)	0(0.0)	60
No.5 (青山通り)	第一種区域	昼間	37 (37. 0)	37 (37. 3)	0(0.3)	60
NO.5 (月田通り)	第一性区域	夜間	39 (39. 0)	39 (39. 3)	0(0.3)	55
No.6 (環状 3 号線)	第二種区域	昼間	44 (44. 0)	44 (44. 1)	0(0.1)	65
No.7(青山通り)	第一種 反抗	昼間	37 (37. 0)	37 (37. 2)	0(0.2)	65
10.7 (月四週リ)	第二種区域	夜間	35 (35. 0)	35 (35. 2)	0(0.2)	60
N- 0 (区送 1044 日始)	笠 . 孫反松	昼間	43 (43. 0)	46 (45. 8)	3(2.8)	60
No. 8(区道 1044 号線)	第一種区域	夜間	37 (37. 0)	42 (42. 1)	5 (5. 1)	55
No.9 (外苑西通り)	第二種区域	昼間	42 (42. 0)	42 (42. 1)	0(0.1)	65
No. 10(区道 865 号線)	第一種区域	昼間	48 (48. 0)	48 (48. 1)	0(0.1)	60
No. 11 (四谷角筈線)	第一種区域	昼間	41 (41. 0)	42 (41. 7)	1(0.7)	60
NO.11 (四分用古際)	第一性区域 ——	夜間	40 (40. 0)	41 (41. 1)	1(1.1)	55
N. 10 (从共再译的)	英二	昼間	47 (47. 0)	47 (47. 4)	0 (0. 4)	65
No.12 (外苑西通り)	第二種区域	夜間	41 (41. 0)	42 (41. 8)	1 (0. 8)	60

注 1) 予測地点の番号は、図 5.3.2-1 に対応する。

第一種区域(第一種・第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域) 昼間 $8:00\sim19:00$ 、夜間 $19:00\sim8:00$ 第二種区域(近隣商業地域、商業地域) 昼間 $8:00\sim20:00$ 、夜間 $20:00\sim8:00$

注 2) 工事の施行中の将来基礎交通量=現況交通量

注 3) 工事の施行中の将来交通量=工事の施行中の将来基礎交通量+工事用車両交通量

注 4) 時間帯の区分は、次のとおり。

注 5) 将来交通量による振動レベルが最大となる時間のうち、工事用車両の走行がある時間について予測を行った。

6. 環境影響評価手続等の状況

6.1 環境影響評価手続の状況

環境影響評価の手続の状況は、表 6.1-1に示すとおりである。

表6.1-1 環境影響評価の手続の状況

環境影響評価の手続	提出年月日	備 考
環境影響評価書	令和5(2023)年1月10日	_
事後調査計画書	令和5(2023)年1月17日	_
工事着手届(着工届)	令和5(2023)年1月17日	_
事後調査報告書(工事の施行中その1)	令和 5(2023)年7月6日	生物・生態系(根回しの状況、養生の状況、 仮移植計画)
事後調査報告書(工事の施行中その2)	令和6(2024)年9月30日	生物・生態系(既存樹木の状況、神宮外苑広場(建国記念文庫)の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況(4列))、自然との触れ合い活動の場、廃棄物
変更届 (その 1)	令和6(2024)年9月30日	事業計画の変更 (ラグビー場棟の施設計画)
事後調査報告書(工事の施行中その3)	令和 7 (2025)年 3 月 26 日	大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、生物・生態系(既存樹木の状況、神宮外苑広場(建国記念文庫)の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況(4列))、自然との触れ合い活動の場、廃棄物
事後調査報告書(工事の施行中その4)	令和7(2025)年9月25日	生物・生態系 (既存樹木の状況 (移植計画及び移植の状況))

6.2 許認可の状況

本事業に係る許認可の状況は、表 6.2-1 に示すとおりである。

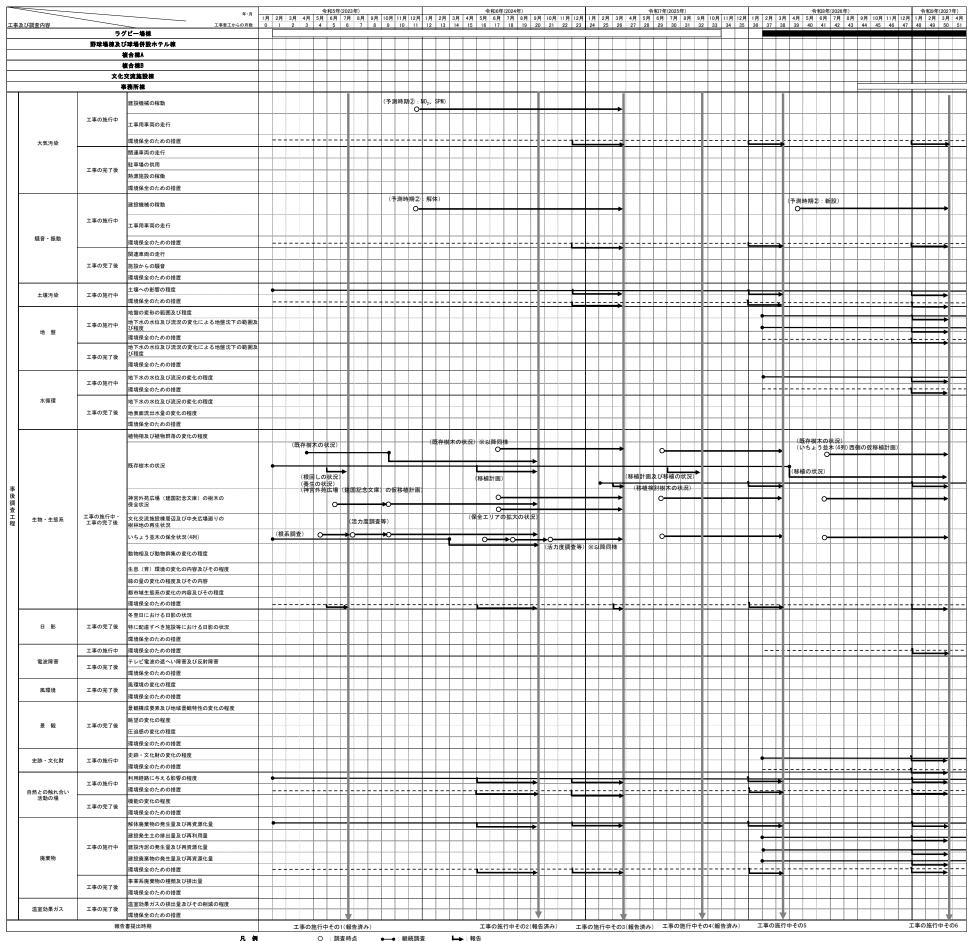
表6.2-1 本事業に係る許認可の状況

許認可等	根拠法令	年月日
建築物の確認	建築基準法 第6条第1項	
	または 第6条の2	_
第一種市街地再開発事業	都市再開発法 第7条の9	令和 5 (2023) 年 2 月 17 日 告示
地区計画	都市計画法 第12条の5	令和 4(2022)年 3 月 10 日 告示

7. 事後調査計画の変更

事業計画の変更に伴い、事後調査計画も見直しを行った。 変更後及び変更前の事後調査計画は、表 7-1~7-3 に示すとおりである。

表 7-1(1) 事後調査のスケジュール【変更後】



○ : 調査時点 ◆→・ 継続調査 ◆→ : 報告 ---: 継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の 調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

表 7-1(2) 事後調査のスケジュール【変更前】

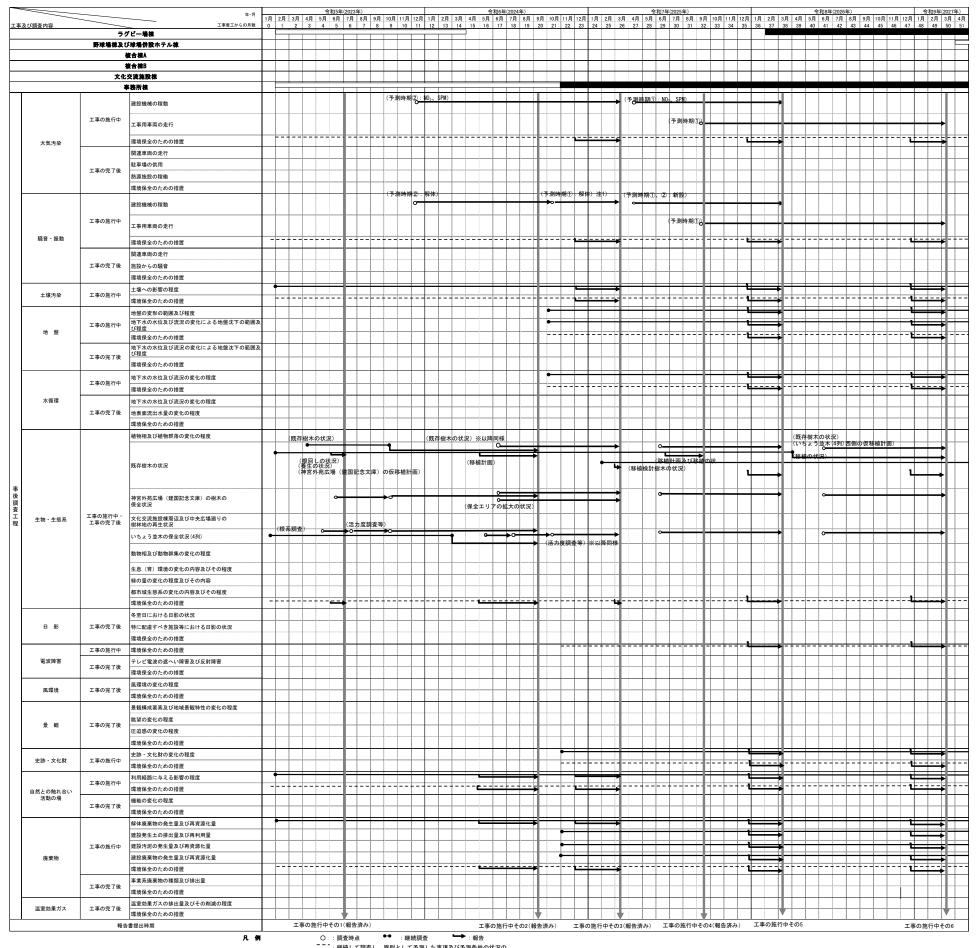
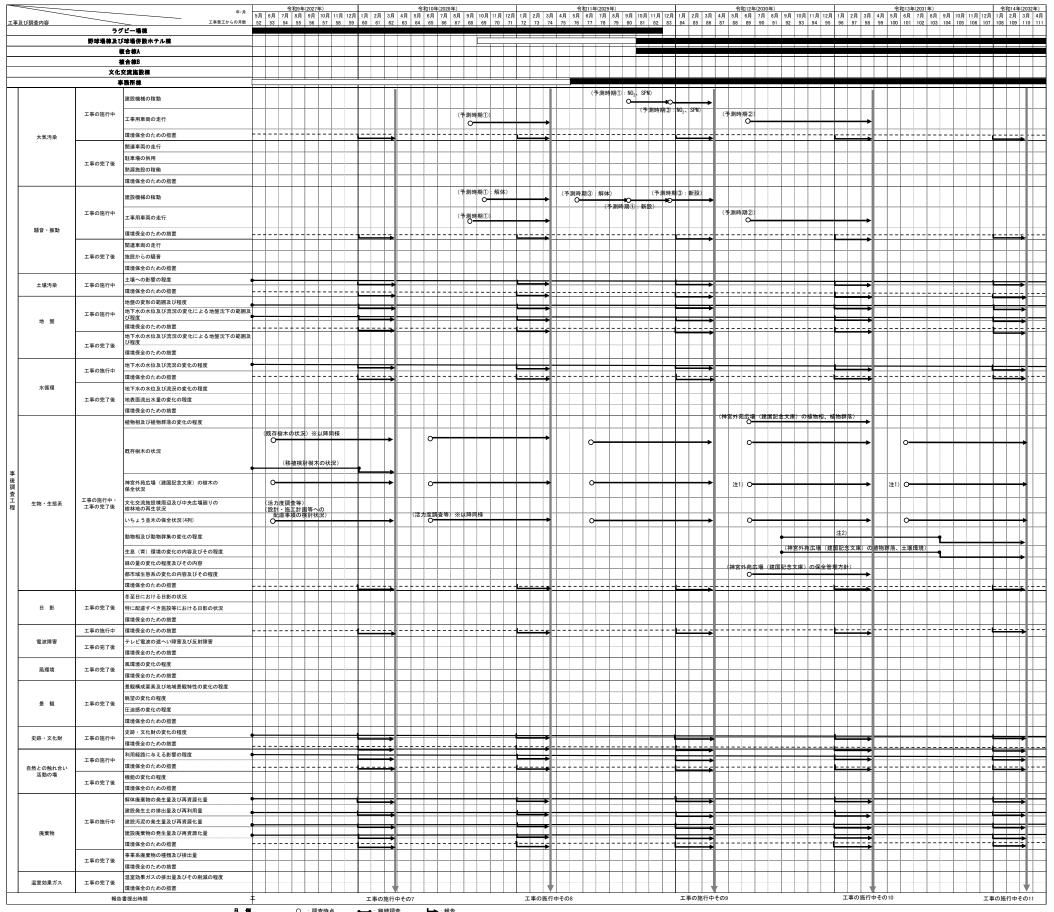


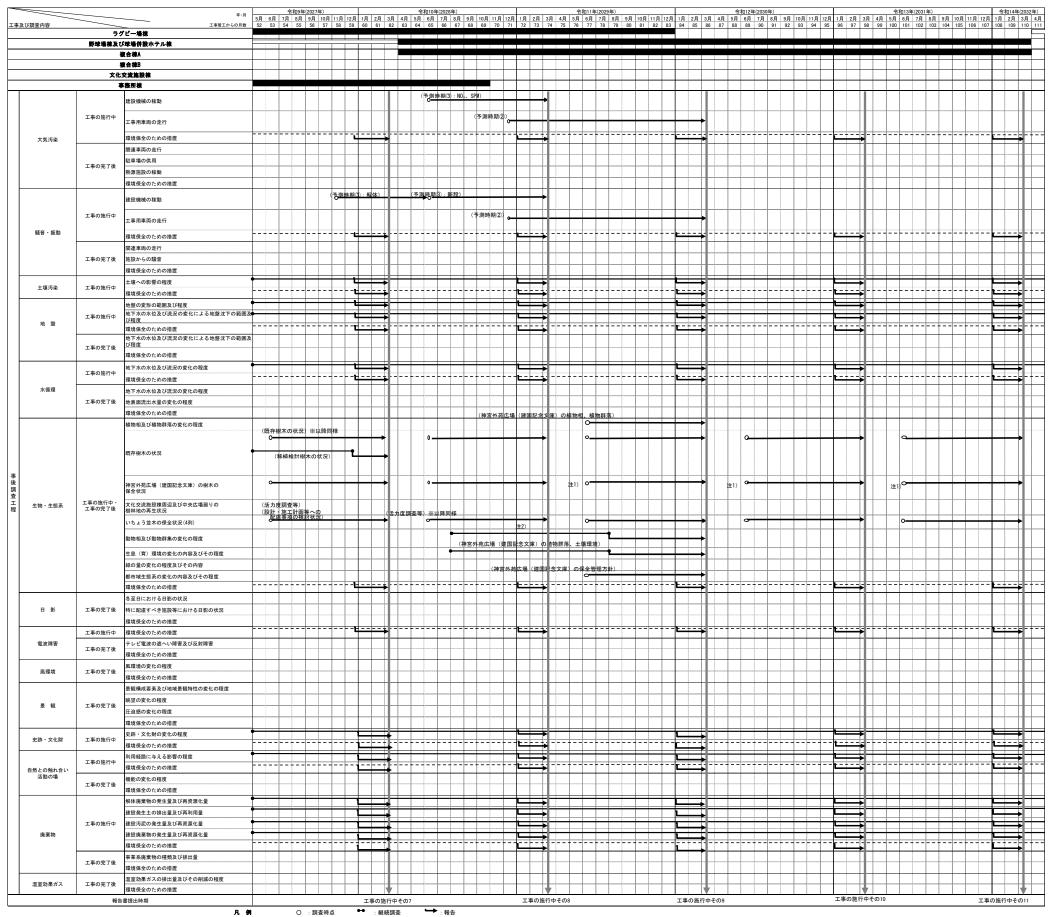
表 7-2(1) 事後調査のスケジュール【変更後】



○ : 調査時点 ◆→ : 継続調査 ◆→ : 報告
-- : 継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の 調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

注1) ラグビー場様一期工事の完了後5年間、神宮外苑広場(建国記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。 注2) ラグビー場様一期工事の完了後の回事に神宮外苑広場(建国記念文庫)の動物相調査を行う。調査時期については、動物の生息状況が定常状態となった時期を考慮して調査を行う。 注3) 野球場様の工事の完了後の四季にいよう選本(利)の動物相調査を行う。調査時期については、動物の生息状況が定常状態となった時期を考慮して調査を行う。

表 7-2(2) 事後調査のスケジュール【変更前】

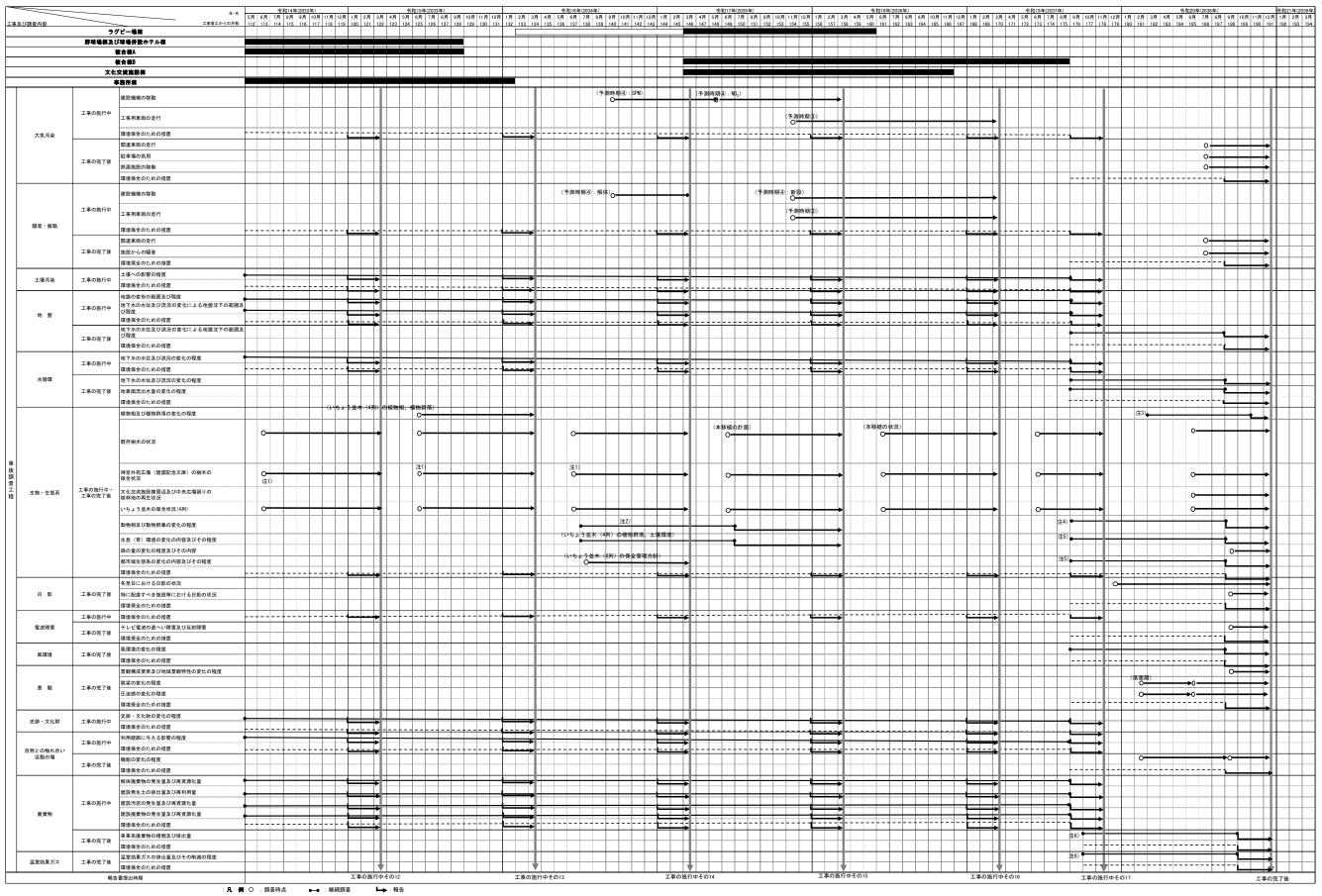


○ : 調査時点 ●● : 継続調査 ■● : 報告

-- : 継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

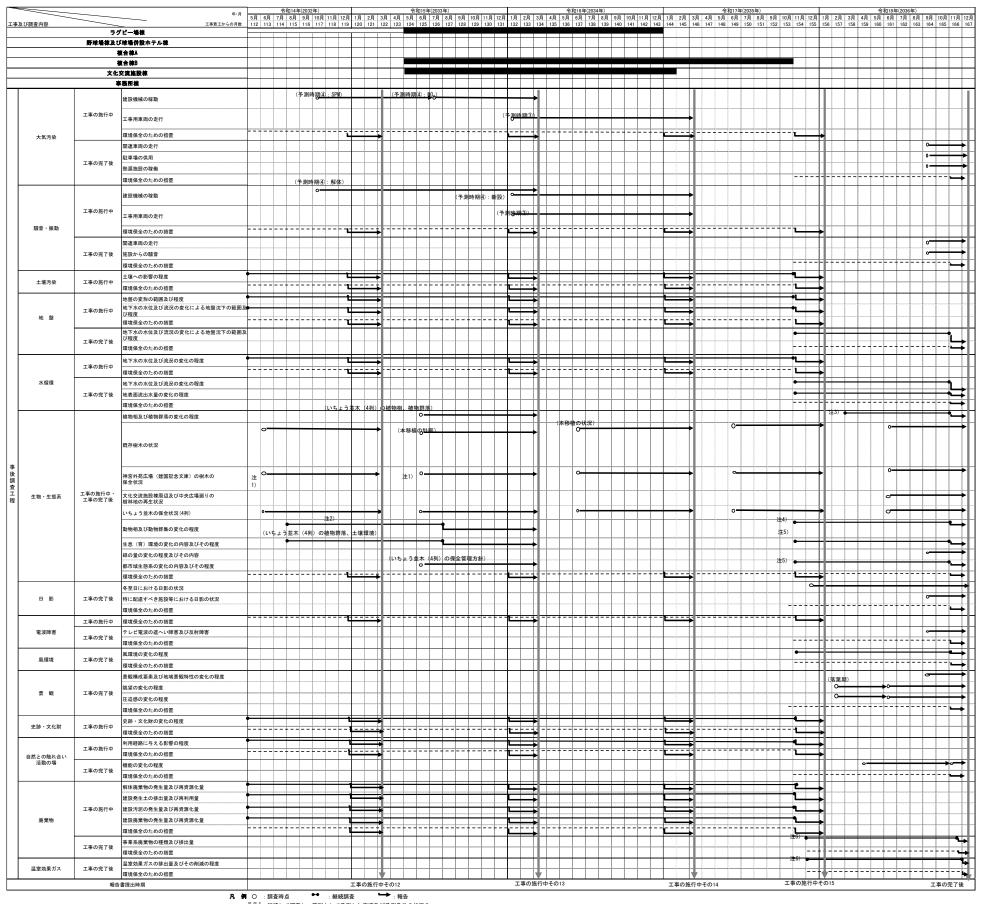
注1) ラグビー場様一期エ事の完了後8年間、神宮外苑広場(建国記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。 注2) ラグビー場様一期エ事の完了後の四季に神宮外苑広場(建国記念文庫)の動物相調査を行う。調査時期については、動物の生息状況が定常状態となった時期を考慮して調査を行う。 注3) 野球場様の工事の完了後の四季にいよう変すべ利)の動物相関変を行う。調査時期については、動物の生息状況が定常状態となった時期を考慮して調査を行う。

表 7-3(1) 事後調査のスケジュール【変更後】



- 注1) ラヴビー場構・朔工事の完了後5年間、神宮外苑広場(遠国記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。 注2) 野球場構の工事の完了後の四季にいちょう並木(4例)の動物相調査を行う。調査時期については、動物の生息状況が定常状態となった時期を考慮して調査を行う。 注4) 四季に調査。植物群落については夏季に調査。 注4) 四季に顕素。 注5) 環境保全のための特置の効果が確認できる時期に調査。 注6) 段階映用のため、各施設の供用時期が異なるが、全施設の供用が通常状態となった時期に調査。

表 7-3(2) 事後調査のスケジュール【変更前】



:継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の 調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

- 注1) ラグヒー場様一期工事の完了後5年間、神宮外苑広場(諸国記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。 注2) 野非場構の工事の完了後の四季にいちょう並木(4例)の動物相調査を行う。調査時期については、動物の生息状況が定常状態となった時期を考慮して調査を行う。 注3) 好表・春、夏本に調査、植物群落については夏季に調査。 注3) 現事に調査。 注5) 現境保全のための措置の効果が確認できる時期に調査。 226) 段期供用のため、各施設の供用等務が実なるが、全施設の供用が通常状態となった時期に調査。

資料編

1. 施工計画

変更前後の月毎の建設機械の台数は、表 $1-1\sim1-6$ に示すとおりである。 また、変更前後の月毎の工事用車両の走行台数は、表 $1-7\sim1-9$ に示すとおりである。

-	82	-

表 1-1(1) 工事期間全体における建設機械稼働台数(工事着手後 1 ヶ月目から 90 ヶ月目)【変更後】

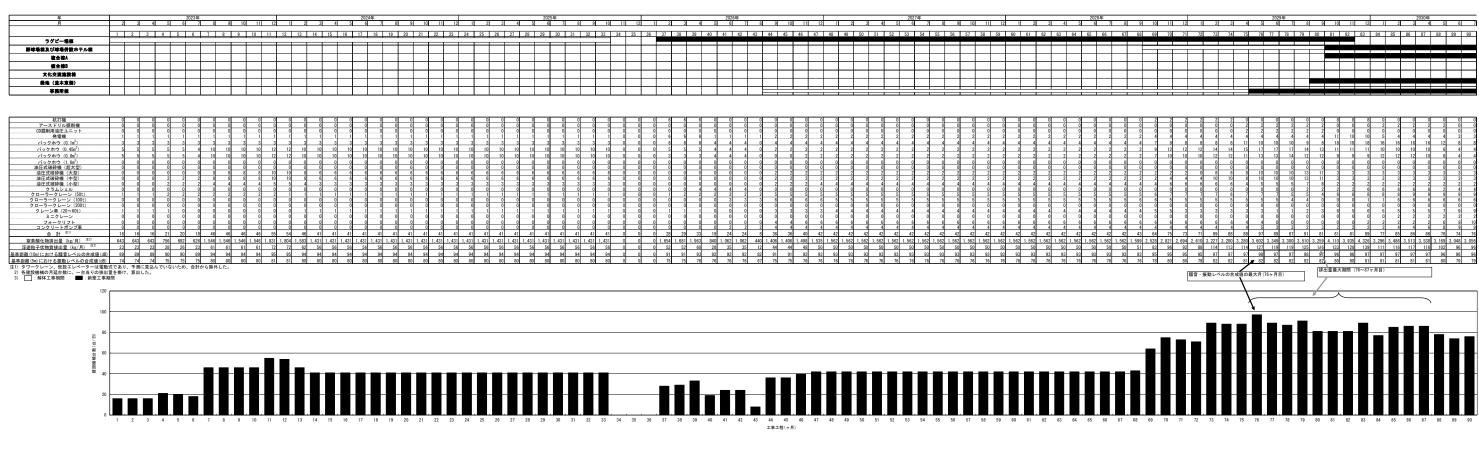


表 1-1(2) 工事期間全体における建設機械稼働台数(工事着手後 1 ヶ月目から 80 ヶ月目)【変更前】

	1 2 3	4 5	6 7	8 9 1	10 11 1	2 13	14 15	16 17	18 19	20 21	1 22 2	3 24	25 26	27 28	29 30	31	32 33	34 35	36 37	7 38	39 40	41 42	43 44	4 45	46 47	48 49	50 51	52	53 54	55 56	57 58	59 60	61 62	63 64	65 66	6 67	68 69	70 71	72 73	74 75	76 77	78 79 80
ラグビー場体																			$\overline{}$	\rightarrow																						
野球場棟及び球場併設ホテル棟																																				_		_	_	\rightarrow		_
被合体A																																				-		_	_			_
複合棟B																				\top																						
文化交流施設棟																																										
恭地 (並木東側)																			+	+																_						
事務所線																			_																	_	_	-	-	-		-
																-											-!!	-!!-						!!	!!							
杭打機	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	ol ol	0 0	2 2	2 2	2	2 0	0 0	6 6	6	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	ol ol	ol ol	0 0	ol	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 8 8	8 8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
アースドリル掘削機 CD掘削用油圧ユニット	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0 2	2 2	2 2	2	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 (0 0	0	2 2	2 2	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
CD掘削用油圧ユニット 発電機	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 2	2 2	2 2	2 8	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	2 2	0 0	2 2	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 3	0 0	0 0	0 0 0
バックホウ (0.1m³)	5 7	7 7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 4	4 4	4 4	4	4 4	4 4	10 10	10	8 8	8 4	4 4	4	4 4	4 4	4 4	4 .	4 4	4 4	4 4	4	4 4	3 4	4 4	4 4	4 7	7 8	8	7 17 16	16	14 14	13 12	8 4	4 4	4 4	4 4	4 4 4
バックホウ (0.45m³)	7 7	7 7 7	6 12	12 12	12 14	14 12	12 2	4 4	4 4	4	4 2	2 2	7 7	7	6 6	6 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	5 8	8 8	10 10	10 16	16 17	15 14	4 12 11	11	10 10	9 8	4 2	2 2	2 2	2 2	2 2 2
バックホウ (0.8m³)	5 5	5 7 7	6 12	12 12	12 14	14 12	12 2	2 2	2 2	2	2 1	1 1	5 5	5	6 6	6 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2 :	2 2	2 2	2 2	2	2 2	5 8	8 8	10 10	10 12	12 12	10 10	0 7 7	7	10 10	10 8	4 2	2 2	2 2	2 2	2 2 2
バックホウ (1.6m³) 油圧式破砕機 (超大型)	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
油圧式破砕機(起入型)	1 2	2 2 2	2 10	10 10	10 12	12 10	8 2	2 2	2 0	0	0 0	0 0	0 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	0 0	0 0	8 8	8 10	10 10	10 8	8 0 0	ő	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
油圧式破砕機(中型)	1 2	2 4 4	4 10	10 10	10 12	12 10	8 2	2 2	2 2	2	2 0	0 0	0 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	0 2	2 2	8 8	8 10	10 10	10 8	8 0 0	0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
油圧式破砕機(小型)	0 0	0 0 0	0 0	8 8	8 9	0 0	0 0	0 0	0 0	2	0 0	0 0	0 2	6	6 6	6 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 4	0 0	4 4	0 0	2 2	0 0	2 2	2 2
クローラークレーン (50t)	2 3	3 4 4	4 4	4 4	4 4	3 3	3 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	3 4	4	4 6	6 6	7 7	7	7 7	7 7	7 7	7	7 7	7 7	7 7	7	7 7	8 9	9 9	9 9	8 9	9 8	4 4	4 5 6	5	5 4	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5 5
クローラークレーン(100t)	1 1	1 1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	1 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 3	4 4	6 6	6	6 6	6 6	6 6	6	6 6	6 6	6 6	6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	4 4	4 0 0	9	0 5	5 5	5 5	5 5	5 5	6 6	6 6 6
クローラークレーン (200t) クレーン車 (20~60t)	1 2	2 2 1	2 2	2 2	2 2	2 3	3 2	2 2	1 1	1	1 1	1 1	2 2	2	1 1	2 2	4 4	4	4 4	4 4	4 4	4	4 4	4 4	4 4	4	4 4	5 5	4 4	4 4	4 4	4 2	3 3	3 7 7	6	5 4	4 3	5 7	7 7	7 7	7 7	7 7
ミニクレーン フォークリフト	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	0 0	0 0	0 (0 (0 0	0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
フォークリフト コンクリートボンプ車	0 2	2 2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2	2 0	0 0	0 0	0	0 0	2 2	6 6	6	8 8	8 8	8 8	8	8 8	8 8	8 8	- 8	8 8	8 8	8 8	8 8	8 8	8 2	2 2	2 2 2	2 2	2 2	0 0	2 4	6 6	6 6	8 8	8 8 8
合計 注()	26 35	35 42 43	41 69	69 69	69 78	77 69	64 24	29 28	27 25	23	23 16	17 17	46 57	62 4	3 50	54 38	48 48	50 5	52 52	52 52	52 52	52 5	2 52	52 52	52 52	52 5	52 52 5	50 62	61 61	79 79	78 95	95 86	77 68	8 70 68	69	57 62	58 55	45 41	43 43	43 43	45 45	45 45 45
窒素酸化物排出量 (kg/月) ^{注2)}	1.043 1.263 1.	263 1.460 1.434	1, 393 2, 314	2.314 2.314 2.	314 2.599 2.	572 2.351 2	. 199 805	1.090 1.053	989 905	868 8	868 793	848 848	2,544 2,949	3, 285 1, 81	7 2,092 2,2	01 1,579 1	. 818 1. 818	1, 827 1, 83	J5 1.835 1.8	835 1,835	1,835 1,835	1, 835 1, 83	5 1.835 1.8	335 1,835	1, 835 1, 835	1.835 1.83	35 1,835 1,89	93 2, 224 2	2, 160 2, 160 2	2, 756 2, 756	2, 729 3, 194	3, 194 2, 949	2, 698 2, 393	3, 534 3, 463			. 587 2, 506 2	. 129 2.008 2	2.016 2.016	2.016 2.016 1.	896 1, 896	1.896 1.896 1.896
浮遊粒子状物質排出量 (kg/月) ²⁰²⁾	37 45	45 53 53	51 88	88 88	88 100	99 89	83 29	37 36	34 31	29	29 25	26 26	80 94	104 6	2 70	73 51	58 58	58 5	8 58	58 58	58 58	58 5	8 58	58 58	58 58	58 5	8 58 5	59 72	71 71	96 96		114 107	98 87		111		85 81	66 60	60 60	60 60	57 57	57 57 57
基準距離 (10m) における騒音レベルの合成値 (dB)	91 92	92 93 93	93 96	96 96	96 96	96 96	95 91	92 92	92 91	91	91 92	92 92	95 96	97 9	5 95 !	95 93	93 93	94 9	.4 94	94 94	94 94	94 9	4 94	94 94	94 94	94 9	94 9	93 94	94 94	96 96	96 97	97 96	96 95	95 95		95 95	95 95	92 92	93 93	93 93	93 93	93 93 93
基準距離(5m)における振動レベルの合成値(dB) 注1) タワークレーン、仮設エレベーターは電動	76 77	77 78 78	78 81	81 81	81 82	82 81	81 75	75 75	75 74	74	74 72	72 72	77 79	80 7	9 79	79 77	77 77	77] 7	7 77	77 77	77] 77]	77] 7	7] 77]	77 77	77 77	77] 7	77] 77]	76 78	78 78	81 81	81 82	82 82	81 81	1] 78] 78	79	79 79	79 79	76 76	76 76	76 76	76 76	76 76 76
 名建設機械の貝延台数に、一台当りの排出 	:量 (p 87 参昭) をお	け、算出した。	- ロミリル・50所7F	U/2.	HE SELL OF	ルの合成値の記	昌士 B /11 c E	181						[ES	音レベルの合	成績の基本を	1 (27 年 日 日)		\neg																大気汚染物	勿質排出量最.	大期間 (55~66	ヶ月				
3)	期間				300,000 0 - 17	/ /	MACA (III) A	10/							/	,x iii v , x , x , x , x , x , x , x , x , x ,	1(2,7,714)																									
100					/																												$\overline{}$									
00					/									/	1																											
90																																										
80					<u></u>									$-\!\!/-$																	_		_									
70					_																													_								
â.							_							_																						_						
150 4a																																										
																								-				_														
業														_						4 1 1																4 3 7						
*																																						4 - 7	4 -	4 - 7		4 8 8
#U 30																																										
									-											4 🔳 ′																4 3 7		4 8 7	4 8 7	4 8 7		4 3 3
20									-	-	_									H							_	_										4-8-7	4	4		4 -
10																																										
10																																										
0	1 2 3	4 5	6 7	8 9 1	0 11 15	2 13 1	14 15	16 17	18 19	20 21	22 2	3 24	25 26																53 54		 _	59 60	61 62	63 64	65 66	5 67	8 69	70 71 7	72 73	74 75 7	6 77	78 79 80
		7 3	• ,		. 11 14	. 10	10	.5 1/	.0 13	20 21		- 27	20 20	2, 20	20 30	01	or 00	OT 30	50 37		工事工程(ヶ月		40 44	- 40	10 11	-5 +5	30 31	J.	00 04	00 00	57 50	55 00	J1 J2	30 04	00 00	0, 0	~ 00	· // //	10	10 /1	• "	5 73 80

表 1-2(1) 工事期間全体における建設機械稼働台数(工事着手後 91 ヶ月目から 175 ヶ月目)【変更後】

年	0	2030	年 101 111	12	11 21	9 4	20	31年	ol ol	10 11	1 12	-11	l al	al i	2032年	7l ol	οl	ol 111	12 1	2	2	41 61	2033年	7l ol		10 11	12	п.	al al	41	2034	年 7	ol ol	10	11 12	-11	2	ol 41	el	2035年	ol	ol 10	111	12	ıl al	- 2	41 El	2036年	7l ol	ol 10	1 11	12 11	2	2037年	el el	
H.	- 0	3]	10] 11]	12]	11 - 21	31 41	3] (1 4	0 3	10] 11	12]	_'!	:1 31	*1 :	oj.	/ 0	3]	vj 11j	12] 1	- 4	ા	41 31	0]	/ 0		101 111			21 3	*1	3 6	- 4	0 3	10	111 12	- "	-41	3 4	31	01 /	0	9] 10		12]	11 - 21		41 31	O]	/ 0	9] 10	1 11	121 11		-, -,		
	91	92 93	94	95 96	97 98	99	100 101	102 10	3 104	105 106	107	08 109	110 1	11 112	113 114	115	116 117	118 1	19 120	121	122 123	124	125 126	127	128 129	9 130	131 17	32 133	134	135 136	137	138 13	9 140	141 14	42 143	144 145	5 146	147	148 14	9 150	151 1	2 153	154	155 156	157	158 159	9 160	161 16	163	164 165	166 16	JT 168	169 170	171 172	72 173	174 175
ラグビー橋棟																															-				_		_	-		-						_	_					\perp				
野球場線及び球場併設ホテル線																											Щ.																											\perp		
複合棟A																																																								
被合排B																											1													_	_	_		_	-	_						+		_		
文化交流施設線																									. —	TT																				_						T				
緑地 (並木東側)																									. —	\top																														
事務所植																									_	#	_				1 1		\neg				\neg	+				_			t	-						+		+	\neg	
- W. W. W.																																											· · · · · ·		 						· · · · · ·					
	0	0	0 0	9	9 9	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	6 6 0 0	4	2 2	2	0 0	1	0		0	0 0	0	0 0	0 0	9	9 9	0	0 0	0 0	0
CD提削用油圧ユニット	0	0	0 0	0	0 0	0 0	0 (0	0 0	0 0	o o	Ö	0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0	Ö	0 0	0	0 0	. 0	0 0	0	Ö	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	Ö	Ö	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0) 0	0 0	Ö	0 0	0 0	ol ,
免電機	3	3	3 2	2	2 2	2 2	2 2	1	1 1	1 1	1	-1	1 1	1		1 1	1	1 1	1		-1	1 1	1	1 1		0 0	0	0	0 1	-1	1 1	!	1 1	1	1 1	1	1	6 6	5	5 5	5	3 3	1	-1	<u>4 4 </u>	-1-	1 0	0	0 0	0 (0	0 0	0	1 0	0 0	0 1
バックホウ (0.1m³) バックホウ (0.45m³)	8	8	8 8	8	8 8	8 8	10 10	9	9 9	8 8	8	8	8	4 .	2	2 0	0	0 0	0 1	1	5	5 6	6	5 4	2	2 1	_	0	0 4	8	8 0	10	12 12	12	12 12	10	3 1	8 0	12	6 4	8	8 11	10	9	4 2	4	0 0	0	0 0	0 1	0	0 0	2	2 2	2 1	1
バックホウ (0.8m³)	4	4	4 4	4	4 4	4 4	4 4	4	4 4	4 4	4	4	4	4	2	2 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	. 0	0	0 8	8	8 8	10	12 12	12	12 12	10	10	4 4	4	5 4	4	4 4	4	4	2 2	2	0 0	0	0 0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0
バックホウ (1.6m³)	0	0	0 0	0	0 0	0 0	0 (0	0 0	0 0	o o	0	0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0	ō	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	Ö	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	ō	0 0	0 0	0
油圧式破砕機 (超大型) 油圧式破砕機 (大型)	0	0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	. 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	- 0	0 0	- 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	0	2 0	0 0	0 0
油圧式破野機(入堂)	3	3	3 3	3	3 3	3 3	3 3	3	3 3	3 3	3	3	3	3 :	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	. 0	0 0	0	0	0 2	2	2 2	8	10 10	10	10 10	10	8	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0	0 0	0	0 0	0 0	ŏ	0 0	0	6 6	0 0	0
油圧式破砕機 (小型)	2	2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2	2	2	2	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 2	2	2 2	4	5 5	5	5 5	5	4	0 0	0	0 (0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0 (
クラムシェル クローラークレーン (50t)	9	9	9 9	9	9 9	9 9	9 9	9	9 9	9 9	9	9	9	9 9	9	9 9	9	9 9	9 9	8	9	6 4	4	4 3	3	0 0		0	0 2	2	2 2	2	2 2	2	2 1	1	1	5 5	5	6 6	6	6 6	6	5	5 5	5	5 4	4	4 4	4 3	2	2 2	2	2 2	2 1	1
クローラークレーン (100t) クローラークレーン (200t) クレーン車 (20~60t)	6	6	6 7	7	7 7	7 7	7 7	7	7 7	7 7	7	7	7	7	7	7 7	7	7 7	7 7	7	7	6 5	3	3 0	0	0 0	0	0	0 0	1	1 1	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	1 1	- 1	2 3	3	2	2 2	2	2 2	2	2 2	2 1	1	1 1	1	1 1	1 0	0 '
クローラークレーン (200t)	0	0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0	0 (0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0	0 0	. 0	0 0	0 0	0	0 0	0) 0	0 0	0 0
ミニクレーン	2	2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2	2	2 2	2	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	. 3	0 0	()	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	Ö	ò	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0
フォークリフト コンクリートポンプ車	10	10	10 12	12	12 12	12 12	12 12	12	12 12	12 12	12	12 1	12	12 1	12	12 12	12	2 12	12 12	12	10	0 4	4	4 4	2	2 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	2	4 6	8	6	6 6	6	6 6	6	6 6	6 4	4	4 4	4	2 2	2 2	0 (
コングリートホンフル 合 計 ^{注1)}	76	76	9 9	70	70 70	70 70	9 5	70	8 8	72 72	72	72 7	72	72 7	8	8 8	45	2 42	42 45	8	E1 4	8 5	21	3 3	14	0 2	. 0	0	0 20	20 2	0 0	47	0 0	56	56 55	E1	46 4	0 0	45	40 26	20	4 4	52	44 2	9 4	- 4	22 20	20	20 20	20 1/	2 2	2 2	15 1	2 2	10 6	0 (
空素酸化物排出量 (kg/月) ^{注2)}	3 056	3. 056 3. 0	6 2 937	2, 937 2, 9	37 2 937 2 9	37 2 937	3 022 3 022	2 815 2 5	69 2 569	2 526 2 526	2 526 2	526 2 52	2 526 2	526 2 52	1 942 1 9	42 1 594	594 1 5	5 1 535 1	535 1 578	1 551 1	741 1 62	4 1 133	059 9	06 788	584	212 106	106	0 97	74 974	011 1 01	1 1 349	1 565 1	850 1 850	1 850 1	850 1 823	1 735 1 5	583 2 11	4 2 114	2 151 1 1	98 1 825	1 896 1	774 1 948	1 793 1	587 1 28	2 1 282	1 282 5	34 679	679	679 679	679 413	344 3	344 344	429 29	4 294	239 133	70
浮遊粒子状物質排出量 (kg/月) ^{注2)}	96	96	96 93	93	93 93	93 93	96 96	90	83 83	81 81	81	81 8	81	81 8	59	59 46	46	4 44	44 46	45	53 5	50 36	34	29 25	18	7 4	4	0 3	37 37	38 3	38 51	62	73 73	73	73 72	68	62 6	8 68	69	61 57	59	56 63	58	52 4	0 40	40	27 20	20	20 20	20 13	10	10 10	14	0 10	8 4	3
基準距離(10m)における騒音レベルの合成値(d	dB) 96	96	96 96	96	96 96	96 96	96 96	96	96 96	96 96	96	96 9	96	96 91	94	94 92	92	2 92	92 92	92	93 9	93 91	91	90	87	86 81	81	0 9	91	92 9	93	94	95 95	95	95 95	95	94 9	3 93	94	93 92	92	93 94	94	93 9	2 92	92	89 89	89	89 89	89 88	87	87 87	88 8	7 87	86 85	81 (
基準距離(5m)における振動レベルの合成値(di	B) 79	79	79 79	79	79 79	79 79	79 79	79	79 79	79 79	79	79 7	79	79 79	76	76 73	73	3 73	73 73	73	74	74 73	73	72 72	68	68 62	62	0 7	77	77 7	77 79	80	81 81	81	81 81	81	80 7	6 76	77	76 76	76	76 77	77	76 7	75	75	70 69	69	69 69	69 68	66	66 66	69 6	9 69	68 66	62
泰幸組織(IIII)における報音レルルの音版機(III) 基準開催(IIII)における報告レベルの合成値(III 注)) タワークレーン、仮設エレベーターは電 2) 名数接機械の月延台数は、一台当りの排 3) : 解体工事期間 : 新柴工事	E動式であり 出量を掛け 事期間 20	、算出した	込んでいな し	いため、合	計から除外した	ž.																																																		
10	00																																																							
(日/等) (44) (44) (44) (44) (44) (44) (44) (4	40			_																																																		171 172		
	0	92 92		95 96	97 0		100 101	102 10	104	105 106	107	09 100	110 1	11 112	112 114	115	116 117	110 1	19 120	121 1	22 122	124	125 126	127	120 12	9 120	121 1	22 122	124	125 126	127	120 12	9 140	141 14	1 1/12	144 145	5 146	147	148 14	150	151 15	2 153	154 1	55 156	157	150 15	160	161 16	2 163	164 165	166 167	7 169	160 170	171 17	. 172	174 175

表 1-2(2) 工事期間全体における建設機械稼働台数(工事着手後 81 ヶ月目から 153 ヶ月目)【変更前】

	81 8	2 83	84	85 86	87	88	89 90	91	92 9	3 94	95	96 97	98	99 100	101 1	102 103	104 10	05 106	3 107	108 10	9 110	111 1	12 113	114 11	15 116	117 118	119 120	121 12	22 123	124 125	126 1	127 128	129 130	131 13	133	134 135	136 13	37 138 1	9 140 1	1 142 14	.3 144	145 146	6 147	148 149	150 151	152 153
ラグピー場核																								_		_											+			_	=					
野球場棟及び球場併設ホテル棟																																														
複合棟A																																														
複合棟B																																									_			_		_
文化交流施設棟																																								_						
緑地 (並木京側)																																														
事務所棟																																														

杭打機	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0 0	6	6 4	2 :	2 2	0 0	1	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
アースドリル掘削機	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	Ô	0 0	0	0 0	1 0	0 0	Ô	0 0	0 0	0	0 0	ō	0 0	2	2 2	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
CD掘削用油圧ユニット	0 (0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	4 0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J O	0 0	. 0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
発電機	2 2	2 2	1 1	1	1 1	1	1 1	1	1 1	1	1 1	1 1	1	1	1 1	1 1	1	1	1 1	1	1 1	1 1	1 1	1	1 1	1 1	1 1	1 1	6	6 5	5	5 5	3 3	1	1 1	1 1	1	1 1	1	1 1	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0
バックホウ (0.1m³)	4 6	6	5 5	5	4 4	4	4 4	4	4 4	4	4 0	0 0	0	0	0 0	3 3	4	4	3 2	0	3 4	4	4 4	4	4 4	4 4	1 4	3 3	12	12 12	10 8	8 8	8 11	10	9 4	4 4	0	0 0	J 0	0 0	1	0 0	0	2 2	2	2 1 1 0
バックホウ (0.45m³)	2 4	4	3 3	3	2 2	2	2 2	2	2 2	2	2 0	0 0	0	0	0 0	3 3	4	4	3 2	0	5 8	.1 8	8 8	10	12 12	12 12	2 12	10 10	8	8 8	6 4	4 4	4 7	6	5 2	2 2	0	0 0	J 0	0 0	. 1	0 0	0	2 2	2	2 1 1 0
バックホウ (0.8m³)	2 2	2	2 2	2	2 2	2	2 2	2	2 2	2	2 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	5 8	8	8 8	10	12 12	12 12	2 12	10 10	4	4 4	5 4	4 4	4 4	4	4 2	2 2	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
バックホウ (1.6m³)	0 (0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
油圧式破砕機(超大型)	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0 1	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0
油圧式破砕機(大型)	0 0	o o	0 0	Ö	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 8	8	10 10	10 10	10	10 8	ō	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0
油圧式破砕機(中型)	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 2	. 2	2 2	8	10 10	10 10	10	10 8	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
油圧式破砕機(小型)	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 2	. 2	2 2	4	5 5	5 5	5 5	5 4	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0
クラムシェル	2 2	2 2	2 2	2	2 2	2	2 2	2	2 2	2	2 0	0 (0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 4	0 (0 0	2 2	2	2 2	2 2	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
クローラークレーン (50t)	5 5	5	5 5	5	5 5	5	5 5	5	5 5	5	5 5	5 5	5	5	5 4	5 5	3	3	3 2	2	1 2	.1 2	2 2	2	2 2	2 2	2 1	1 1	5	5 5	6 (6 6	6 6	6	5 5	5 5	5	5 5	i 5	5 5	. 3	2 2	2	2 2	2	2 1 1 0
クローラークレーン (100t)	6 6	6	6 6	6	6 6	6	6 6	6	6 6	6	6 6	6 6	6	6	6 6	6 6	5	3	3 0	0	0 0	1 1	1 1	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	1	1 1	2 3	3	2 2	2 2	2	2 2	2 2	2 2	. 1	1 1	1	1 1	1	1 0 0 0
クローラークレーン (200t)	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0 0
クレーン車 (20~60t)	7 7	7	7 4	4	4 4	4	4 4	4	4 4	4	4 4	4 4	4	4	4 4	4 4	0	0	0 1	1	1 1	1 1	1 1	0	0 0	0 (0 0	1 1	3	3 2	2 :	2 3	4 4	5	5 5	5 5	5	5 5	<i>i</i> 5	5 5	2	2 2	2	2 0	0	0 0 0
ミニクレーン	0 (0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0	0 0	0 0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 0	0	0 0	J 0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0 0
フォークリフト	8 8	8	8 8	8	8 8	8	8 8	8	8 8	8	8 8	8 8	8	8	8 8	8 8	2	2	2 2	0	0 0	0	0 0	. 0	0 0	0 (0 0	0 0	0	0 0	0 (0 2	4 6	8	6 6	6 6	6	6 6	<i>i</i> 6	6 6	4	4 4	4	4 2	2	2 2 0 0
コンクリートボンプ車	7 7	7	7 6	6	6 6	6	6 6	6	6 6	6	6 6	6 6	6	6	6 6	6 6	4	4	2 2	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0 (0	0 0	0	0 1	1 :	2 2	4 4	6	5 4	4 4	4	4 4	4 4	4 4	2	2 2	2	2 2	2	1 1 0 0
合計 ^{注1)} 4	45 49	49	46 42	42	40 40	40	40 40	40	40 40	40 4	10 30	30 30	30	30 3	0 29	36 36	23	21 1	17 12	4	16 28	1 29 7	29 37	47	56 56	56 56	55	51 46	44	44 45	40 3	6 39	41 50	52	44 33	33 33	23	23 23	3 23	23 23	14 1	11 11	11	15 11	11	10 6 3 0
窒素酸化物排出量 (kg/月) ^{注2)} 1,89	96 1, 982	1, 982 1,	774 1,529	1, 529	1,486 1,486	1,486 1,	. 486 1, 486	1,486 1,4	486 1, 486	1, 486 1, 48	86 1, 138	1, 138 1, 138	1, 138 1,	138 1, 13	8 1, 111 1, 2	66 1, 266	831	756 60	03 485	282 64	43 974	1 1,011 1,0"	J11 1, 349	1,565 1,8	50 1,850 1,8	850 1,850	1,823 1,	735 1, 583	2, 114 2, 1	114 2, 151 1	898 1,825	5 1,896	1,774 1,948	1,793 1,5	587 1, 282	1, 282 1, 282	934	934 934	4 934	934 934	413 34	44 344	344 4:	29 294	294 27	39 133 70 0
浮遊粒子状物質排出量 (kg/月) ^{注2)} 5	57 61	61	54 47	47	45 45	45	45 45	45	45 45	45 4	15 33	33 33	33	33 3	3 32	38 38	26	24 1	19 15	8 2	23 37	38	38 51	62	73 73	73 73	72	68 62	68	68 69	61 5	7 59	56 63	58	52 40	40 40	27	27 27	1 27	27 27	13 1	10 10	10	14 10	10	8 4 3 0
基準距離(10m)における騒音レベルの合成値(dB) 9	93 93	93	93 93	93	93 93	93	93 93	93	93 93	93 9	90	90 90	90	90 9	0 90	91 91	89	89 8	88 87	79 8	89 91	92 '	92 93	94	95 95	95 95	95	95 94	93	93 94	93 92	2 92	93 94	94	93 92	92 92	89	89 89	9 89	89 89	88 8	87 87	87	88 87	87 5	85 81 0
基準距離(5m)における振動レベルの合成値(dB) 7	76 76	76	76 75	75	75 75	75	75 75	75	75 75	75	75 71	71 71	71	71 7	1 71	73 73	72	72	70 69	60	74 77	77	77 79	80	81 81	81 81	81	81 80	76	76 77	76 76	6 76	76 77	77	76 75	75 75	70	70 70	o 70	70 70	68 F	66 66	66	69 69	69 f	ô8 66 62 0

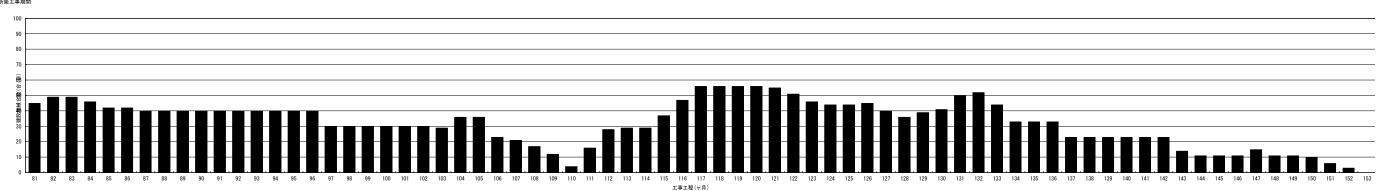


表 1-3(1) 予測時期①における建設機械稼働台数【変更後】

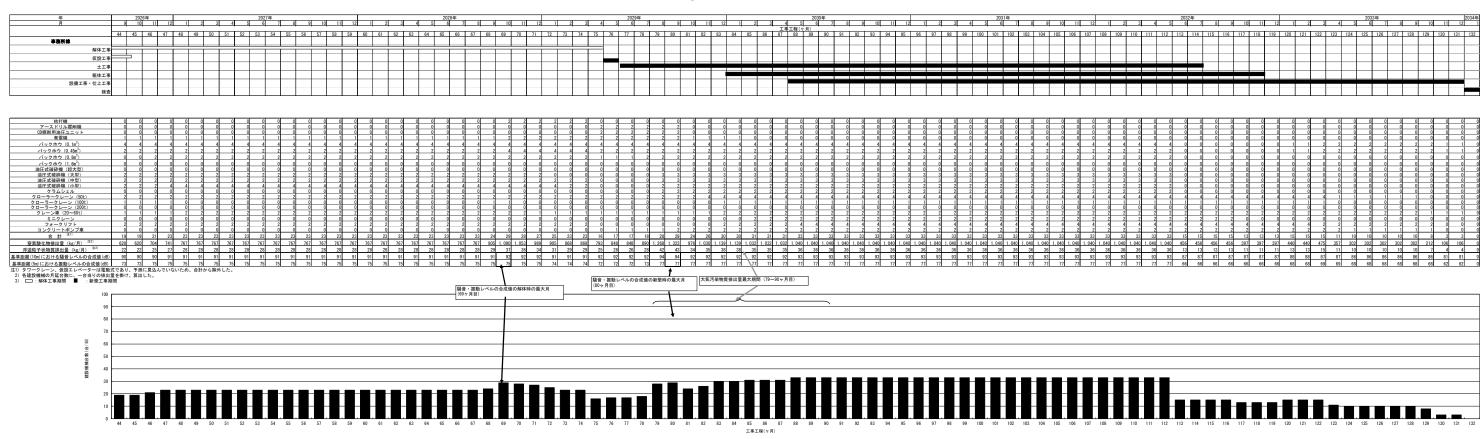


表 1-3(2) 予測時期①における建設機械稼働台数【変更前】

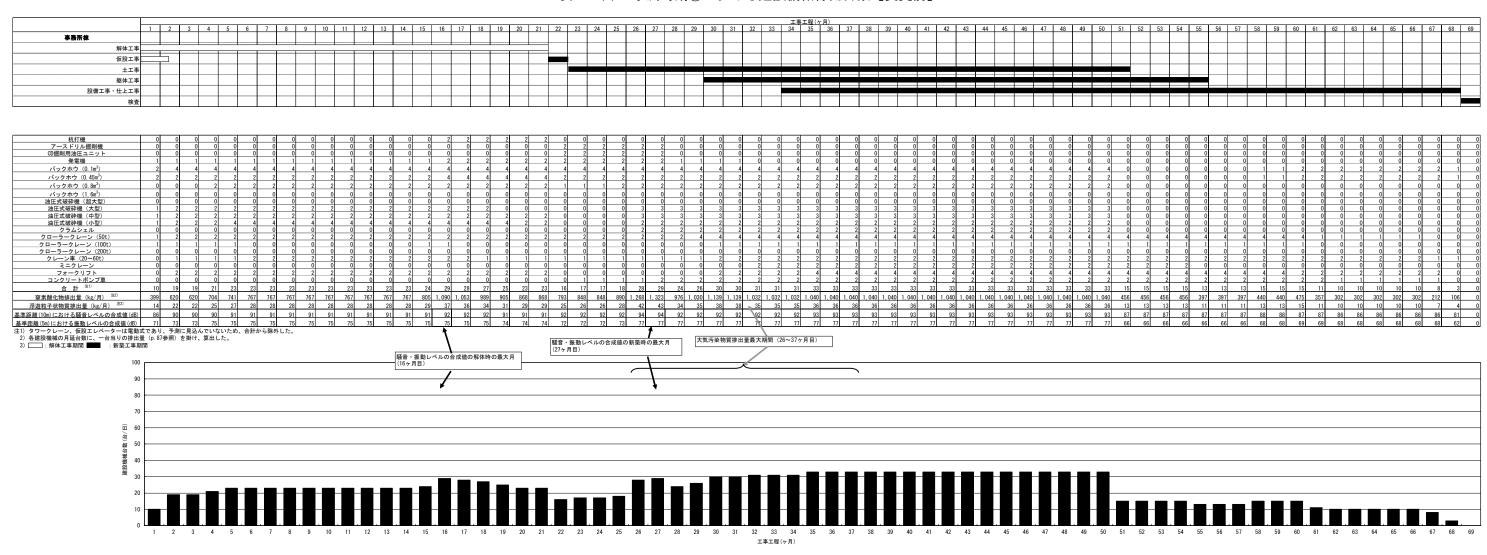


表 1-4(1) 予測時期②における建設機械稼働台数【変更後】

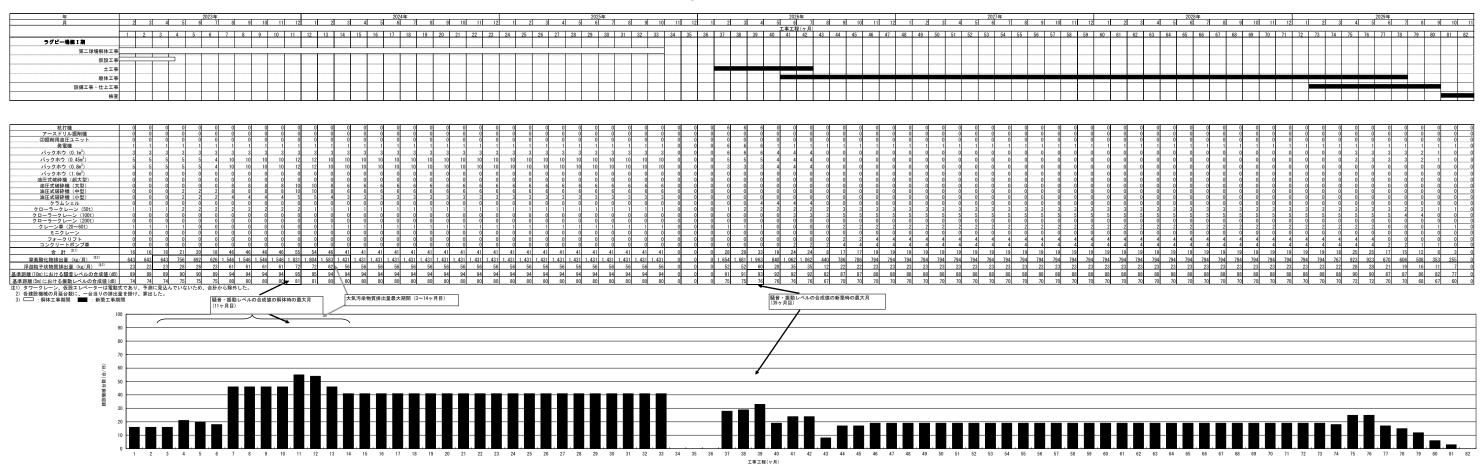


表 1-4(2) 予測時期②における建設機械稼働台数【変更前】

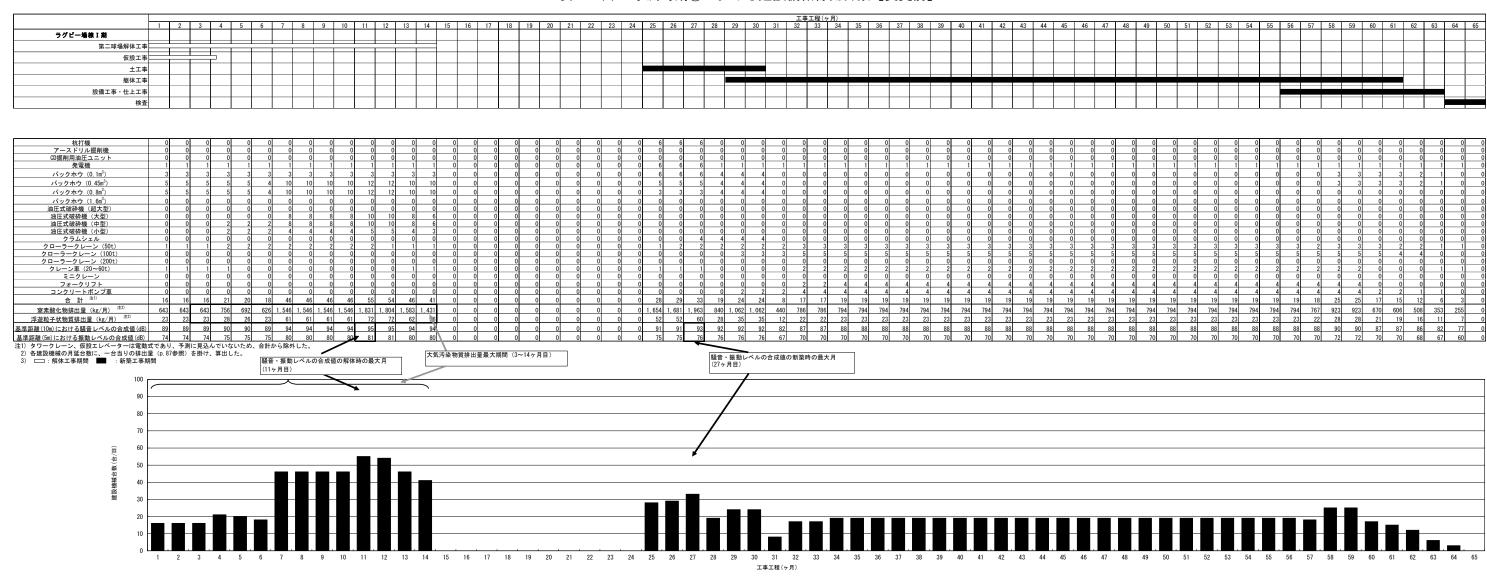


表 1-5(1) 予測時期③における建設機械稼働台数【変更後】

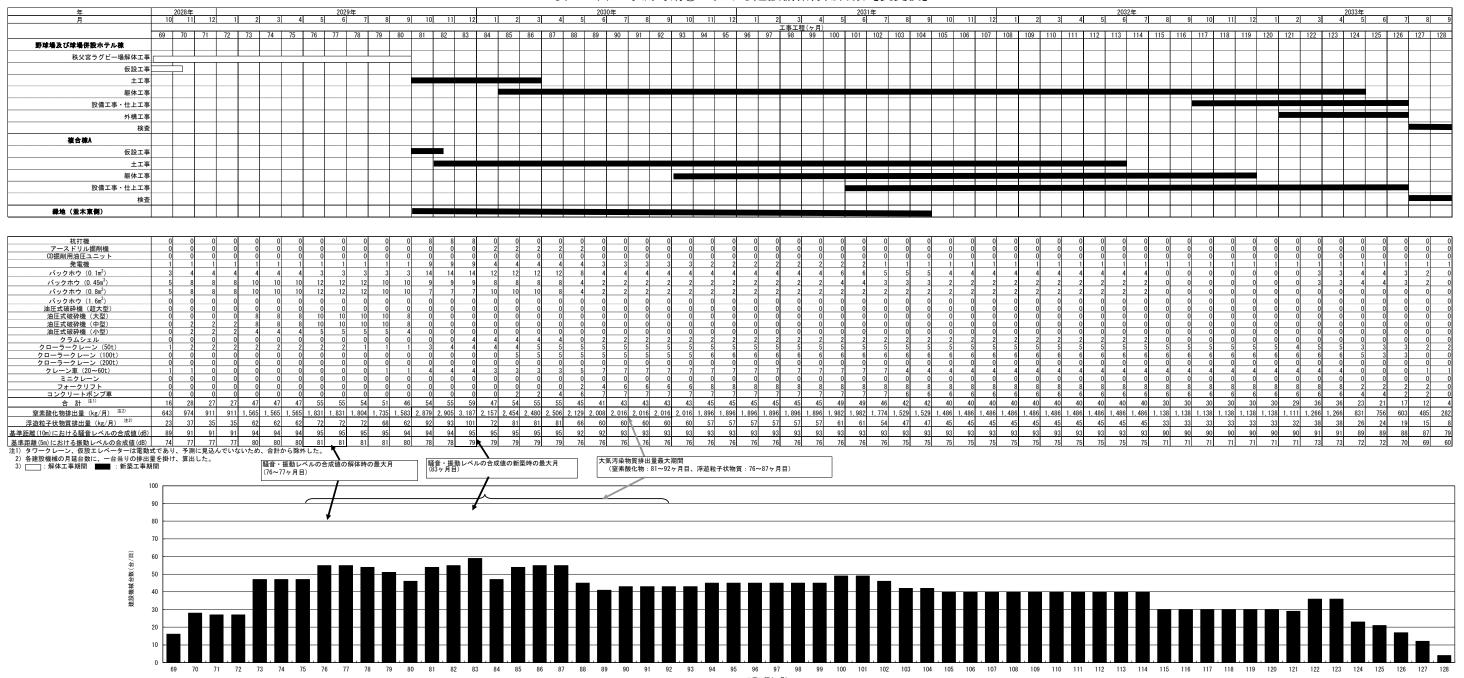


表 1-5(2) 予測時期③における建設機械稼働台数【変更前】



表 1-6(1) 予測時期④における建設機械稼働台数【変更後】

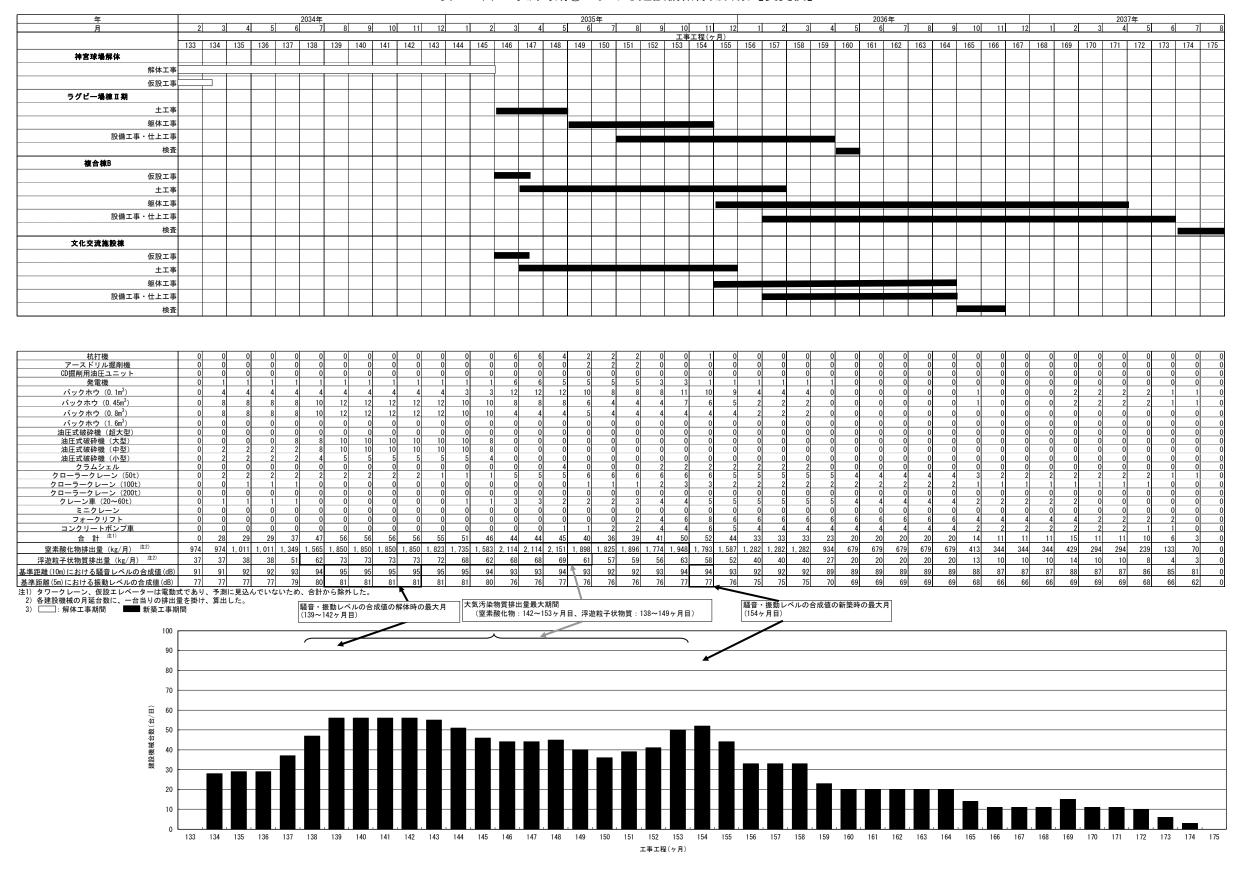


表 1-6(2) 予測時期④における建設機械稼働台数【変更前】

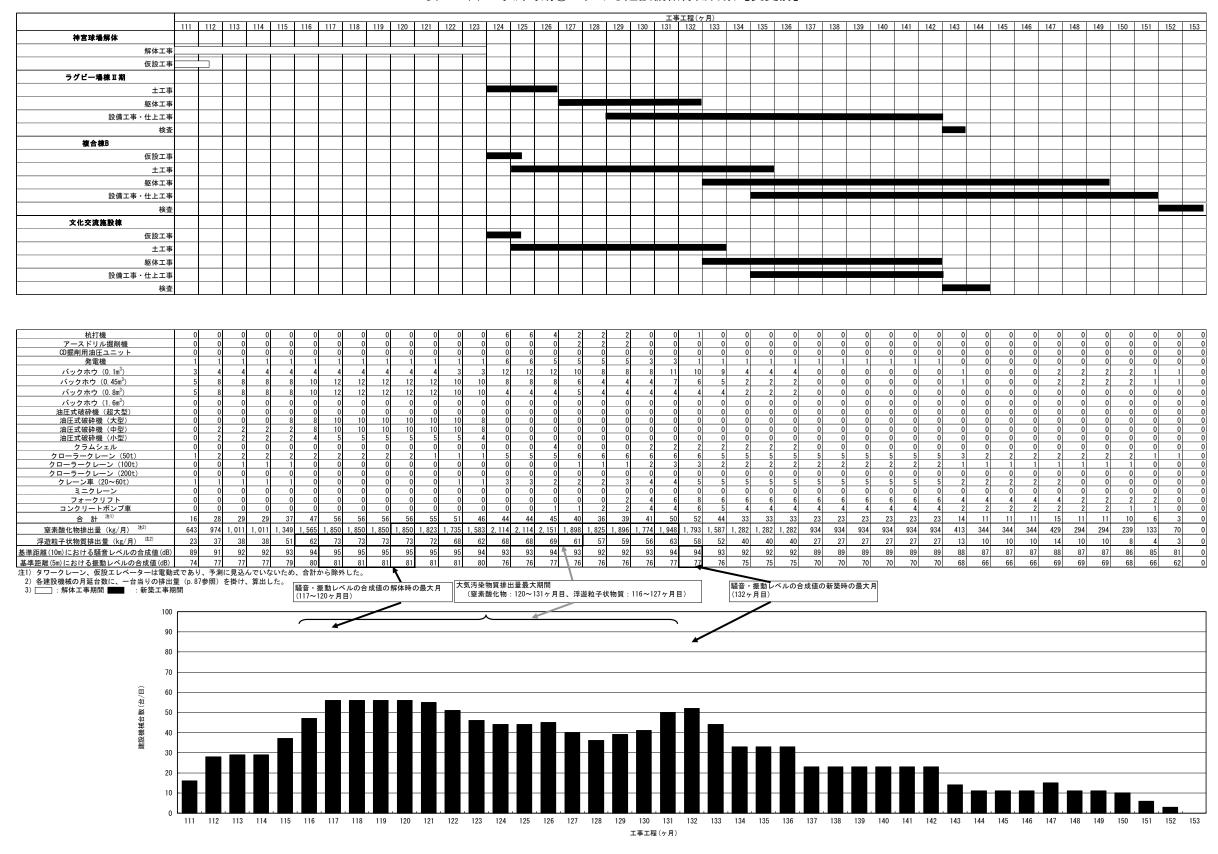
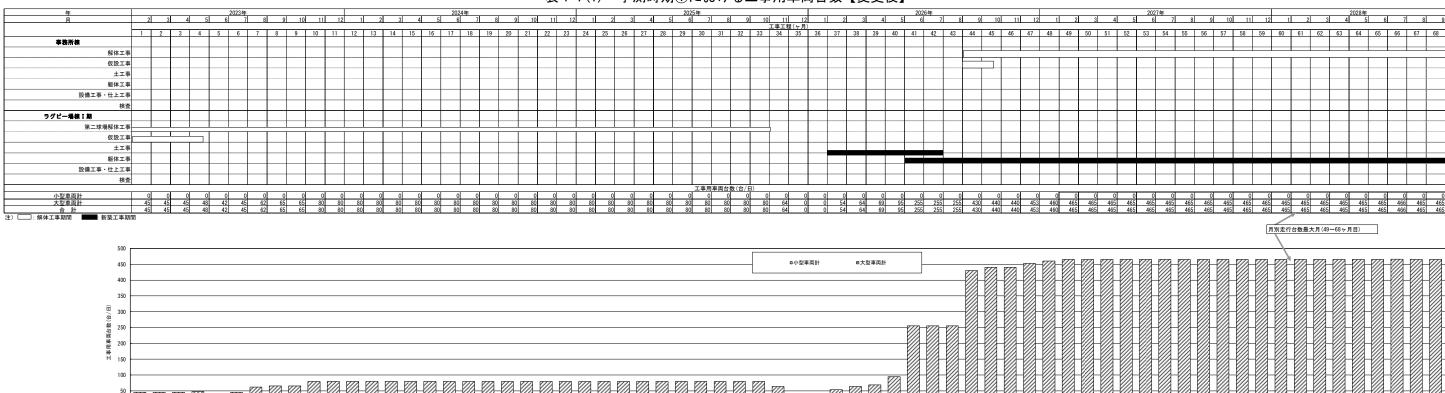


表 1-7(1) 予測時期①における工事用車両台数【変更後】



32 33 34 35 36 37 38 39 40 工事工程(ヶ月)

表 1-7(2) 予測時期①における工事用車両台数【変更前】

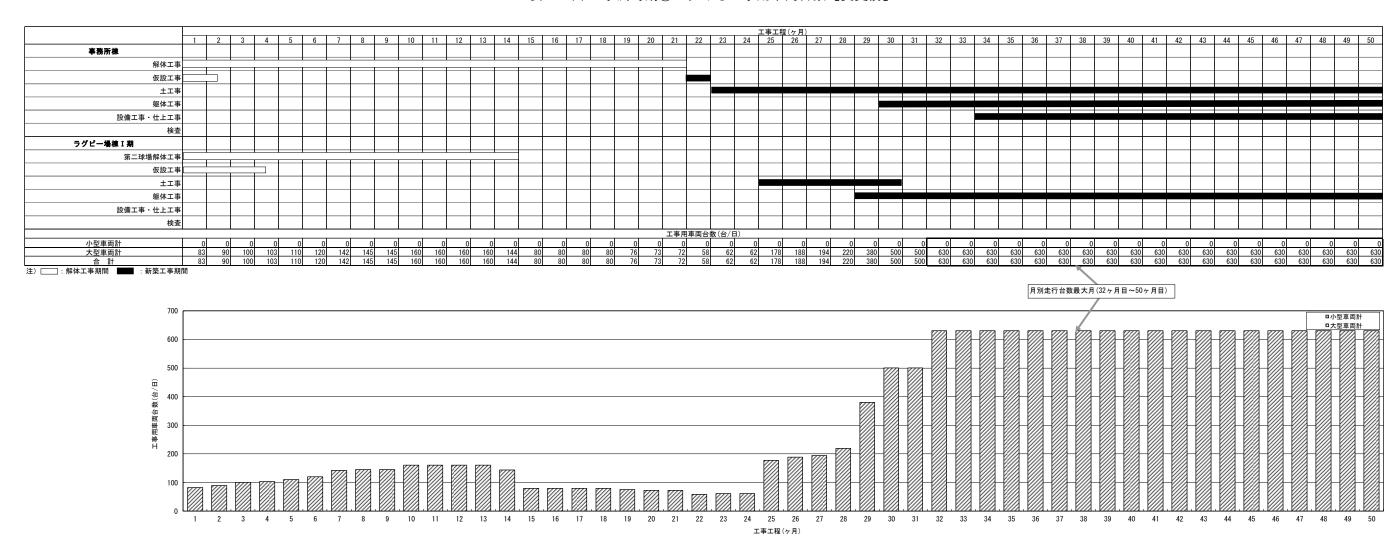
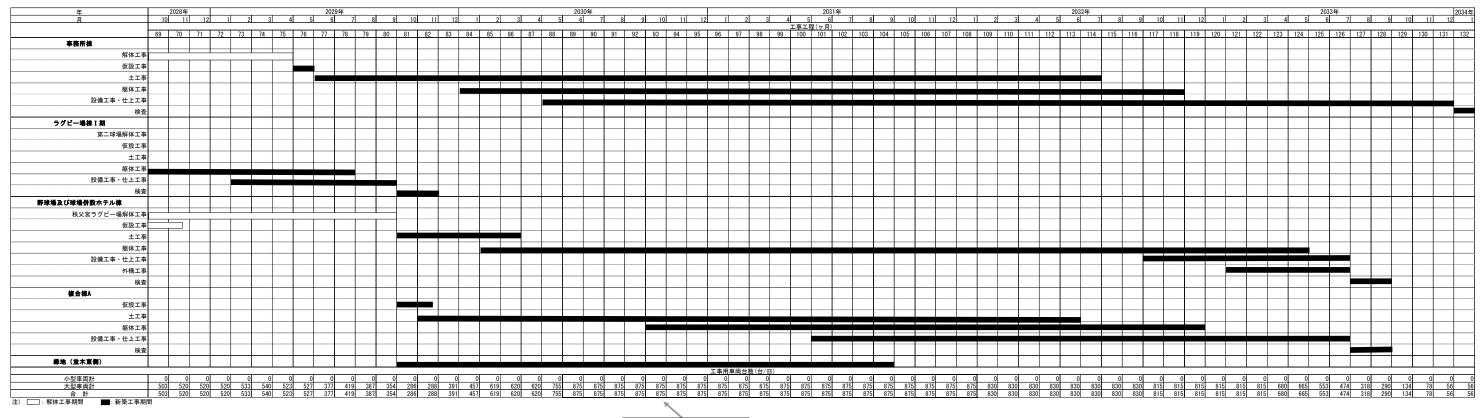


表 1-8(1) 予測時期②における工事用車両台数【変更後】



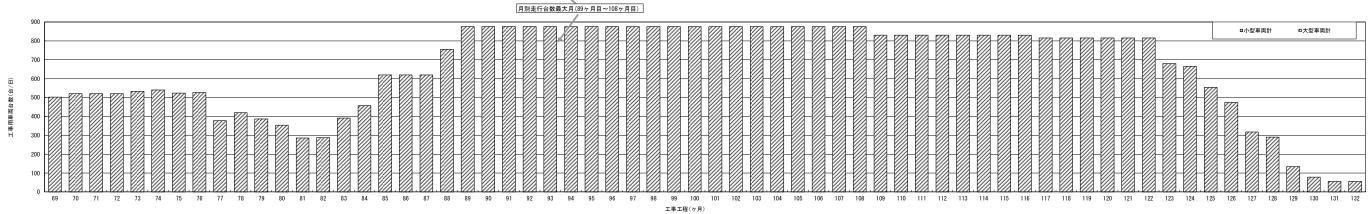
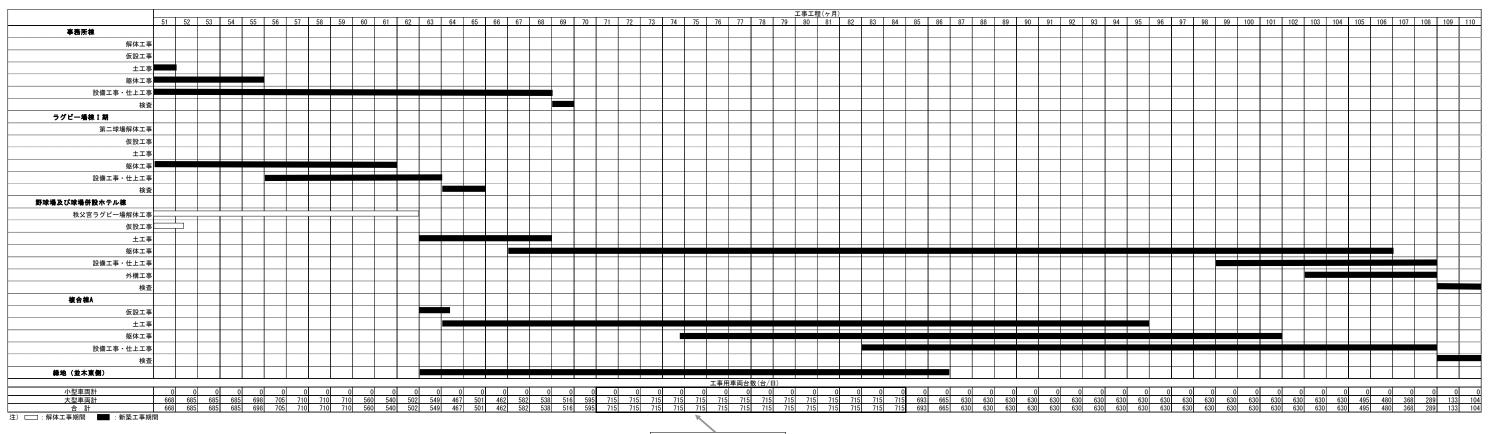


表 1-8(2) 予測時期②における工事用車両台数【変更前】



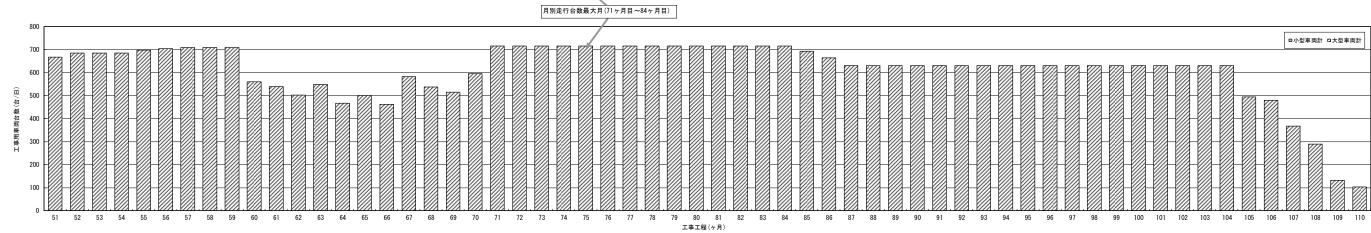
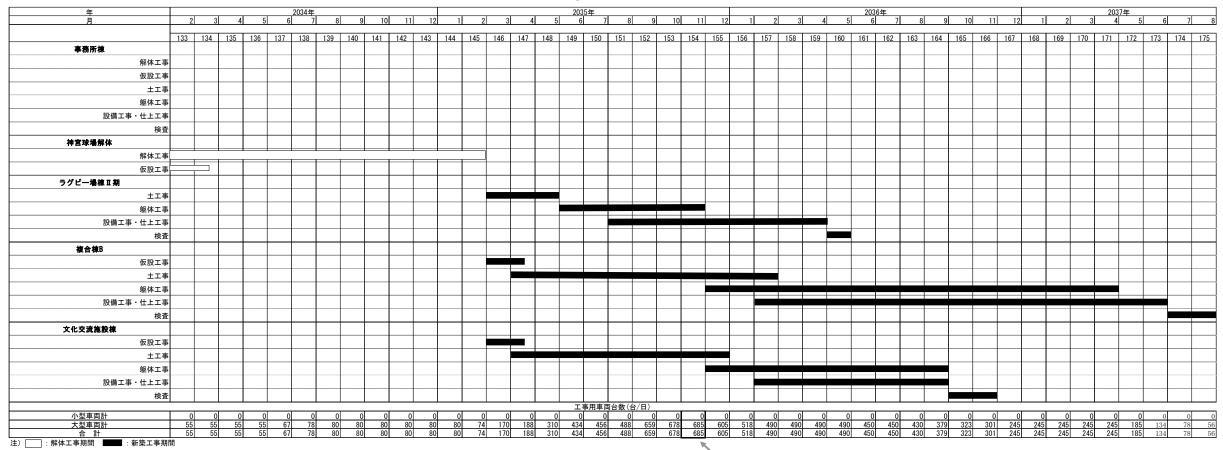


表 1-9(1) 予測時期③における工事用車両台数【変更後】



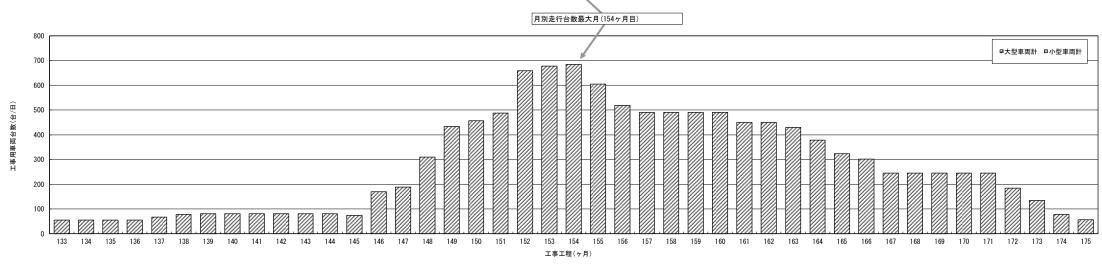
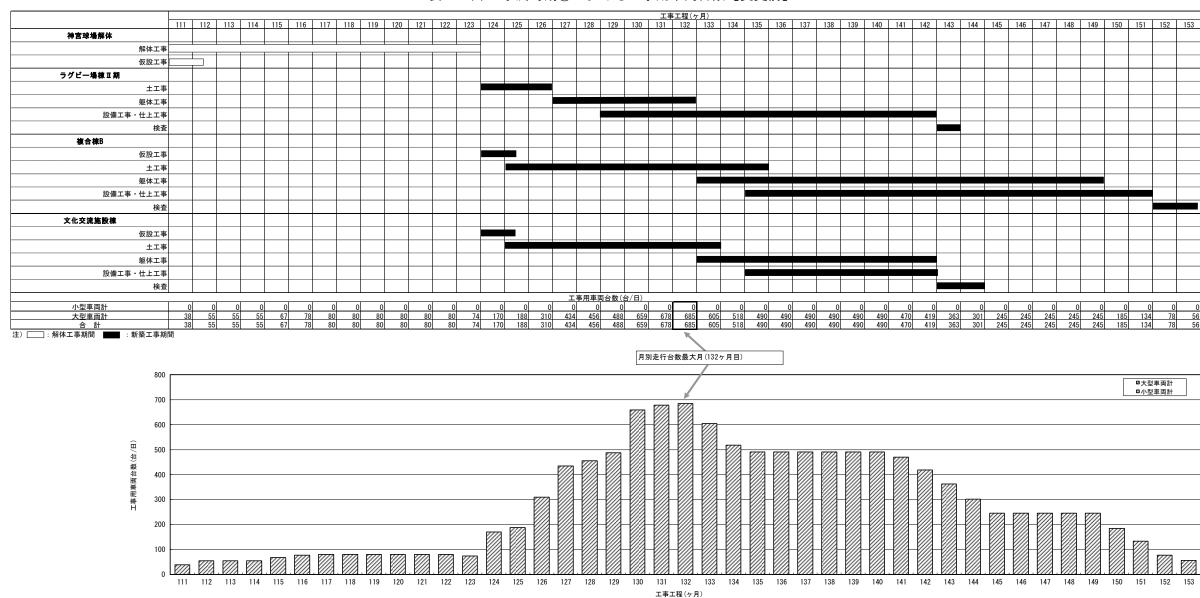


表 1-9(2) 予測時期③における工事用車両台数【変更前】



2. 全工事期間での大気汚染、騒音・振動が最大となる時期における予測結果

2.1 大気汚染

全工事期間での汚染物質排出量が最大となる時期の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の予測結果は表 $2-1(1)\sim(2)$ 、図 $2-1(1)\sim(2)$ 及び図 $2-2(1)\sim(2)$ に示すとおりである。

汚染物質排出量が最大となる時期は、変更前が二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに 55~66 ヶ月目であったのに対し、変更後は二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに 76~87 ヶ月目である。

二酸化窒素の最大着地濃度は、敷地境界南東側付近において変更前が 0.0085ppm であったのに対し、変更後は 0.0092ppm であり、バックグラウンド濃度 0.021ppm を加えた将来濃度は変更前が 0.0295ppm であったのに対し、変更後は 0.0302ppm である。また、将来濃度に対する建設機械の稼働に伴う増加分の割合(寄与率)は、変更前が 28.8%であったのに対し、変更後は 30.5%である。

浮遊粒子状物質の最大着地濃度は、敷地境界南東側付近において変更前が $0.0016 mg/m^3$ であったのに対し、変更後は $0.0017 mg/m^3$ であり、バックグラウンド濃度 $0.019 mg/m^3$ を加えた将来濃度は変更前が $0.0206 mg/m^3$ であったのに対し、変更後は $0.0207 mg/m^3$ である。また、将来濃度に対する建設機械の稼働に伴う増加分の割合 (寄与率)は、変更前が 7.8% であったのに対し、変更後は 8.2% である。

表 2-1(1) 建設機械の稼働に伴う大気質 (二酸化窒素) の予測結果

単位:ppm

	予測地点	①バック グラウンド 濃度	②建設機械の稼働 に伴う寄与濃度 (最大着地濃度)	③工事の施行中 の将来濃度 (年平均値) (①+②)	建設機械の 稼働に伴う 寄与率(%) (②/③)
変更後	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0. 021	0.0092	0. 0302	30. 5
変更前	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0. 021	0.0085	0. 0295	28.8

表 2-1(2) 建設機械の稼働に伴う大気質(浮遊粒子状物質)の予測結果

単位:mg/m³

	予測地点	①バック グラウンド 濃度	②建設機械の稼働 に伴う寄与濃度 (最大着地濃度)	③工事の施行中 の将来濃度 (年平均値) (①+②)	建設機械の 稼働に伴う 寄与率(%) (②/③)
変更後	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0.019	0.0017	0.0207	8. 2
変更前	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0.019	0.0016	0.0206	7.8

年平均値から日平均値(年間 98%値、2%除外値)への変換結果は、表 2-2(1)、(2)に示すとおりである。換算式は評価書と同様とした。

二酸化窒素について、全体工事期間のうち、建設機械からの排出量が最大となる時期において予測を行った結果、二酸化窒素の将来濃度(年平均値)を日平均値(年間 98%値)に変換した値は変更前が 0.051ppm であったのに対し、変更後は 0.052ppm であり、環境基準値(0.06ppm)を下回る。建設機械の稼働に伴う寄与率は変更前が 28.8%であったのに対し、変更後は 30.5%である。

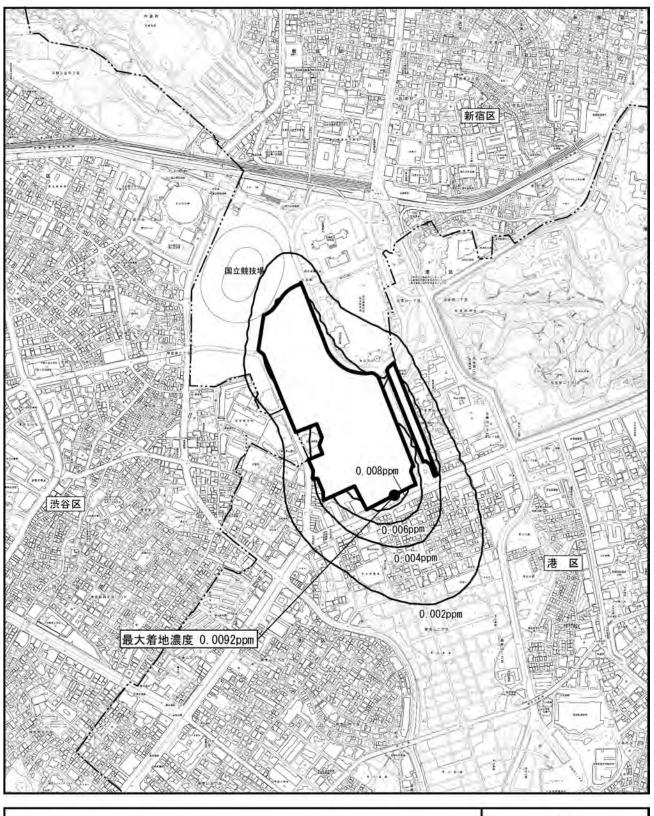
また、浮遊粒子状物質について、全体工事期間のうち、建設機械からの排出量が最大となる時期において予測を行った結果、浮遊粒子状物質の将来濃度(年平均値)を日平均値(2%除外値)に変換した値は変更前が 0.048mg/m³であったのに対し、変更後は 0.049mg/m³であり、環境基準値(0.10mg/m³)を下回る。建設機械の稼働に伴う寄与率は変更前が 7.8%であったのに対し、変更後は 8.2%である。

表 2-2(1) 建設機械の稼働に伴う二酸化窒素の影響の評価

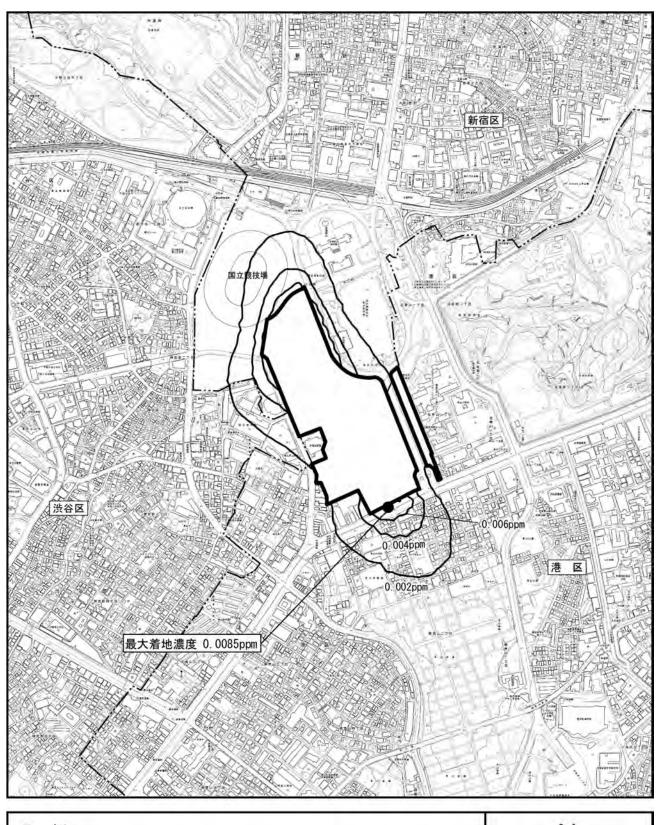
			将来濃度(ppm)		
	予測地点	年平均値	日平均値の 年間 98%値	稼働に伴う 寄与率(%)	環境基準
変更後	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0. 0302	0.052	30. 5	日平均値が 0.04 から 0.06ppm の ゾーン内または それ以下
変更前	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0. 0295	0. 051	28. 8	

表 2-2(2) 建設機械の稼働に伴う浮遊粒子状物質の影響の評価

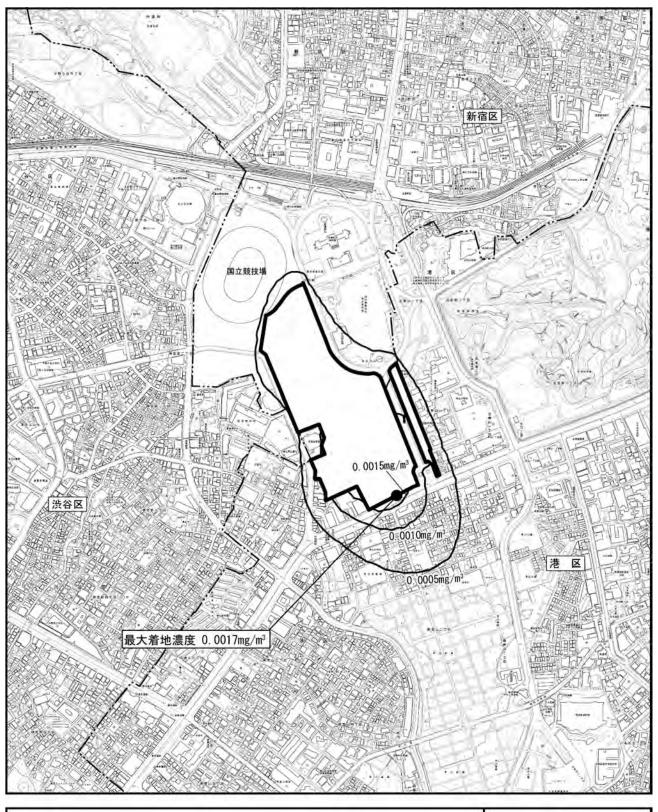
		将来濃度(mg/m³)		建設機械の	
	予測地点	年平均値	日平均値の 年間 2%除外値	稼働に伴う 寄与率(%)	環境基準
変更後	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0. 0207	0. 049	8. 2	日平均値が 0.10mg/m³以下
変更前	最大濃度着地地点 (敷地境界南東側)	0. 0206	0.048	7.8	



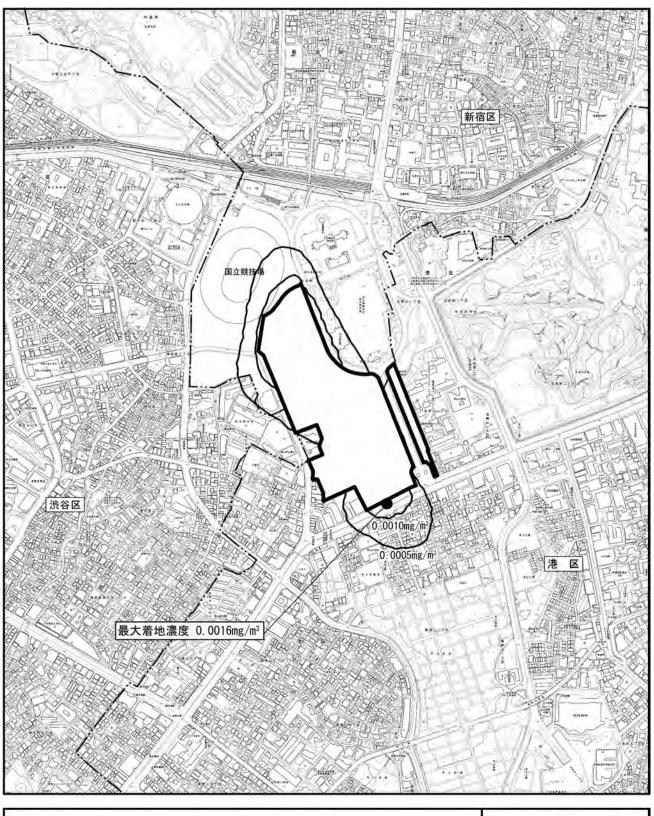














2.2 騒音・振動

全工事期間の騒音・振動レベル合成値が最大となる時期の騒音・振動レベルの予測結果は図 $2-3(1)\sim(2)$ 及び図 $2-4(1)\sim(2)$ に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う建設作業騒音・振動レベルが最大となる時期は、変更前は騒音が 27 ヶ月目、振動が 11 ヶ月目であったのに対し、変更後は騒音、振動ともに 76 ヶ月目である。

建設機械の稼働に伴う建設作業騒音レベル(L_{A5})は、敷地境界南側で変更前が 80dB であったのに対し、変更後も同様に 80dB と予測され、勧告基準値(解体時 85dB、新設時 80dB) を満足する。

建設機械の稼働に伴う建設作業振動レベル (L₁₀) は、敷地境界南側で変更前が 54dB であったのに対し、変更後は 55dB と予測され、勧告基準値 (解体時 75dB、新設時 70dB) を下回る。

